

日本水泳連盟
機関紙

水泳

第121・122号
昭和34年1月



水

No. 121&122 “SUIEI” Jan. 1959

NIPPON SUIEI RENMEI

(Amateur Swimming Federation of Japan)

昭和34年度主要行事日程予定表

2月21日(土) 22日(日)	日本泳法研究会	静岡・伊東温泉プール
4月11日(土)～12日(日)	第1回末弘記念日本室内選手権水上競技大会	東京・都営屋内プール
5月下旬～6月中旬	関東学生水球リーグ戦	東京・神宮プール, 日大プール
6月7日(日)	第31回早慶対抗水上競技大会	東京・神宮プール
6月14日(日)	第24回日・立・明三大学対抗水上競技大会	〃
6月21日(日)	第4回日大・中大対抗水上競技大会	〃
6月中旬	水泳指導者養成講習会	未定
	水泳指導者検定試験	〃
6月下旬～7月上旬	水泳安全指導講習会	各地
7月10日(金) 11日(土) 12日(日)	昭和34年度日本選手権水上競技大会	東京・神宮プール
7月20日(月) 21日(火) 22日(水)	第5回日米対抗水上競技大会	東京・神宮プール
7月25日(土) 26日(日)	日米対抗水上競技大会	大阪・扇町プール
7月25日(土)～28日(火)	第7回水泳教室	各地
7月29日(水)	日米交歓水上競技大会	呉市・二河プール
7月31日(金)	日米交歓水上競技大会	名古屋・振甫プール
7月31日(金)～8月2日(日)	第3回ジュニア水泳指導会	〃
8月8日(土) 9日(日)	地域別高等学校選手権水上競技大会	各地
	北海道高等学校選手権水上競技大会	未定
	東北	〃
	関東	〃
	中部	〃
	近畿	〃
	中国	〃
	四国	〃
	九州	〃
8月17日(月)～23日(日)	国民皆泳週間	各地
8月21日(金)～23日(日)	第27回日本高等学校選手権水上競技大会	浜松市・元城プール
8月25日(火)	第4回日本泳法競技会	未定
8月下旬	関東学生水球トーナメント戦	東京・神宮プール
8月下旬	昭和34年度日本選手権シンクロ競技大会	東京・目白プール
8月28日(金) 29日(土) 30日(日)	第10回全国勤労者水上競技大会	大阪・扇町プール
8月30日(日)	第5回日本中学校水泳通信競技大会	各地
9月5日(土) 6日(日)	第32回関東学生選手権水上競技大会	東京・神宮プール
9月11日(金) 12日(土) 13日(日)	第35回日本学生選手権水上競技大会	〃
9月20日(日)～23日(水)	第14回国民体育大会水上競技大会	東京・神宮プール・都営屋内プール

目

次

和33年の回顧

競泳—泳法と練習法に新風を……………	北村久寿雄…………	2
水球—先づ基礎技術から……………	彌田武…………	4
シンクロ—正確なスタンスを……………	串田正夫…………	6
第13回団体水上競技を開催して……………	高田秀夫…………	8
第3回日本泳法大会……………	多治見義長…………	9
第4回全日本中学校通信競技大会……………	栗村中丸…………	11
学童皆泳大会……………	内藤徹…………	12
水泳教室とジュニア指導会の報告……………	金田平八郎…………	15
日豪大阪大会観戦記……………	木村象雷…………	17
座談会【豪州のプロコーチにきく】……………		19
研究座談会「泳法とインターバル練習」……………	競泳委員会…………	21
泳法研究会報告……………	南佳恵…………	29
ペースの研究……………	坂本宗隆…………	31
ハンガリーの競泳技術……………	宮下充正…………	33
豪州はこうして強くなった……………	古橋広之進…………	34
記録からみた昭和33年の世界水泳界……………	坂本宗隆…………	36
FINA理事会報告……………	安部輝太郎…………	38
オリンピックは東京にくるか……………	古賀伸一郎…………	43
小学校用プールの建設について……………	深谷俊明…………	45
海外ニュース……………		51
代議員会議事録……………		60

昭和33年の回顧

競泳—泳法・練習法に新風を

北村久寿雄

追いつき追いこせ

アジア大会、豪選手招待など多事な昭和33年に競泳陣は多大の期待をかけた。飛躍的な進出を示す豪州勢にうち勝つには余程の努力を払わねば間にあわぬ。しかも世界の水泳レベルは年々向上して止るところをしらない。彼の後を追うばかりが能ではない。追いつき追いこすには、彼が一步前進する間にわれは二歩進まねばならぬ。この1年の間に、2年分の向上を成し遂げることが必要だ。アジア大会をワンステップに、さらに全日本にワンステップを積み重ねなければならぬ。競泳のあらゆる行事はこの基本方向に沿って計画され、競泳陣いな日本水泳界があげてこの方向に力を傾注することが必要であった。

アジア大会

“2年分を1年で”の努力は、まずアジア大会にそそがれた。冬、春の強化合宿や1～4月の東大プール利用など体協の財政的援助をえて水連幹部は、できる限りの準備態勢を備えてくれた。候補選手の多くは、前年のシーズンにひきづついて、できるだけの機会を利用して練習に精進していた。太田君以下のコーチ陣の努力で、選手達のアジア大会に対する盛り上がりはこの上もなく高まった。別府の合宿では、殆どシーズン最盛期のスケジュールが可能であった。とくに女子選手の練習は、男子と差別扱いをしないで、男子と一しょに同程度の激しいものとした。これまで難かしかった女子指導の問題もこれで解決した。女子選手もこの方針によくついてきたし、苦情があってもシャペロンの浦畑さんがよく世話してなだめてくれた。合宿の規律が極めて厳格な中にも明るさをもっていたのは、日頃学生を扱うになれた菊池さんの努力に負うところが多かった。永井君は雑用を引きうけてくれたし、真面目さと積極性でコーチ陣の活気の源となった。太田、赤樫のコンビも上々だった。選手に対するキビしい面は赤樫君が引きうけて、太田君の細心な指導はスムーズに進められた。各人それぞれの性格と能力

がよく調整されて、コーチ陣としての纏まりは最上のものといえた。

選手団のこのようなチームワークに対応し、水連幹部の選手団支持の態勢も一致して、感謝のほかなかった。水連全体の物心両面にわたったあらゆる努力が、選手団の最善発揮に集中された。新会長のもとに新しい体制で始めて迎える国際大会——勝負は問題にはならなかったが——に、水泳日本の最善の姿を見せようとする水連全員の意気込の然らしめるところであったに違いない。

アジア大会の成果は、第一線、後方の二つの態勢の賜であった。病気などの事故のために試合に支障をきたした選手は一人もなかったし、各選手とも殆ど自己のベストを記録した。とくに女子選手の向上は目ざましかった。女子400mリレーのつまづきは、逆にいってその高まりの一失であった。勿論、選手団としてはファウルでないことを主張した。しかし、国際試合ではそのような危げな引き継ぎは今少しの慎重さが必要だったかもしれない。女子選手が始めて目の前に見た世界記録更新の昂奮がその一原因であったかもしれない。完全であることのいかに困難であるかを、この時ほど痛感したことはない。

アメリカ遠征

アジア大会にすぐつづいてアメリカ遠征があった。ハワイの計画には、始めは水連も消極的だった。ハワイ大会のお祭り気分や、100m塩水プールでの試合が“追いつき追いこせ”の課題達成にどれだけの効果をもつか疑わしかった。本年に入って、これまでも日本水泳の多大の支持者であるロス和田さんから、ロスへの招待状が届いた。それには、好敵手ローズも出るというし、ハワイ行きに2名の選手も加えられるという。水連では協議の結果、このアメリカ遠征を、二歩前進のための積極的なステップに活用しようではないかということになった。単なる遠征ではなく、強化策の一環とし、とくにロスとハワイの試合の間の10日間余を十分な練習に活用する計画

で、固辞する村上氏を監督に説得した。出発に先立って、村上氏、早大監督小野氏と私とで山中のことを相談した。アジア大会の泳ぎからみても、山中は400に強い。しかし、1500で18分を切れないままでは、山中の自信にマイナスとなるではなかろうか。とくに、ロスで強敵ローズを破る可能性も十分ある。彼自身にとって、また日本水泳界にとっても、山中のアメリカ遠征の目標を1500におくべきだ。この意見に3人が完全に一致した。

残念ながらこの期待は実現しなかった。得意の400に傾注すればよかったのではないかと批判もあったろう。その後山中はコンラッツとも泳いだか、「ローズは本当に強いと思った」と彼はいう。彼にとってこれほど良い教訓はまたと得られまい。村上氏もまた多くを学んで帰った。“徹底的なインターバル練習”。これが彼のお土産だった。村上氏は連盟の幹部の誰れかれとなく、この際日本の練習法を根本的に検討しなければ、と熱心に説いた。彼自身、その率いる日大水泳部にインターバルを取り入れたことはいうまでもない。

連盟の現在のスタッフができたのは、32年春だった。競泳委員会も新しく発足したが、仕事の先例は殆ど残されていなかった。まず、平泳の泳法改正でマゴついてしまった。それ見よがしの批難にも甘んじた。しかし、委員会の中は互に協力して水泳強化を推進しようとする空気が高まった。選手養成の最大原動力は第一線の指導者にありという見地から、委員会運営の第一の方向を、第一線指導者の強化方策においた。この意味で、連盟が直接行う選手指導はむしろ副次的ないしは仕上げにしか過ぎないということであった。第二には、同じ趣旨からシード校監督として競泳委員になっている人達の現場の意見をできるだけ活用していこうという方針が立てられた。各大学の監督は、これをうけて各大学の立場をはなれて極力協力してくれた。例えば、アジア大会選手選考会が30分足らずの短時間でスムーズに決定をみたのも、単にアジア大会というだけではなく、このような一致協力の空気が連盟全体に反映したからに外ならない。水泳教室、ジュニアその他各種の行事にそれぞれ最適の指導者を配置できたのも、各大学の協力があつたからこそである。

委員会の仕事が広がるにつれて、一層つっ込んだ研究や実施が必要となった。村上氏が持ち帰った新しい事態に対応して、強化策の具体的推進のため、中学芦田、高校赤樫、大学北村、社会人村上、短距離太田とそれぞれ担当分野をきめて体制を整えた。

中学生・高校生の強化

競泳強化方策として中学生強化の方針は従来にも増し

て重要視した。前年の体験も取りいれて、今年の水泳教室は八地区に分けて実施した。連盟から派遣された指導員の努力はいうまでもないが、開催各地の関係者が教室実施の中心力になってくれたことは、大きな収穫であった。各加盟団体が自ら強化の実行者になること、これが現在の連盟の最大の眼目でもあるからだ。この傾向は次年度も一層おし進められるであろう。

32年に開始されたジュニア練習会は、33年は坂本(响一)君、芦田君などの手で一層軌道に乗せられた。ここでも、限られた時間と場所の中でできるだけインターバル的な練習方法が加味された。分宿最終日にコンラッツ、タルボットなどが練習場に来て、泳いだり話したりして、中学生に大きな感銘を与えた。

水泳教室も、ジュニアも逐年盛大さを加え、参加する先生も生徒も、練習会というよりは記録会、競技会の実質に重きを置いてきたようだ。この現状をそのまま運営面にとり入れる努力が、34年度から試みられてもよからう。

高校生強化策としてこの時期に二つの方策がとられた。一つは、日本選手権の直前、数人を選んで強化練習会をやることであった。赤樫君が高校生、村上君が社会人を担当、青年館に合宿して豪選手の泳ぎや練習を眼の前に見ながら、徹底的なインターバルを実施した。両君の綿密な計画と反省によってインターバルの成功と失敗の原因の一端が学ばれた。この結果連盟全体としてますますインターバルへの自信が強められた。この合宿には、坂本、太田、南などの諸君が連日詰めかけて、インターバルについて白熱的な討議を行った。

豪プロコーチ

豪州チームについては多くが語られているので、ここで再びいうことはしない。競泳委員会では、ギャスリー、タルボットを別々に囲んで座談会を開いた。両氏を通じてわれわれが学んだところは大きなものがあった。

日本にプロコーチが自立できる余地があるかないかは別にして、単なる趣味や犠牲的精神からではなく、業として行われるコーチだけに、豪州プロコーチの態度や見識の厳しさには心打たれるものがあった。われわれは日本の学生スポーツの現状を、すべて学校教育や社会的環境の責任にナスリつけるつもりはない。しかし、世界的選手の出現は、結局は選手個々人の積極的な練習態度と節制に根本的には関係している。コンラッツを除いた来日豪選手の全部が社会人であり、勤務時間の前後を利用した練習が彼等の今日の記録を生み出したことはまさに注目に値する。

タルボット氏は「われわれはロス・オリンピック当時

の日本水泳を学び、更に理論的にそれを強化した」とい
い、さらに「日本の水泳界は余りに経験にのみ頼り過ぎ
るのではなからうか」と指摘したが、たしかに耳の痛い
ことであった。村上氏がアメリカから持ち帰った教訓
は、いまや豪選手を目の前に見て誰もが疑をはさむ余地
のないものだった。かりにアメリカ遠征、とくに豪選手
の来日がなかったとすれば、日本の水泳界は果して新生
面に向う機会を掴んだであろうか。大げさないい方かも
しれないが、まさに日本水泳界の一転機ともなったので
ある。

或る先輩は「今頃インターバルと騒ぐのはおかしいで
はないか。メルボルンで既に分ったことだよ」という。
しかし、水泳を強くするのに必要なことは、知識ではな
く、知識を実現に移すことである。むしろ、率直にいっ
てわれわれはメルボルンで知ったことがなぜ実施されな
かったかと疑わざるを得ない。われわれは日々の練習や
試合を通じて絶えず学ぶところがある。問題はその学ん
だものをどうして実現させるか、とくに日本水泳界全体
として第一線指導者にまで普及実現する態勢にあるかど
うかである。

新泳法、インターバルの普及

日本選手権に引き続いた日本高校には、赤檜君と私が
開催地高知に行き、映画を利用して豪選手の泳法を紹介
し、インターバルの効果を説いた。勤労者大会や国体な
どがさらに普及の好機となったことはいうまでもない。
11月中旬には、全国から約50名の第一線の指導者の方々
に上京してもらい、第1回の指導研究会を開いたが参加
者の熱心さは誠に予想外だった。

泳法、練習法に対する知識において、中央、地方の格
差を埋めることが現在の水連が考える水泳強化の一大眼
目である。と同時に、第一線指導者の体験を水連の指導
の中に生かすことが、水連の指導を現実的なものとし、
日本水泳界全体の向上をもたらすものである。指導者の
研究会は今後ますます強化しなければならない。

しかし、始めての催しであっただけに、今後の改善を
感ぜられた点も少くなかった。参集者の多くは、水連の

断定的な具体策を期待していた。しかし、水泳にとって
机上の空論は害こそあって益はない。水連としては泳
法、練習法について基本的な考え方を紹介し、それを具
体的にどう活用するかは第一線指導者の体験によらねば
ならぬ。これはあらゆる社会現象がそうであり、とくに
スポーツの世界では「かつ学びかつ体験する」ことのほ
かはない。こういう意味から、参集者の中に、経験の交流
をもっと取り入れるべきだとの意見があった。確かにそ
の通りであった。おそらく、新しい練習法や泳法につ
て指導者の経験が重ねられた後の研究会では、そのよう
な経験交流が主な部分を占めることとなるであろう。

「インターバル、インターバルといい過ぎではない
か」とヒヤカされることもある。しかし、日本水泳界全
体をローマに集中するには、そのような少しは誇大とみ
えるスローガンが必要である。しかも現実の方向転換が
どの程度実現するであろうか。いや、来年はもっとも
と声を大にして「泳法、インターバルの普及」が叫ばれ
なければなるまい。

むすび

「よくもここまで仕事をつづけられたよ」と或る競泳
委員は、すぎし年を回顧しながらいった。あるいは現在
のわれわれには過重だったかもしれない。打つべき手
は、次々と遅れ勝ちだった。仕事に追いつく懸念でふ
り返って検討するひまがなさ過ぎたようだ。ようやくこ
こまでできたのは、会長、専務理事をはじめとする連盟幹
部の助言と指導並びに各地の第一線指導者の援助があ
ったからにほかならない。1960年のローマ大会もいよいよ
近づいた。日米対抗という大仕事が眼前にある。

古賀、長谷、古川、石本など各種の第一人者を社会に
送り出した日本の水泳界は、その補充とともに彼らを追
いこす選手を創り出さねばならない。現実に飛躍はな
い。一步一步の努力が積み重ねられねばならぬ。競泳委
員会は輝をしめ直し、更に重大な決意と抱負をもって前
進しなければならない。関係各位の助言と協力を望むや
切である。
(筆者は本連盟競泳委員長)

水球——先づ基礎技術から

鵜 田 武

昨年の永球界をふりかえって見る時に、アジア大会に
優勝し、ローマ大会に参加することができるようにな
ったことが一番大きな成果であったと思います。

第2回アジア大会に敗れてその機会を失っているわれ
われにとって、ローマ大会参加ということは誠に喜ばし
いことに違いないのですが、水球界の現状を考える時に

一番大きな問題は、日本の水球が基礎技術の鍛錬と基本に関する知識に欠けていることです。難かしい高級な技術に取り組むよりまづ第一に基本から出直す必要があることを痛感するわけです。

メルボルン大会を視察し、国際学生スポーツ大会及びオランダ遠征等から教えられたことは、強いチームであるということは、優れた基礎技術の持主であるということでした。そうした意味からも今般のアジア大会には泳力、出足、フットワーク等の基本に時間をかけて練習日程を組んで準備して行ったのですが、実際にこのような基礎技術の鍛錬には、われわれにとっても又選手自身にとっても、これでよいという限度のあるものと違い、色々の体験から道を拓いて行かねばならない困難な問題が多くあると思います。

では、ここで基礎技術を二つに分けて考えて見たいと思います。即ち個人技術と団体技術とに分け、前者に

(表-1) 水球の競技々術に関する規準量

No	規準の名称	等 級		
		スポーツ・マスター	1級	2級
競技者に関するもの				
1	泳 力			36秒
	50m	—	—	—
	100m	1分04秒	1分12秒	1分25秒
	400m	5分25秒	5分50秒	
2	遠距離スロー			
	強い手 (きき腕)	25m	20m	16m
	弱い手	16m	12m	
3	目的えのスロー			
	強い手 (ゴール半分に命中)	15m 5回のうち4回命中	10m 同左	
	弱い手 (〃)	10m 5回のうち4回命中	7m 同左	
ゴールキーパーに関するもの				
1	泳 力			
	50m平 泳	41秒	43秒	45秒
	50m自由型	32秒	34秒	38秒
2	水からの飛び出し			
	両方の手で一度に	1.25m	1.20m	1.10m
	右及び左手を交互に	1.35m	1.30m	1.20m

これを規準としてゴール・キーパー4名、フォワード、バック共12名計16名をテストした結果が表-2です。

→は泳力、ハンドリング、浮力、遠投力、コントロール等の如きものを含み、又後者にはタイミング、ゲームセンス、コンビネーションといったようなものが含まれております。まづ前者については33年9月21日から28日迄の強化練習の間にどの位の力の差があるかを試みて見ました。丁度ソ連の水球の競技々術に関する規準量という実力テストのデータが私の手に入りましたので、候補選手にこれを実施して見た次第です。

(表-2)

No	規 準 の 名 称	等 級		
		スポーツ・マスター	1級	2級
競技者に関するもの				
1	泳 力			
	100m	3名	9名	
	200m	4名	5名	3名
2	遠距離スロー			
	強い手		6名	6名
	弱い手	1名	4名	7名
3	目的えのスロー			
	強い手	1名	11名	—
	弱い手	—	—	—
ゴール・キーパーに関するもの				
1	泳 力			
	50m平 泳	4名		
	50m自由型	4名		
2	水からの飛び出し			
	両方の手で一度に		4名	
	右及び左手で交互に		4名	

表-1と表-2を見ますと、大半が1級の部類に属しているような有様で水球の第一歩が如何に弱体であるかが解ると思います。水球をやる上に泳力、遠投力、コントロール、浮力等は非常に大きな要素であり、これらを見無視して高等技術に取り組んでいくことは全く無意味であると思います。やはり日本が水球を強くするには、基礎技術の向上から入って行くのが順序です。これを見無視して高級な技術と取り組むことは危険であり、強敵にあたればすぐに馬脚を表わすのは明らかなことです。

次に33年の競技会を中心にして反省すべき点を挙げて見ますと、

- (1)ゴールキーパーの強化。
- (2)防禦技術の育成と強化。
- (3)正確でかつタイムリーなパスワーク。

- (4)試合中無駄な反則が多い。
- (5)泳力及浮力の強化。
- (6)審判技術の一本化。

大体この6つ位が特に育成、強化して行かねばならないことでしょう。ゴール・キーパーと防禦技術は日本の水球の最も劣っている点であり、これを強化していくことが最急務であります。又次に正確なそしてタイムリーなパスワークを育成していくことです。

以上の3つは現行ルールの水球において、相手より優位に立つことにより常にうけて立たねばならないので、どうしても防禦技術のウエイトが大きくなり、相手の攻撃を受けとめて逆モーションをついて速攻にうつるケースが非常に多くなり、ここに正確でタイムリーなパスが必要となってくるのです。

又ゴール・キーパー及びデフェンスの技術を向させることがひいてはフォワードの攻撃技術を向上させることになる。現在フォワードが弱いということはゴール・キーパー及びデフェンスが弱体であるからフォワードは勞せずして攻撃することができるためであるといっても過言ではありません。又(4)の無駄な反則の多いということは中盤で相手を捕えて離さないことや、ゴール前でやたらにボディ・タックルを繰返していることをいうので、これはそれをするプレイヤーの技術を停滞せしめるもの

である。即ち相手をリードする自信がないためにこのような手段に出るのだと思いますが、これは大いに改めてもらいたい点であります。これも防禦技術の向上にとまって自然にへってくると思います。

次に(6)の審判技術については、オーディナリー・ファウルとメジャー・ファウルの見解を統一してもらいたいことと、ルールに忠実にファウルを遠慮なく摘発してもらいたいことです。

今後ますます国際試合に出場することが多くなろうと思いますが、審判技術もやはり国際試合において行われている方法と同じようにやってもらいたいと思います。特にメジャー・ファウルについては少々甘いのではないか。思い切ってどしどし退水させるべきでしょう。余り笛が多すぎると試合が止ってしまわないかという声もありますが、ファウルしてゲームが中断するのはプレイヤー及びコーチの技術的責任であり、これは彼等の研究と努力によって解決すべき問題で、レフェリーはあくまでルールに忠実に、反則は反則としてとりあげるべきです。又そうすることが正しい水球技術が生れて来る原動力となるのではないかと思います。ローマ大会を控えて今後日本の水球界が益々向上発展することを願う次第です。

(筆者は本連盟水球委員)

シンクロ — 正確なスタントを

串 田 正 夫

昭和33年度の日本選手権シンクロ競技大会の参加者数を前年度に比較すると、4チーム28名から7チーム50名と増加し、また種目別に見ると次の表に見るとおりソロは半減したのに反してチームが倍になってきている。

区 分		32年度	33年度
参加チーム数		4 (28人)	7 (50人)
種目別	ソ ロ	10	5
	デュエット	7	9
	チ ャ ム	4	10

これは、ソロに出場する自信は無いが、チームならどうかやれるようになったので出場したということに基因する。普及の過程としてよい傾向であって、シンクロがようやく根をおろしてきた証左といえよう。

競技会の結果は、首位を全部東京ウォーター・スプライト・クラブが獲得したが、総体的にはマンネリズムに

落ち入った感がないでもない。ソロでは飲田紀子さんの“牧神”が一段と光っていた。相変らず音楽の選択、構成、スタントも上々のできたと思うが、米国選手に比較して、スタントの創意工夫が乏しいようだ。手馴れたスタントだけの構成では最早、物足りないところまで見る者の眼は肥えてきていることを忘れてはならない。その他の人達は、まだ基礎スタントの不正確が眼につき、折角の構成、表現を自らこわしている。スポーツ競技である以上、やはりスタントの正確さが、すべてに先行しなければならない。パレーレッジで脚を上げる動作だけでも、その線の美しさに見る者を感服させるだけの修練をつむ心懸けが欲しい。デュエットで2位に入った浜寺水練の起用、岡田組が所々創作スタントを組み入れたのが目立ったが、充分自分のものにしきっていないのが惜しい。チームは、全体的に表現がマンネリズムにおちて何かのびなやんでいるように見受けられるが、その中で東京ナイアズの“河童泳げば”は構成、演技共に新味があり、

新傾向を生み出した点は大きな収穫であった。しかし、個々の演技が未熟で、全体として練習不足が目立ち、決勝で6位に落ちたのは惜しかった。

日米対抗シンクロ競技において、両者の点は相当接近して来たが、現在のスタントのレベルでは、これ以上縮めることは困難のようだ。米国は33年度から、スタント競技を正式に取り上げているから、日本においても、34年度からスタント競技を試みたいと思っている。

12月14日、オランダのアムステルダムで第1回の欧州選手権大会を開催するとの通知がきている。ルールは、現在FINAに改正提案しているルールにしたがって行われるとのことだ。このルールには、規定種目としてスタント競技が行われることになっている。ローマオリンピックの際のFINAの総会で決定されることになっているシンクロのルールは、規定種目(スタント競技)と自由演技種目との二本立になると思う。このような情勢からも34年からスタント競技を是非取り入れたいと思っている。

33年の日本選手権にチームの参加が倍加したが、これを普及の証拠とし、手放しで喜んでいるわけには行かない。34年は半減するかも知れないのが現況である。というのは現在のチームは、本当に同好者の集りで、女性にあり勝ちな団体行動のむつかしさ、また経済的理由もあげられるが、端的に言ってさしあたっての希望がないことが大きく原因している。例えば、オリンピックにに参加できる望みがあるとか、(オリンピック種目にとりいれられることは、現在の情勢では非常に困難であるが)せめて、世界選手権が行われ、いつかは海外遠征のチャンスがあるとか、そういった希望をもつことができれば、選手としても張り合いが出て自然にシンクロ人口を増加して行くことができよう。

しかし、すでにパンアメリカンゲームには正式種目として入っているし、33年欧州選手権が行われる等、国際競技の気運は高まってきている。また、1964年のオリンピックが東京に決定すれば、エキシビジョン・マッチとしてシンクロを行うことも又可能である。その時は日本は開催国であり、立派にやりとけたいと願っている。

(筆者は本連盟シンクロ委員長)

「シンクロ・ニュース」から

この「シンクロ・ニュース」というのはシンクロ・スイミングについてのアメリカにおける唯一の雑誌であるが、その10月、11月合併号に昨年来日した米国シンクロチームの監督であるマージ・ダイニン嬢が報告記事を載せている。そのうちお世辞半分とはいえ、われわれシンクロ関係者には大変嬉しいことが書いてあるので、日本

に関する部分を要約して紹介して置きます。

8月14日、日本古来の雰囲気につつまれた非常に美しい椿山荘に招待され、日本水泳連盟会長はじめ日本のシンクロ選手と共に楽しい時を過ごすことができたとは忘れられない思い出である。日本水泳連盟の育成指導のもとで日本のシンクロ・スイミングが急速に進歩をとげていることについては前号に書いたとおりである。8月、14、15日、日米対抗シンクロ競技を行ったが、結果は、米国チームが全種目に、1、2位を占めたけれども、その差は非常に小さくなっており、私は、決して日本のシンクロ・スイミングを見くびってははいけないということ、すべての指導者に忠告したい。1957年AAUチームの1員として日本にきたことのあるベッティ・ピッカー嬢の言葉によれば、日本は、この1ヶ年間に驚くべき進歩を遂げている。近き将来において、国際選手権が開かれるであろうが、その時までにはもっと大巾に進歩するであろうし、米国と首位を争うようになるのではないかと思う。

日本水泳連盟及びシンクロ関係者の方々が私達のために、思い出深い暖かい歓迎の宴をもうけていただき、また、日本選手権シンクロ競技会におけるエキシビジョン、日米対抗シンクロ競技等を開催して下さったことについて心から感謝する。

特に串田正夫氏(N.S.R.シンクロ委員長)はじめドクター高橋、高橋夫人、川田友之氏並びにJOKR-TVに深甚の謝意を表したい。

過去数年AAUチームが、日本を訪れるたびに、日本水泳連盟、並びに日本のシンクロスイマー達によって、行き届いた心づくしの歓待を受けてきた。そこで私は、次のことを皆様に提案したいと思います。日本のシンクロスイマーのチャンピオンを米国に招待することは、彼等の進歩のため、また、厚意にむくいるために、よい方法だと思ふ。われわれのゲスト達に米国の厚意を示す最もよい機会となるよう、その実現を願ってやまない。

(串田記)

石本選手にヘルムス杯

米国のヘルムス体育財団は毎年六大州の最優秀アマチュア・スポーツ選手にヘルムス杯を贈っているが、1958年度のアジア州の代表選手に我が石本隆選手が選ばれた。アジア州のヘルムス杯は殆ど我が国の選手が独占しているが、水泳では1949年の古橋選手、1957年の古川選手につづいて石本選手が3人目である。

第13回国体水上競技を開催して

高 田 秀 男

国体を終えてホットした気持ですが、ここに至るまでのことを考えめぐらして見ると全く夢のようでもある。

昭和22年に隣県の石川県において第2回国民体育大会が開催された時、某氏と「スポーツの世話をしている間に何とかして富山県において国体をやりたいものだね」と語り合ったことがあった。10年の月日が流れた今日、その夢が実現されてどうにか「モデル国体」として無事に終えた時、全く感無量のものがあつた。

富山で国体を行なうことは一面全く冒険なようでもあつたが、今その国体を顧り見て述べたいことは山ほどあるが、ここに二、三のことについて述べ皆さんの御高見など伺えるなら幸と思う。

昭和32年7月5日に第13回国民体育大会の会場が富山県に決定されたが、夏季大会に関しては幾多の問題が山積し、日本水泳連盟では左記の4項目を挙げて体協に開催不能の書類が提出されていたのである。

- (1) プールが建設されていない。
- (2) 国体開催前年度にビッグゲームの開催がなかった。
- (3) 北陸は9月中旬より急激に気温水温が下る。
- (4) 水泳協会が弱体である。

このことを知った時少からず噴激を覚えたがよく考えて見てこの項目を解決しないことには、富山県は永久に水泳に恵まれないことになり、万難を排してもやり通すと深く決心するものがあつた。

そこでまづ(1)のプール建設こそ先決問題であるし、(2)は国体開催までにビッグゲームを開催すればよい。(3)については期日を早め施設を整えること。(4)は協会員が真験になって協力すればできないことはない。かくすれば総てが解決のできることで絶対に不可能ではないと信じ、日本水泳連盟の開催不能も曰く因縁がありそうに考えられ、古語に獅子は可愛い我が子を産れて3日目に千丈の谷へ突き落すという親心と知って勇氣百倍したのである。

わが協会の会長は常に「やればできる、できないのはやらないからだ」と役員選手を励まされ、我々は今こそ一致協力して何としてでも国体だけはやらなければならないと決心した。

国体を目標に4項目を達成するための企画と計画が立案されて、皆が死物狂いで頑張った。私などこのことによって職を失うとも一生の思い出にこの仕事をやり遂げ

たいと念じていた。

政府は国体のためのプール新設は認めないというので、福野町営プールに飛込を作ろうとか、色々問題があつて仲々決らなかつた。最後に日水連の配慮によって32年7月15日松沢一鶴氏の来県をいただき、吉田知事との話合いの結果、プール建設の如何が国体開催可否の鍵であることを知つたのである。そして遂に7月28日に待望のプール建設の起工式が挙げられ、日水連より深谷氏が来県祝辞を述べられ、やれやれこれで数年間のびのびになっていたプール建設も一朝にして解決をみ、第一項目が達成した時は嬉し涙で胸が一杯であつた。そのプールも33年6月8日アジア大会出場選手数十名を迎えて盛大裡にプール開きを行うことができたのである。

(2)に関しては、33年8月2、3日の両日中部インターハイを行い大会運営並に役員訓練に水連の勝村氏より御指導御教示をいただき、なにかしら大会に対する自信を得ることができた。

(3)についてはプール施設が充実したことと大会期日を一週間早めたことによって一応解決したのである。

次に(4)だが審判については技術である以上訓練しなくては上達しないし、理論と実際に分けて数回の講習会を開き、各部会を行い各個人のデーターを取って適材適所に役員等の任務等を決定した。只今年から飛込みと水球が都道府県対抗競技となつたので、本県においては全く未知な競技なので、これには一番困難を極めたが幸に各方面の指導と協力を得た。又各係の主任は昨年より何回となく上京し大会に加わり、各役員より懇切丁寧に御指導を頂き、殊に勝村氏には何回となく来県願つて国体に関する直接の御指導を受けたことを深く感謝している次第である。

富山は総てのことが零から出発したので、すべてが幼稚だったが、意気だけは盛んで全力を尽して準備を進めていった。

今、4日間に亘る大会を思い出して、小出大会委員長の講評の言葉を借りるなら「本大会の成果は水の祭典として凡ゆる階層の水の若人1500人を集め4日間に亘り、日本新記録12、大会新記録73、大会対記録4を生んだということが如実に示しております……」と。

第13回国民体育大会夏季大会が日本水泳史上に1頁を刻み、そして何等大過なく無事に終了し、「下手」だと

か「まづい」とお叱りを覚悟していたのに、却ってお褒めの言葉までいただき全く感激した。この美しい感激こそ一生の思い出として、我々大会にたづさわった者ばかりでなく富山県民の心の中に永久に残ることと思う。

国体をやって見てさまざまなことを体験したが「やればできないことはない。できないのはやらないからだ」ということと人の「一念」は恐るべきものだという事である。

螢の光の演奏と大合唱におくられて各県のプラカードが一つ一つ会場から消えて行く閉会式の光景がまざまざと目に映るようだ。

国体を無事に終了して、樋口会長を始め水連の各役員並びに全国から我等の富山に集ってこられた諸兄に対して心から感謝申し上げると共に、これからゆっくりと将来の富山を考えたいと思っています。

(筆者は富山県水泳連盟理事長)

第 3 回 日 本 泳 法 大 会

多 治 見 義 長

第3回日本泳法大会は斯界待望のうちに、8月25日奈良県天理プールで盛大に開催された。

1, 2, 3 回と回を重ねるにつれて、その内容は充実さを加えていったのであるが、過去2回の大会を顧みつつ今度の大会を眺めてみよう。

第1回大会 何分始めてのことであり、半信半疑な気持を幾分持ちながら、開催したのであるが、意外にも各流派の家元、師範の方々が参集された。そして他流派に対する旺盛な研究心は、プールにおいては老骨に鞭打ちながら一日中実技を行い、又夜は口舌を尽して更けることを知らないという熱心さ振りを眼のあたり見たので、これならばと本大会の前途に、明るい希望と強い自信を持ったのであった。

大会は泳法競技と各流各派の演技審査を主として行なったのであるが、最初の大会であるため、審査方法に不備な点などがあったが、総体的に熱のあるしかもなごやかな雰囲気の中に盛大に行なわれたのであった。大会終了後の話であったが天理で行なう大会の中では観覧者が多数集まる大会の一つであるとのことで幹部連中は心から満足の様子であった。

これによって私達は自信と将来への明るい希望を持つことが出来得たのである。この第1回大会によって得た経験によって改良すべき点を研究し、今後に対する万全の策を期したのである。

第2回大会 第2回大会は第1回より更によき大会にするべく白山委員長の尽力により、学習院時代より水泳に関心を持っておられ、小堀流水術を体得された三笠宮殿下をお迎えして開催することができた。このため本大会は前回に比べて段違いの成果をあげることができたのである。大会当日は炎天下にも拘らず三笠宮殿下は開会式から御出席になるという御熱心さであった家元の方々

と一しょに昼食をとられた殿下は「自分もプールで泳ぎたくなった」と話されたそうであるが、おそらくスタンドの観らん者も、演技者と一しょに泳ぎたくなるような気分の大会であった。このように第2回もまず申し分のない大会であったといえよう。

第3回大会 昨年は愈々第3回を迎え、連盟幹部としては大会の中に中か意義あるものを加えて行きたいと種々協議した結果、伝統ある日本泳法を外国の人々にも見せると同時に、外国の古式泳法ともいふべきものでもあったらみせてもらうといういわば特殊な泳ぎの交換会の様なものを取入れたらとの意見も出たので、白山委員長がその実現に努力したのであったが、これは種々困難が伴うので、ついに実現出来なかった。又地方にある昔からの独特な泳ぎや、各流派が数千人の生徒を集めて講習している盛大な実況などを、テレビにのせて全国の人々にみってもらうという計画もあり、種々折衝したのであるが、現在では天理がテレビ中継上極めて具合がわるいということで、これも実現は出来なかった。

8月24日(大会前日)には午前中早くも遠く東北、北陸から九州に至る各地の家元、師範と選手諸君が自信ある泳ぎを胸に秘め、天理市高安の宿舎に入った。午後はプールにおいて、一同自由に泳法の研究や総仕上げをやって明日にそなえた。年一度の大会であり、又各流派が全国から集まる唯一の機会なので、自由練習は何時の間にか他流派との交換とか研究に変わり、熱心な人々は時間の過ぎるのを忘れるような状態であった。夜は各流派の代表者が集まり、最後の打合せや、将来の発展のための相談等を行なった。翌25日大会当日は不幸にも台風17号の襲来となった。雨はそれ程でもないが、風は可なり強く大会気分を大分そがれてしまったのは返すがえすも残念。しかし熱心な観衆はスタンドにつめかけて演技をみ

まもった。

プラカードを先頭に各選手が入場大会々長、委員長の挨拶によって大会は始まった。最初の泳法競技予選は参加者76名の多数であり、雨の中でもあったので、スタート台側にて各流各派の演技審査が上野審査委員長の指揮により始められた。この予選にパスした男女各15名の選手諸君が午後の決勝に出場するのである。参加者は総て各流派の選抜者だけあって、何れもその技は立派なものであった。決勝は全く実力伯仲で文字通りの熱戦であったが、審査の結果、男子優勝者は兵庫県の渋谷武選手、女子優勝者は岡山県の中村邦子選手に決定した。

終って本大会の華である各流派の家元と師範による名人芸や、シンクロ及び公開演技が、荒天中に行なわれ、午後5時半全競技を無事終了した。

この大会において泳法競技では男女共6位迄の入賞者に賞状と賞品が贈られ、各流各派の演技では前述の通り参加者全員が優秀とみとめられたので、全員に水練証が授与された。

むすび 本年で3回の経験をえた本大会であるが、参会者の非常な熱心な努力によって、回毎に盛大となりつつあり、近い中に我が国の主要な大会の一つになるであろうことは言を俟たない。

日本全国に昔からあった泳法を守り、そして今後の発展のために研究をつづけておられる関係者の方々は、日本水泳界の大なる力であると共に、又その礎であるといえよう。かくてこそ、日本の水泳が世界に誇り得るものであることを確信する。

古い伝統をもつ我が国水泳界が、世界的水準を保つためには、その基盤としての日本泳法を益々発展させることが肝要であろう。私はこの目的のために指導する人も、される人も、あらゆる努力を払われるよう御願いたい。
(筆者は本連盟理事、普及委員)

第3回泳法競技入賞者

男子			
優勝	小池流	(芦屋)	渋谷武
2位	神伝流	(東京)	小平桂一
3位	"	(")	津久居良忠
4位	水府流太田派	(東京)	藤井護
5位	清紀流矢野派	(石川)	石田健
6位	小池流	(芦屋)	小堀忠彦
女子			
優勝	神伝流	(津山)	中村邦子
2位	神伝流	(岡山)	西村君子
3位	"	(")	小橋利江
4位	小堀流	(京都)	本田倭文子
4位	水府流	(東京)	中島郁子

6位 小堀流 (京都) 山上アヤ子
各流各派演技審査

神伝流	(岡山)	吉田克利
"	(")	光本毅
岩倉流	(和歌山)	鷺の森清一
小堀流	(京都)	秋山健太郎
"	(")	新井信男
"	(")	岩佐長次郎
"	(")	中潔
"	(")	谷口多一
"	(")	高橋恒一
"	(")	石川善一郎
"	(")	黒内猛夫

水練証授与者

水府流太田派	(東京)	鈴木藏治
小池流	(芦屋)	中田成志
神伝流	(広島)	石本松人
山内流	(臼杵)	小田英夫
岩倉流	(和歌山)	森島喬一郎
"	(")	山中潤一郎
"	(")	保田知二郎
"	(")	木村穰
"	(")	西山修
"	(")	湯川美都夫
神伝流	(津山)	池上献一
"	(")	本島大道章
"	(")	宝官章
"	(")	垂井一成
"	(")	有本功
"	(")	藤原公
浜名湾		伊藤喜次郎
"		中山寿一
小堀流	(京都)	滝本初子
神伝流	(広島)	小野文子
神伝流	(岡山)	大浜郷利
神伝流	(倉敷)	小野正典
神伝流		中村章
野島流	(浜寺)	土田順藏
野島流	(浜寺)	池田誠藏

横地森太郎氏ポルトガルへ

かねてポルトガルから水泳コーチの派遣方依頼があったが、先般早大O・Bの横地森太郎氏が決定、34年6月同国に赴任した。予定は2年。言葉はよく通じないが、ゼスチュアで結構用は足りている由。異境で活躍する同氏に心からの応援をおくりたい。

第4回全日本中学校通信競技大会

栗 村 中 丸

第4回全日本中学校通信競技大会は、気づかわれた天候もどうやら持ち直して8月31日全国一斉に開かれたが、今回は宮城県を除く全加盟団体参加という開始以来の充実ぶりをみせたことは本大会に寄せる関心の程がうかがわれるとともに本部担当者としても甚だ喜びに堪えないところであった。このことは、昨年からの懸案であった中体連当局との共催問題も無事解決し、更に朝日新聞社の非常な好意により本年から各府県毎の決勝3位までの選手には賞状とメダルが寄贈されることになったこととは、大会運営上大きなプラスとなったことはいなめない事実であり、加えて各加盟団体の運営担当者各位の熱心な御努力に負うところ大なるものがあることは申すまでもない。

大会運営上の問題点については後記することとして、今回は記録的に大きな収穫があり、昨年度に比し格段の躍進を見せた。すなわち、日本中学新記録が6（男2，女4）、大会新記録が10（男5，女5）の新記録が作成されたが、中でも男子100m背において伊藤（中京・愛知）が吉田喜一の1:14.0を破る1:11.3の好記録を出し、男子200平では松本（大入島・大分）の2:48.2を初め女子でも江坂（椋山・愛知）の5:30.3等の傑出した記録が多数出たことは次代を背負うホープとして甚だ心強いものがあった。その外女子200m平の田中（九度山・和歌山）の3:06.4、同じく100mバタ森下（鳴門一・徳島）の1:24.9、400mメドレーリレーにおける椋山（愛知）の5:36.5等は何れも中学新として堂々たる好記録であった。

大会成績は男子（学校順位）では、中京（愛知）が155.5点（昨年は112点）をもって優勝したが、これで同校は第1回以来連続4回優勝の偉業を達成したこととなり府県優勝の愛知県と相まって水泳王国の名にふさわしく、その成果はまことに輝かしいものがある。同校をしてこの輝く連続優勝をもたらした理由としては、もち論選手諸君の不断の努力にう負ところが大きい、長年にわたってこれら若い中学生諸君を育て上げた指導者の方々の真摯な努力があったればこそと考えるものであり、その御労苦に対し深く敬意を表したい。また名門桜宮（大阪）が第1回、第2回と同様133.5点の大量得点をもって第2位に躍進したことは、第5位の鶴谷（大分）、第6位の輪島（石川）、第7位北沢（東京）等の

躍進とともに賞されよう。

女子は昨年に引き続き椋山（愛知）が192.5点の大量得点をもって2位九度山（和歌山）に100点近くの大差をつけ優勝したが、同校は7種目中100mバタと200m平の種目を除く5種目に1位を占めるとともに100mバタを除く4種目に2名（申込制限）共10位以内に入賞するという充実さを見せ断然他校を圧した。また成女（東京）が65.5点をあげ初めて5位に躍進したことは、東京都が府県順位で2位に躍進したことともに大いに賞されよう。

ところで記録的には前記の通り多数の記録が続出し男女共高校級の記録が出たことは大いに将来が期待される。その外中学新こそ出なかったが、大会新記録を出した男子400m自の富沢泰公（鶴谷・大分）の5:06.3は第1回大会が5:16.0、第2回、5:11.3第3回、5:13.9に比較すれば格段の進歩であり、100m背泳2位浜砂（上穂北・宮崎）の1:13.1（大新）も見逃し得ない記録である。また、男子400mメドレーリレーで1位となった中京（愛知）の4:59.8も従来の中学記録が昨年天理で行われた水泳教室の中学選抜選手によって作られたことを考えれば単独チームとしてはまことに優秀なものといえる。全般的に前年度に比べ記録の向上が著しいが、自由形は各種目とも頭打ちの感がある。特に100mでは10秒の関門を割った選手が36名を数えているが、層の厚さは誇れても1位が依然4秒合に止まっていることは短距離泳者の貧困を物語るものであり一層の奮起を望みたい。また、800mについても今回は10分合が1名（10:44.8）山田忠信（安宅一石川）だけで第1回の2名、第2回4名、第3回2名に比し劣勢を免れない。またこれは毎年のことではあるが、全種目を通じ50位以上にランクされた者は殆ど関東以西が占め東北、北海道地区は100m自で2名、800m自2名、200m平1名計5名に過ぎない。今後の努力を切望してやまない。

女子は前述のとおり4つの中学新が生まれ本大会をして一層意義あらしめたが、なかでも400m自で江坂が出した5:30.3は自己の持つ5:45.1を15秒も上廻る好記録であり、また400mメドレーリレーで1位となった椋山チーム（大岩、浜中、田村、江坂）の5:36.5は2位以下を大幅に離し昨年同チームが作った中学記録を20秒も上廻る好記録であって、単独チームとしては立派なものであ

ろう。その他女子は大会新が5を数え近年まれに見る充実振りであったが、2、3の飛びぬけた選手以外は記録的にも格差が大きく強化策には十分検討を要しよう。

次に本大会を顧みて、2、3気のついた点を述べてみたい。いうまでもなく通信競技大会は、水泳教室、ジュニア指導講習会とともに中学生の強化対策の一環としての重要行事であり、年々成果をあげつつあることは関係者の等しく喜びに堪えないところである。しかしながら本年来日したコンラップ少年のあの超人的活躍振りをはじめアメリカにおけるエイジ・グループシステムによる一連の10代選手の強化策等世界の水泳国は今やオリンピック制覇を目指し鋭意準備を進めつつあるとき単に画的、地域的競技会等を開催するだけでは今後これらの国々を超越することはできない。抜本的な強化対策をたてるべきであるという意見もある。これらの意見はまことに傾聴すべきものであり、もっともなことであるが水連全体の問題として慎重に検討を要すべき性質のものであるからここでは触れない。ただ周知のとおり中学スポーツに対する文部当局の種々な制約、規範が現存していることおよびその他プロコーチ制の可否、水泳理論の確立、健康管理の強化、特に欧米人の体位と日本人少年のそれとの差は余りにも大きいこと等々幾多研究を要すべき問題が多いことを考慮すべきではないか。これらの諸問題を今改善することはできないが、まずなすべきことは現状を直視し早急に実情に即応した体制を立てローマへの道を講ずべき要があることは言を俟たないであろう。

次に大会運営等について希望なり反省なりを若干述べてみたい。

1. 日程の問題であるが、昨年の経験から、加盟団体の希望、新聞社側の意向をきいた上、8月31日とした。この日は全国勤労者水上と関関学生大会とが重なったが、放送陸上競技(NHK)と全国高校水上競技大会とは避けえた結果、各加盟団体の役員の方々には大した御迷惑はかけなかったように思う。
2. 今回は事前に新聞社側とも数次にわたる会合を開き地方支局等からの通信その他運営上の細部につき協議した結果、誤報等もなくすべてスムーズにいったことは幸いであった。また本部要員も昨年より人員を増し集計事務に手馴れた人達に参加を願ったため例年より早く午後7時には終了した。
3. 25mプールを使用した府県が4県あったができるだけ50mプールに統一して実施致したいと考えるので今後とも御協力をお願いする次第である。
4. 申込書の本部への送付が所定期日(今回は8月26日)までに集らず事務処理に支障を来すことが多いので期日必着をお願いしたい。

本大会も今回で4回に及び回を重ねる毎に成果を増しつつあることはまことに御同慶に堪えない。本大会において活躍した多数の中学生諸君特に優秀な記録を出した諸君はもち論近い将来日本水泳界のホープとしての期待が課せられていることはいうまでもない。しかしながら、折角の素材も不断の練磨と研鑽がない限り進歩と発展はない。この意味で本大会の成果を無意義に終らせることのないよう関係者各位の一層の御指導と御後援とを切望する次第である。最後に後援して戴いた朝日新聞社ならびに中体連、加盟団体の関係各位に深甚な感謝の意を表したい。(筆者は本連盟記録委員長)

学 童 皆 泳 大 会

内 藤 徹

国民皆泳週間と学童皆泳大会

国民皆泳週間は「老いも若きも、みんなで泳ごう、海でも川でもプールでも」をモットーに、全国の各水泳場で水泳人総出の下に、多彩なプログラムを展開しようとの趣旨で設けられたのである。そしてこの週間行事の中心を8月20日とし、この日には学童皆泳大会を全国で開催して、大いに水泳熱を高めよう計画された。

この学童大会は昭和13年8月に、神宮プールを中央会場として行ったのが最初であるが、中継放送により全国一斉に行われる行事としては、全く画期的なものであ

た。当時戦争中ではあったが、文部省の積極的な後援もあって年と共に盛大となり、参加者の数も次第にふえて大会の趣意が国民の間に徹底し、水泳普及の上に予期以上の成果を収め得たのであった。各府県で実施した成績は一旦文部省で取り纏めて水連本部に報告されたものであるが、昭和16年第4回大会の記録によると全国の参加数が、38,600人に及び、4万近い学童がこの大会で技を競ったことが明らかになっている。又初等科高等科各男女別に、第20位までの成績を発表して表彰したのである。何れも好記録を示し、向上のあとも歴然たるものがあり、水泳技術の進歩が如実に現われて来たことを、お

互に喜び合ったものである。

然しこの大会も戦後は中止するのやむなきに至り、10年間の空白時代が続いた。漸く復活の気運になって、新しく第1回を開催したのは昭和28年である。その後回を重ねて33年は第6回を挙行することになった。

第6回学童皆泳大会の概況

中央会場は千代田区立一橋中学校プールに設定し、参加校は千代田区立の全小中学校20校で、児童生徒約500名の選手が参加して行われた。開会式は午前10時、皇宮警察本部音楽隊のファンファーレに始まり、樋口水連会長と灘尾文部大臣の挨拶、続いて大会役員と学童代表の試泳、これには水連側から会長と普及委員、地元は千代田区長、教育委員の他に学校長も加わり、選手代表と共に隊列を整えて泳ぎ喝采をあびた。その間に東京と松本を結ぶ二元放送が開始され、村瀬千代田区長と降旗松本市長の対談も織りまぜて、国民皆泳の歌の斉唱で式は終わった。この20分間の実況はNHKにより全国に放送されたのである。

次いで学童の競泳演技に移り、小中学校男女別に夫々学校対抗のリレーや試泳、それに小学生の個人競技が記録会の形式で進められた。この間文相を初め木下都教育委員長や多数の来賓は、選手の力泳に感激して拍手を送り、父兄は子供と共に盛んな声援をおくる情景が見られた。模範演技には水連から日本泳法や救助法・大学選手の競泳、女子学生のシンクロ等を出演したが、場を埋める観衆に少なからぬ感銘を与えたのである。

閉会式は賞状と参加選手全員に記念品の授与があって、多くの来賓から祝辞が述べられプログラムの全部を終了した。

今度の中央会場の選定には、普及部の小林高志氏に負うところが多く、区長や区教委の了解と協力が得られたほか、東京と松本との二元放送を行うについても、再度現地に赴き奔走されたので円滑に運ぶことができたのである。今回は水不足のため、学校プールの使用を7月25日まで禁止されて練習ができず、開催も一時は危ぶまれたが、幸に千代田区立の学校は20校全部にプール施設があり、又丸山九段小学校長を中心とした体育部会の協力と支持があったので、現場の教師の熱心な指導と相俟って、予期以上に立派な成績をあげることができた。

中央会場と地方会場

戦前は本大会の中央会場を神宮プールと定めて実施する方針をとったが、復活後はなるべく都内或は周辺地区で、適当な場所を選定して行うことになり、第1回は神宮プール、第2回を府中市菅プール、第3回は鎌倉市ブ

ール、第4回杉並区菅プール、第5回武蔵野市菅プール、第6回を千代田区と、毎年会場を変えて来たのである。

次ぎに中央会場を設定するについての交渉経過と、その地域の特殊事情及び影響について、前2回の例を比較して考察して見たいと思う。

第4回杉並会場

杉並区の場合には水連を代表して松沢一鶴氏が交渉に当られた。相手の高木区長は、日本記録をすべて記憶している程の水泳ファンで、昭和26年以来区内の小中学校に継続事業として、毎年二つ乃至三つのプールを建設しているだけに即座に快諾され、又そのための予算10万円もその場で一決するという具合に、この会談は極めてスムーズにいった。

既に7月も中旬を過ぎていたが、教育委員会を中心に区役所の総力をあげて準備に着手し、学校側も進んで協力することになった。

大会当日には臨場の清瀬文相が老体をいとわず、快く子供等と試泳される場面もあって、一層大会の意義は深められた。一方の区内の小中学校の23プールでは、近くの学校が集まって地方会場として夫々盛大に挙行され、これによって一般区民の水泳熱は一段と高まりプール建設も益々順調に運ぶようになった。

第5回武蔵野会場

武蔵野市の場合にも、松沢氏が荒井区長に会って交渉された。この市長もスポーツに非常に理解があるので喜んで承諾され、早速市議会に諮って市制10周年記念行事の一環として市民水泳大会と併せ行うようにしたいとの回答を得た。

社会教育課が主となり、準備を進める段取りになったが、夏休みに入る直前なので学校側は大変迷惑そうにして、協力態勢が中々整わない。そこで公立の小中学校15校、それに私立の成蹊学園からも体育主任を集めて協議することとした。各学校には水泳指導の経験者が少い上に、プールのあるのは成蹊学園だけで、公立の学校には皆無というみじめな状態であった。それでまづ指導者の講習を計画し、参加選手の練習を助けることにして、普及部では何回か出張して指導に当り、辛うじて大会を開催するまでにこぎつけたのである。市菅プールは50mで10コースの立派なものであるが、当日は横の25mをロープで仕切って使用することにした。

大会には松永文相が自から進んで試泳に参加され、水連や地元の方達も大勢模範泳法等に出場されたので賑やかになり、学童の水泳も無事に進行し、思ったより盛大

に行うことができたのは何よりであった。

なおこの大会が契機となり、プール建設が促進されて、市立の小学校と中学校に各一カ所何れも合同使用の目的で立派なプールの完成を見たことは、大会にもまして一大収穫であったと喜ばしく思う。

以上に述べたことで、中央会場の設定には、その土地の諸種の条件が異なるに従い、夫々難易がある訳であるが、結果から見ると、みな何らかの好結果をもたらしたといえるのである、然し地方会場は如何であろうか。その報告に接していないので、批判する資料がなく、この点を誠に遺憾に思うと共に、主催する水連として、早急に対策を講じなければならないことを痛感する次第である。

学童水泳の強化策について

国民皆泳主義は、理想としては結構であるが、これを達成するには、何としても学童水泳の徹底を図ることが先決である。この学童皆泳主義を本連盟の一大方針に掲げて、鋭意努力されたことは、30年の歴史を顧みれば誰にもうなずけることと思う。

昭和5年度から文部省の共催で、水泳指導者の講習会が始まり、次いで指導者資格検定制度の確立、並びに水泳指導者協会の誕生と、まず指導者の養成と指導者団体の育成強化がなされたのである。

次に小学校水泳連盟を各府県毎に組織する計画を立てて、中央との連絡を容易にし、児童の水泳能力の増進を計ると共に、小学校の競技会を、各加盟団体指導の下に、開催する運びにしたのである。又昭和11年度には、小学校児童奨励規定が設けられて直ちに実施、そのために競技会は漸次盛んになり、記録の向上も、年毎に目立つようになった。

昭和15年度の報告によると、当時6年生であった古橋君の記録が、100m自由形に1分12秒6、200mに2分42秒4を示し、今なお小学校の日本記録として残されている。これは現在の中学二年生の最高記録に匹敵するであろう。このことで小学生の中から優秀な選手が現われる状況下にあったことを、物語るものといえるではなからうか。

戦後の新教育は、子供の基礎学力を低下させたという声が高い、と同様に、水泳の能力も確に低下し、後退しているといえる。プールは年々増加するのに、却って低調である。この傾向は何に基因するのであろうか。

今やこの前進をはばむ幾多の原因をつきとめて、これを打開し、往時に返す努力をする時ではないかと思う。それには、まづ小学校の現場の意見を聴く機会を作り、そこから出発して、徐々に進めることが、強化策の一つになると信ずるものである。(筆者は本連盟普及委員)

機 械 計 時 一 年 の 経 験

宍 道 洋 一

通称デカトロンといわれるこの機械をアジア大会、日本選手権等の主な競技会で使用してみた結果は大体次の通りである。

- (1) ピストル、ショットで一斉に動き出すから、始動の個人差というものが全くない。
- (2) 親時計が唯一つであるから時計による誤差がない
- (3) $\frac{1}{400}$ 秒まで計れるから、審判機としても高性能をもっている。ただし、実際の着順判定には殆ど利用されなかった。これは考慮されて然るべきものと思う。
- (4) 必要計時員はストップウォッチの場合と同じ。即ち1コースにつきボタン3個で必要人員は3人だから。これは機械化という建前からいって少しおがしいが、タッチと同時に自動的に時計が止るように改善されるまでは仕方がない。
- (5) ストップ・ウォッチより0.2秒位記録がおちる。というのは人間がピストルの火で時計のボタンを押すより、ピストルショットによって感ずる機械の神経の方が鋭敏だから早く動き出すことが原因。選手はピストルの音を耳できいてモーションを起すのだから、ストップ・ウォッチの方も耳できいて、ボタンを押した方が合理的だという考え方もある。
- (6) 永年の経験により計時員の中には、ストップウォッチを手に握っていないと感じの出ない人がある。レースを見乍ら、自分の担当コースのタイムをみていた今までの習慣が強く残っているらしい。
- (7) 途中時間が計れない。特に途中正式計時のときに人手がいる。これは今の機械を多少改造することによってできそうな気がする。
- (8) 例えば、59秒26の場合、59秒は数字で示されるが2は $\frac{1}{40}$ 秒のランプで、6は $\frac{1}{400}$ 秒のランプで読むようになっているが、これが全部数字で表われれば、非常に読み易いから、早く結果が発表できる。
- (9) もっと小形で軽量だとよい。どこにでも簡単に持ち運べるから。
- (10) 一揃い300万円は何としても高価である。普及形としてもっと廉価なものではないものか。
- (11) タッチをみてボタンを押すが、押すと同時に機械の時計も止ったということが、その場で計時員に分るようにしたい。

以上は使用者として一方的に述べた意見である。

(筆者は本誌編集委員長)

水泳教室とジュニア指導会の報告

金 田 平 八 郎

第6回水泳教室

実施状況

第6回水泳教室は次のように実施されたが、画期的多数の参加があり質量とも充実したものであった。その特長を要約すると、

- (1)期日はブロックの事情で多少の違いがあるが、7月下旬に一斉に実施した。
- (2)会場をブロック別にした。但し、九州地区は実際の参加は今年あまり多くなかったが、計画当初多人数が予想され、男女別に会場とした。
- (3)参加者数は第5回の164名に対し、今回は308名と約倍に近い数を示した。

後 記

対外試合等に種々の制約をうけている現在の中学生を、何とかして強くしたいということで設けられたのがこの水泳教室であるが、その目的達成のために、実施方

法上の研究課題として、

1. 高校のようにブロック別大会とし、記録を主として実施すべきか。
2. 文字通り水泳教室として指導に重点をおくべきか。
3. 1. 2 を兼ねたものとするべきか。

等について充分検討されなければならない。又本連盟では、水泳教室をジュニア指導会と関連性をもたせ、より積極的なものとしたいと努力している。

第2回ジュニア水泳指導会

期 日 昭和33年8月13～17日

場 所 明治神宮プール、中大プール、東大プール、横浜ゴム・プール、京華学園プール

参加者

男 子

自由形(14名)

葉室正孝(隈府) 小谷佳弘(桃山)
五十嵐義雄(中京) 浅野興一(中京)

地 域	期 日	開 催 地	記録会日	主任コーチ	参 加 人 員										
					自由形		背 泳		平 泳		バタフライ		計		総計
					男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
北海道 東北	7.23～7.27 (5日間)	秋田市菅八橋 プール	7.27	佐藤 幸男	5	4	3	0	3	0	3	0	14	4	18
関 東	7.29～8.1 (4")	水戸市東町県 管プール	7.29 8.1	長沢 二郎	13	9	6	5	7	6	5	3	31	23	54
中 部	7.26～7.30 (5")	名古屋市豊田 プール	7.29	加藤 茂	13	7	6	6	7	4	4	5	30	22	52
近 畿	7.27～8.1 (6")	和歌山高野口 プール	7.30	田中 寧夫	20	10	10	6	11	6	6	4	47	26	73
中 国	7.21～7.25 (5")	広島進徳学園 プール	7.24		5	6	5	2	4	4	4	3	18	15	33
四 国	7.25～7.29 (5")	愛媛松山東高 校プール	7.28	阪本 响一	8	2	3	5	3	4	3	3	17	14	31
九 州 (男)	7.21～7.26 (6")	久留米プール	7.26	原 保夫	21		7		10		4		42		42
九 州 (女)	7.21～7.26 (6")	瀬高プール	7.26	黒佐 年明		6		2		3		1		12	12

星野善二(白浜) 富沢泰公(鶴谷)
 崎久保道博(御浜) 浜口征二(浜田二)
 青野勇二(美須賀) 山田忠信(安宅)
 富田順雄(桜山) 渡辺恒夫(美須賀)
 吉見行雄(北沢) 中納頼昭(桜宮)

背泳(8名)

伊藤圭祐(中京) 荒木誠士(隈府)
 光本市郎(八代三) 庄司守(和田)
 合田佳弘(高知) 松田史剛(修道)
 角間三雄(輪島) 中本明邦(川下)

平泳(9名)

池田純溢(東) 松本健次郎(大入島)
 菊地修二(首里) 山本浩(日本学園)
 青木健一(高知) 前田誠二(館山二)
 大井弘次(御浜) 勅使河原正義(小金井一)
 背戸義登(国泰寺)

バタフライ(8名)

水野信正(東海大附) 高木幸三(中京)
 竹内次也(岡崎) 遠藤英康(文京一)
 粕谷敬(和田) 井島誠(北沢)
 乾野正之(桜宮) 青山勝利(竜洋)

女子

自由形(6名)

江坂君子(椋山) 黒田椋子(成徳)
 岩野栄美子(豊田前) 坂本初江(鷺浦)
 斎藤弘子(椋山) 矢野桂子(八代一)

背泳(8名)

大岩香苗(椋山) 藤原由美子(竹原)
 松本信子(川下) 丹野弘子(椋山)
 門田トミ子(土佐) 林かほり(桜山)

岸赫子(椋山) 松永涼子(嘉島)
 平泳(4名)

浜中翠(椋山) 生田敏子(清水丘)
 河合和美(淑徳) 山本憲子(八代二)

バタフライ(7名)

森下多恵子(鳴門一) 服部千賀子(椋山)
 田村重子(椋山) 富田悦子(椋山)

合計 61名

後記

現行制度の中学生にとっては、全国の精鋭が一同に会し、共に泳ぎ、技をきそい、又、お互いに研究し合うということは、このジュニア指導会において他にないのである。インターミドルのない今日においては極めて貴重な存在といえよう。

幸い、ジュニアに参加したすべての人達が、その価値を高く評価し、全員が次回の参加に意欲的であることはまことに喜ばしい。以上の他、本指導会において、特に、印象にのこったことを列記すると、

- 1 コンラッズ等豪州選手の泳ぎを競技を通じて、又、ジュニアの練習プールにまできてもらって目のあたりその泳ぎぶりを見たこと。
- 2 日本最高の競技会である日本選手権会大を直接見学し、且つ、その中で記録会をもったこと。
- 3 何よりも水泳を愛し、献身的に中学生の指導に努力している全国の指導者の人達と、水連幹部が直接意見を交換し合う機会を持てたこと。
- 4 豪州コーチの持参したフィルム及び最新の水連のフィルムによる映画会をもったこと。
- 5 第1回に比し、今回は故障者が非常に少なくなったこと。(筆者は本連盟競泳委員)

日 課

時 間 割 (曜日)	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	備 考
8月 13日 (水)							集合	開講式	練習 全員 (京基プール)			夕食	入浴		就寝・消燈			18時 から 指導者 座談会 映画(ネトライの もの)
8月 14日 (木)	起床 朝食 体操		練習A班(身大プール) 練習B班 (横浜JLプール)			昼食	休養	練習A班(自由バタ) (京基プール)	練習B班(背泳平泳) (中大プール)			夕食	見学 全日本水上 (神宮プール)		帰宿	入浴	就寝・消燈	
8月 15日 (金)	起床 朝食 体操		練習B班(身大プール) 練習A班 (横浜JLプール)			昼食	休養	練習A班(自由バタ) (中大プール)	練習B班(背泳平泳) (京基プール)			夕食	映画 (大学館)		入浴	就寝・消燈		
8月 16日 (土)	起床 朝食 体操		練習 全員 (京基プール)			昼食	休養				神宮プール 出発		記録会 (神宮プール)	見学	帰宿	入浴	就寝・消燈	生徒の休養時間に 座談会 (本部 附添)
8月 17日 (日)	起床 朝食 体操		見学 折談(ジャンプス泳場予定)			昼食	休養	神宮プール へ出発			17:20 より	記録会 (神宮プール)	見学 20:50 まで		解散			

来日した豪州選手



テリー・ギャザコール(平泳)



主将 ジョン・デビット(自由形)



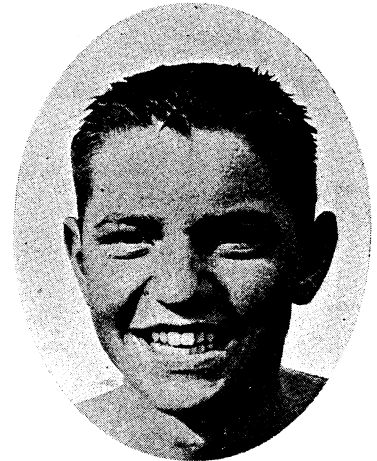
ジョン・モンクトン(背泳)



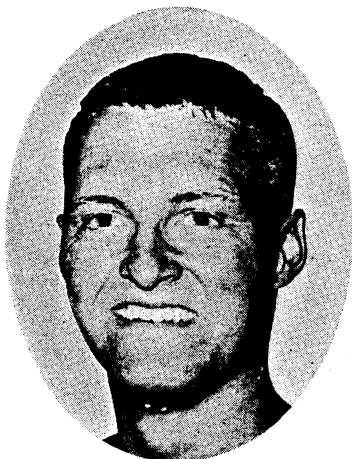
ブライアン・ウイルキンソン(バタフライ)



ゲリー・チャップマン(自由形)



ジョン・コンラツズ(自由形)



ジョン・ヘイヤーズ(背泳)

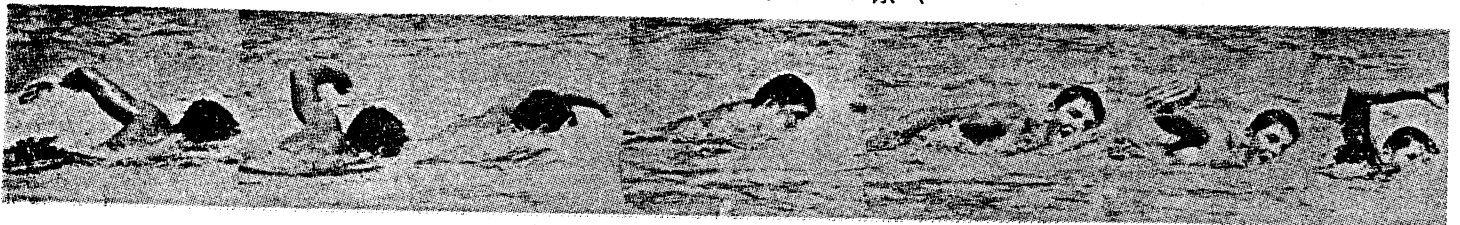


ゲリー・ウインラム(自由形)

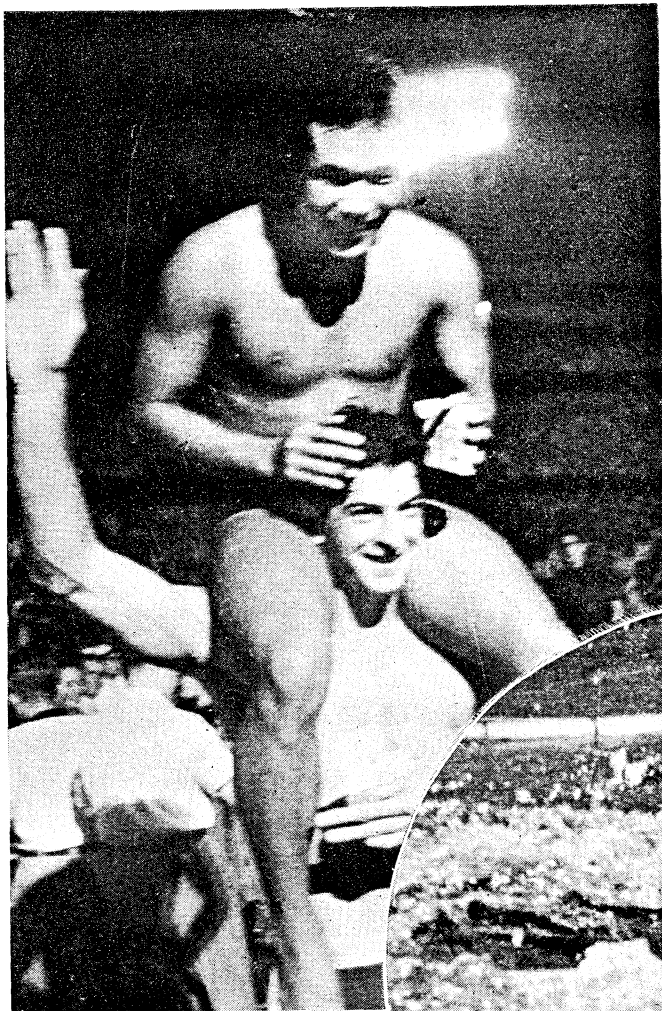


ジョフリー・シプトン(自由形)

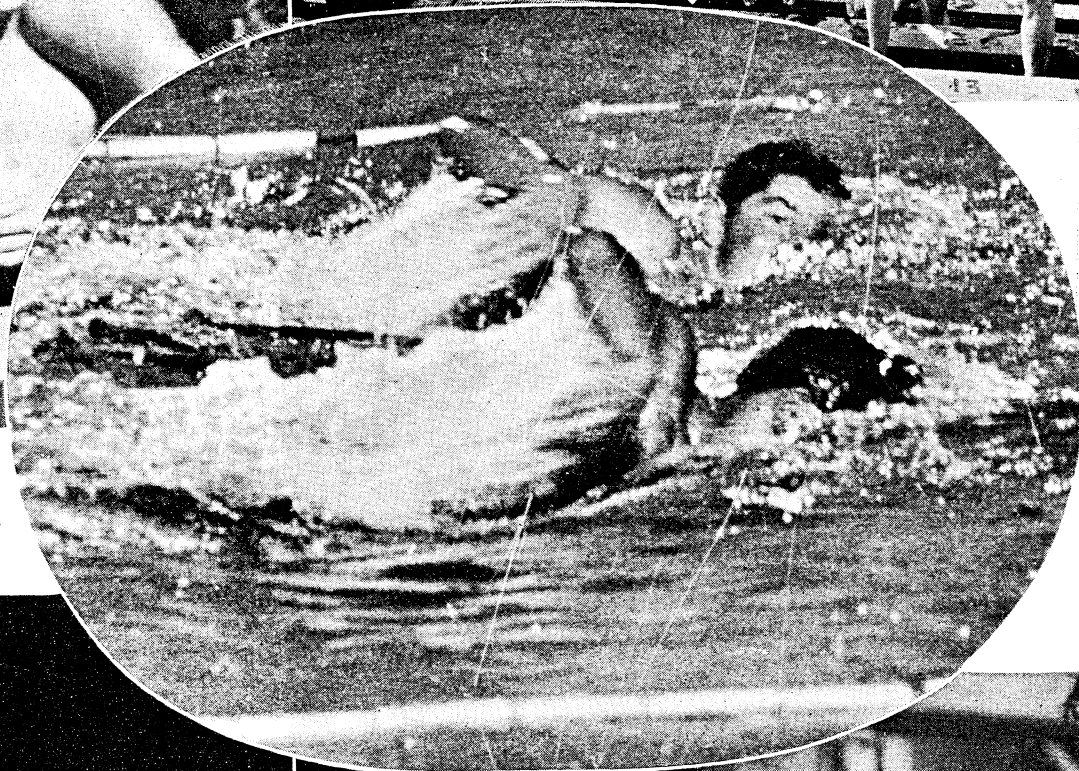
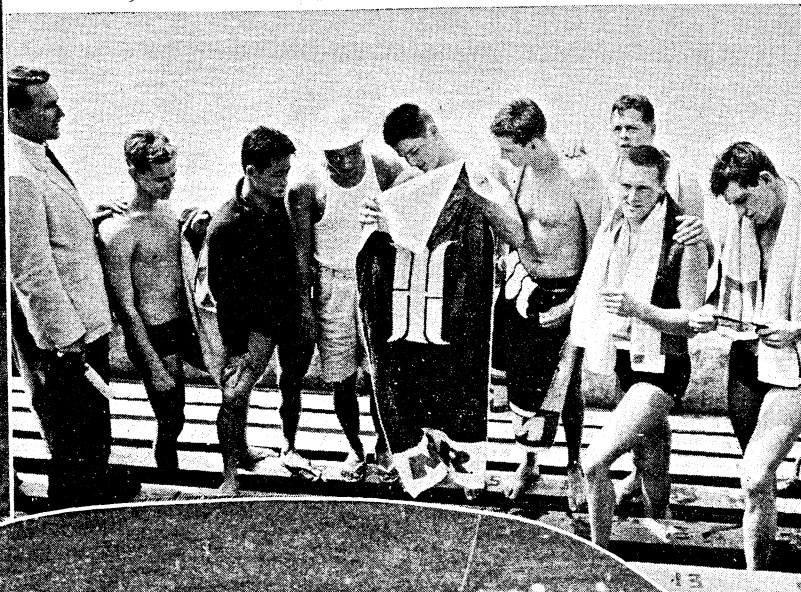
コンラツズはこうして泳ぐ



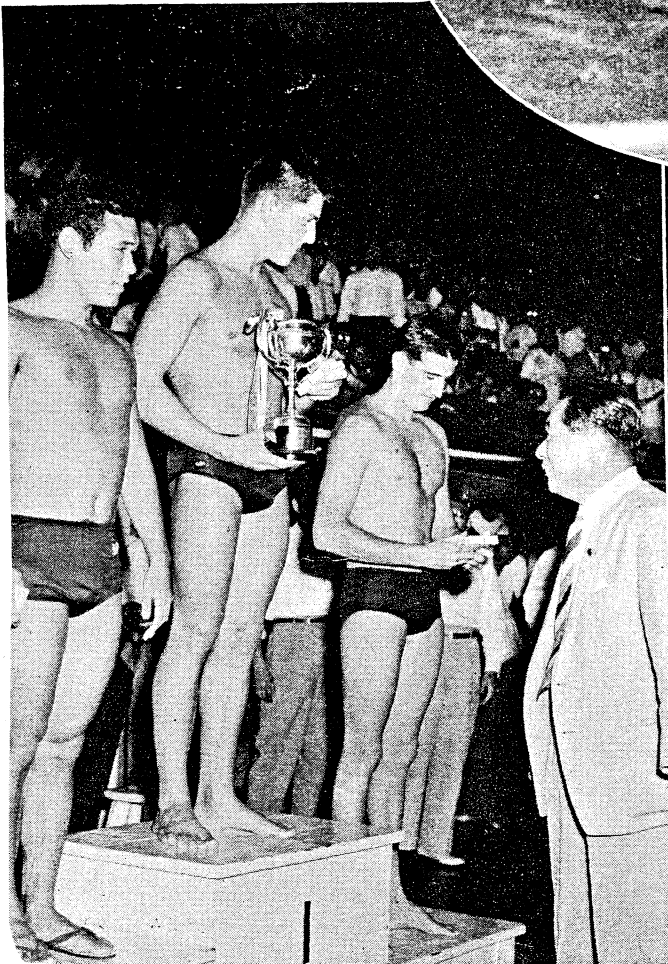
(スイミングタイムズより)



プールサイドの豪州チーム(神宮) ↓



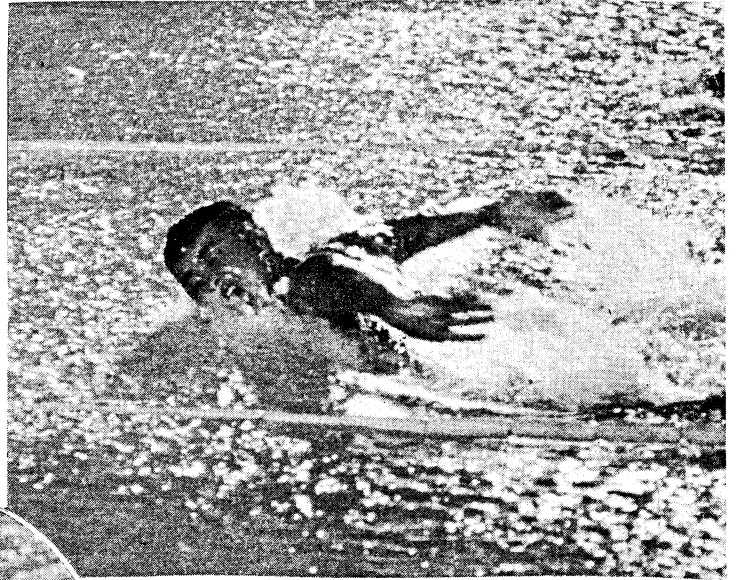
200m自に世界新を出した山↑
中を祝福するチャップマン
1500mで接戦の山中(手前) →
とコンラッズ(向側)



↑ 100m自優勝のデビット(左)と3位中谷(右)
← 400m自に優勝したコンラッズ(中央) 2位山中(左)
3位ウインラム(右)

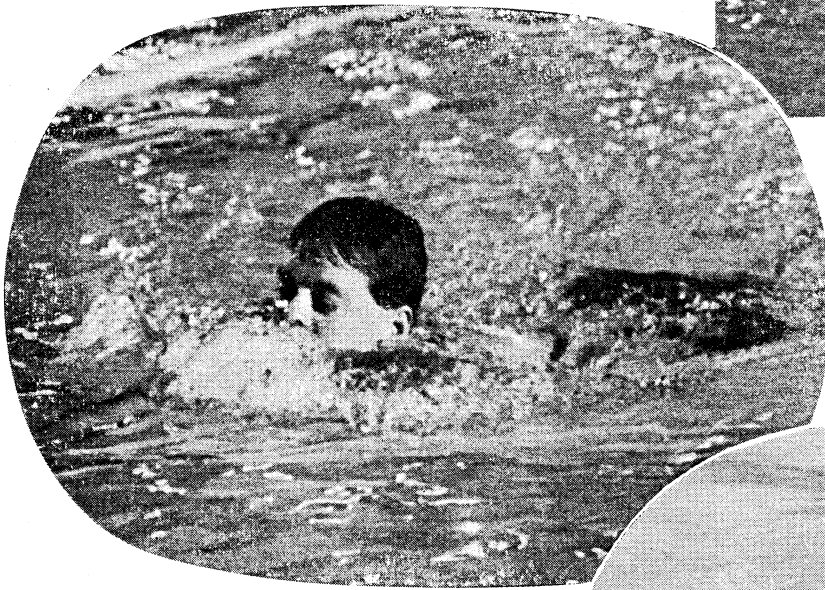
(毎日新聞提供)

日本選手権水上競技大会(2)

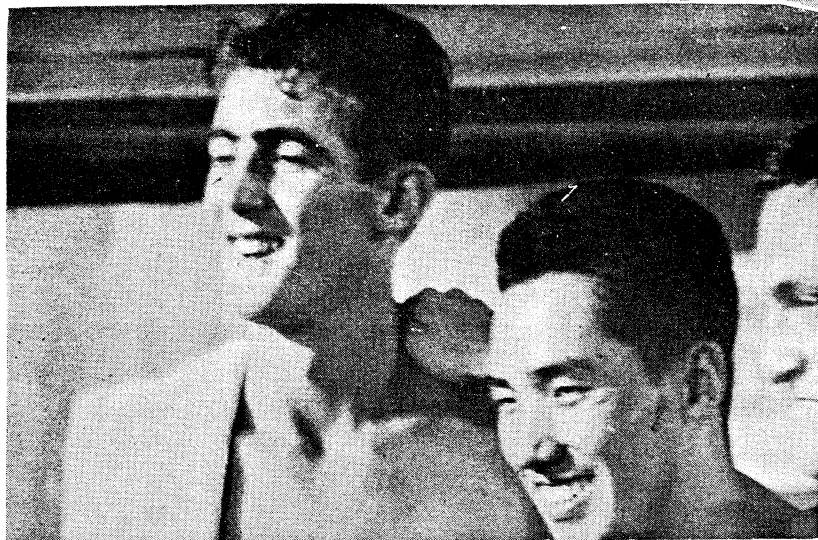


↑ バタフライの両種目に優勝した石本

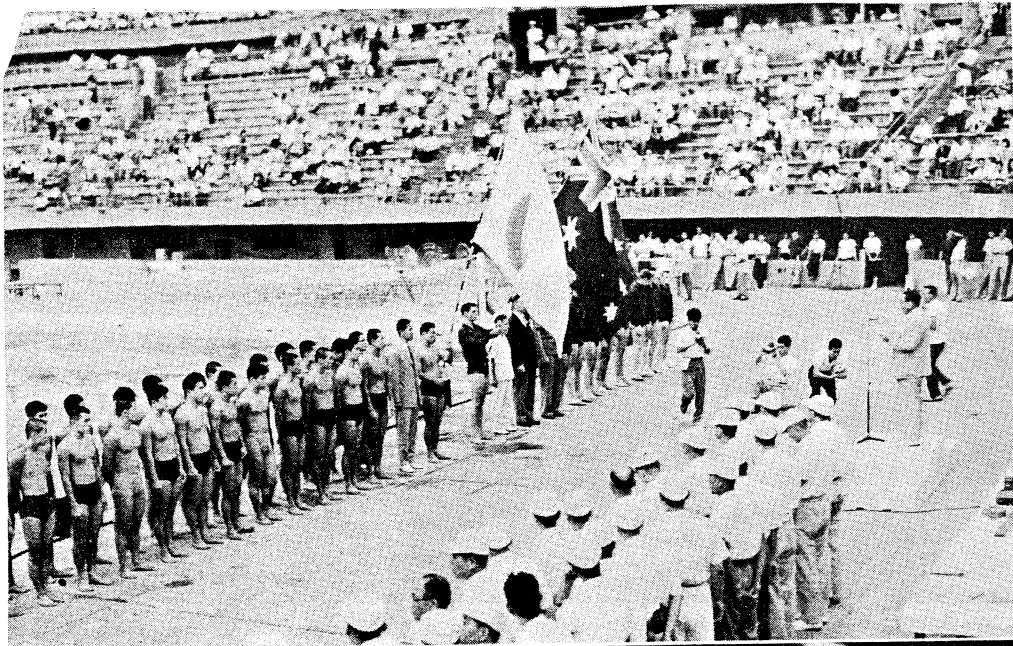
↓ 100m平泳に優勝したギャザコール



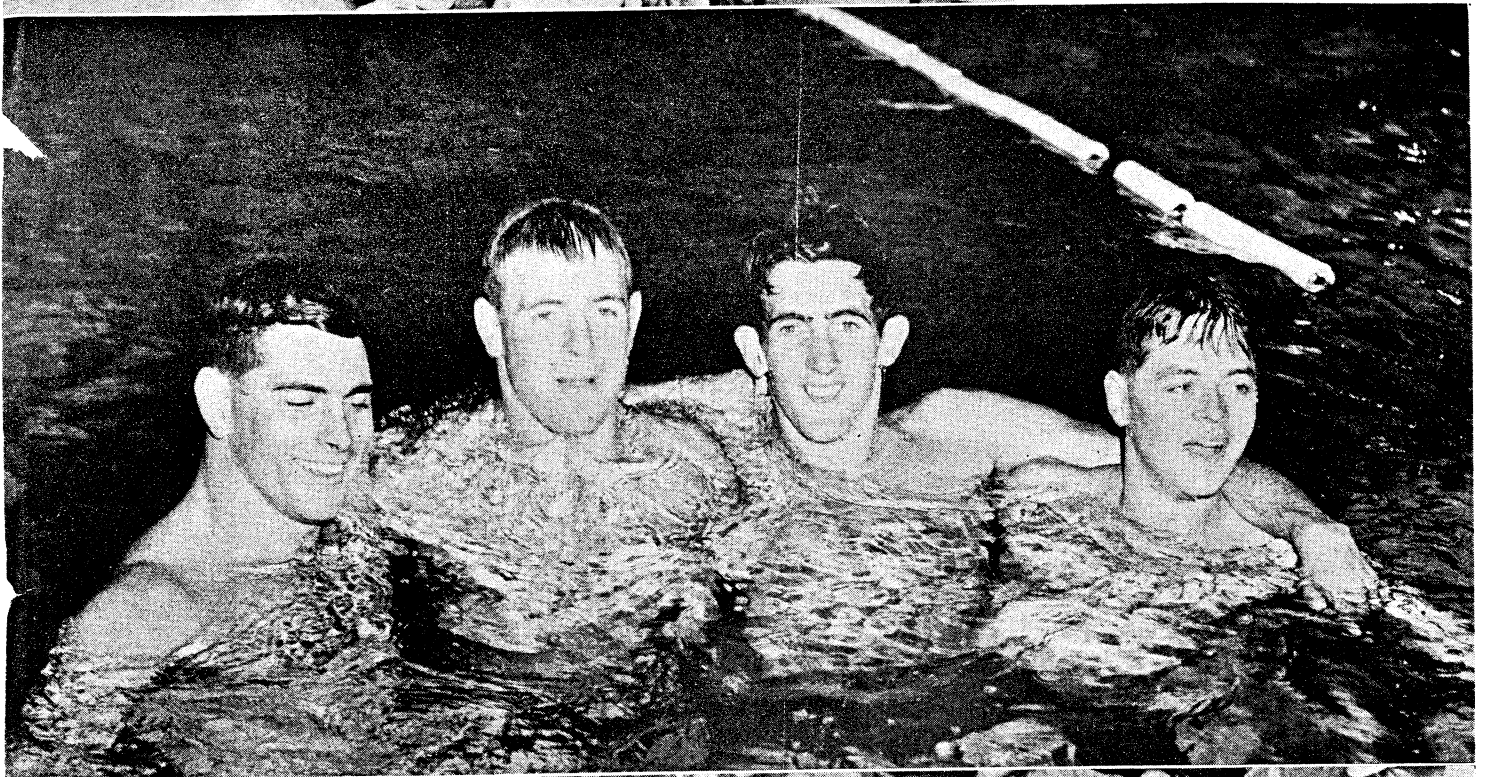
↓ 100m背泳優勝者モンクトン (左) と
2位の長谷(右)



↑ 力泳中のコンラズ (400, 1500に優勝)

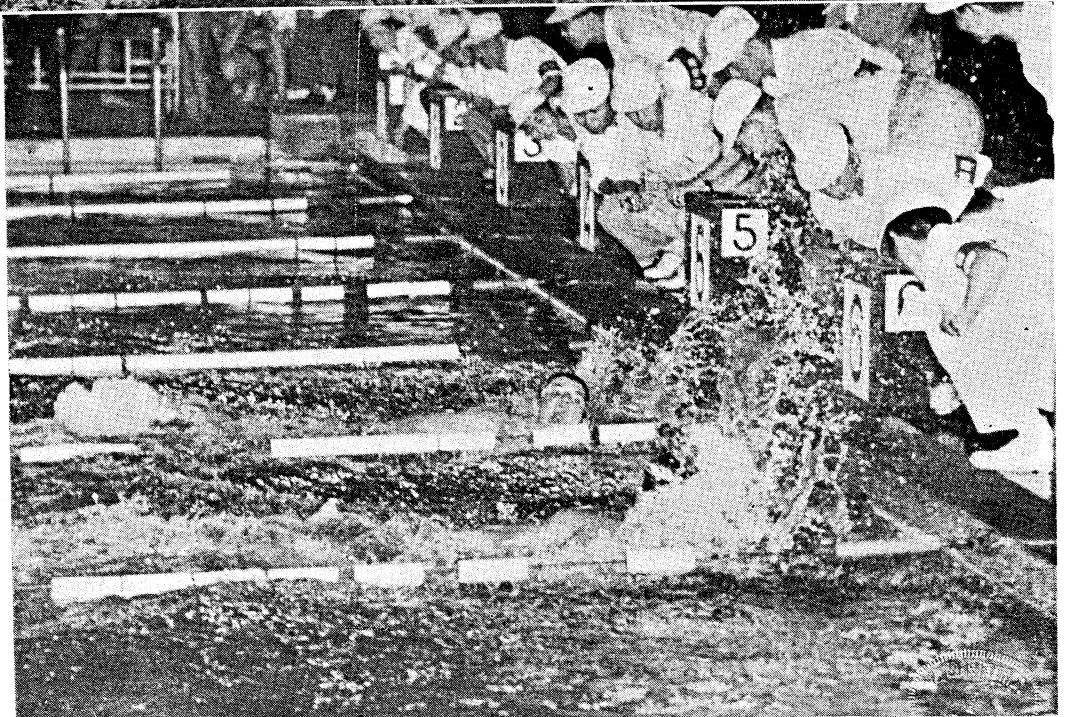


←開会式
(樋口会長挨拶)

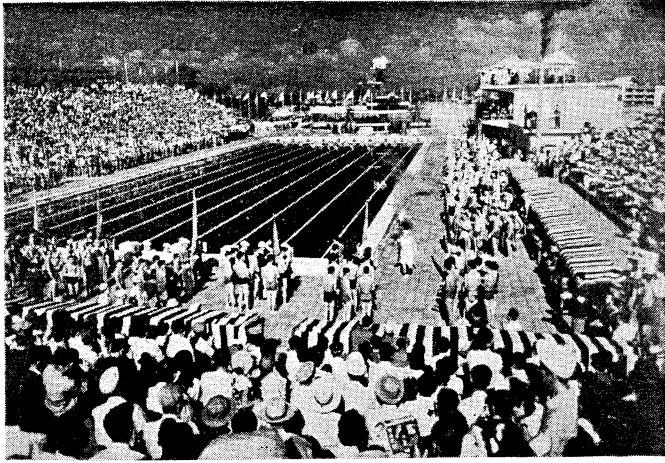


↑400mメドレー・リレーに驚異的な世界新を出した豪州チーム
左からデビット・ウイキンソン・モンクトン・ギャザコール

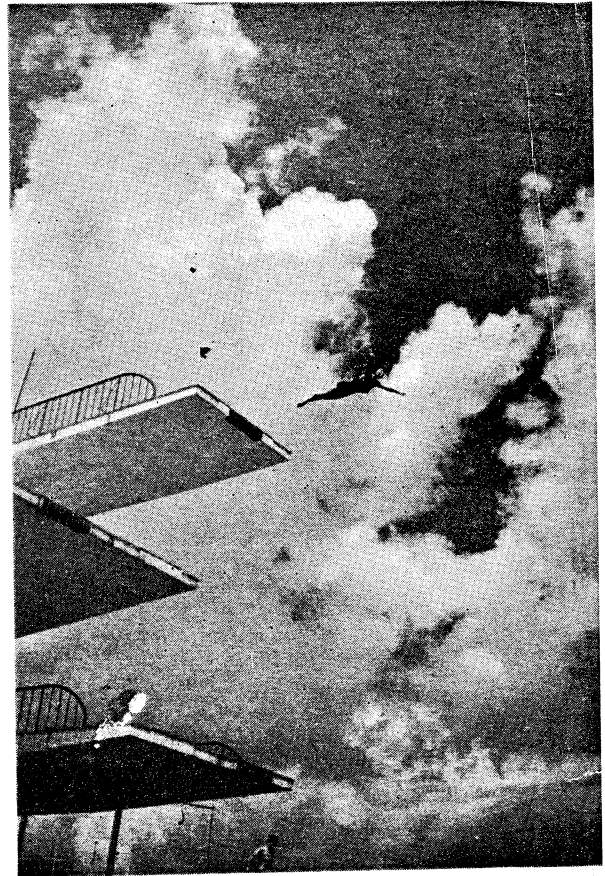
200m自由形のゴール 山中(6→コース)2:03.0の世界新でコンラッズ(5コース)を抑える
(産業経済新聞提供)



第13回国体水上競技大会 (9月14~17日於高岡プール)



↑開会式 聖火入場



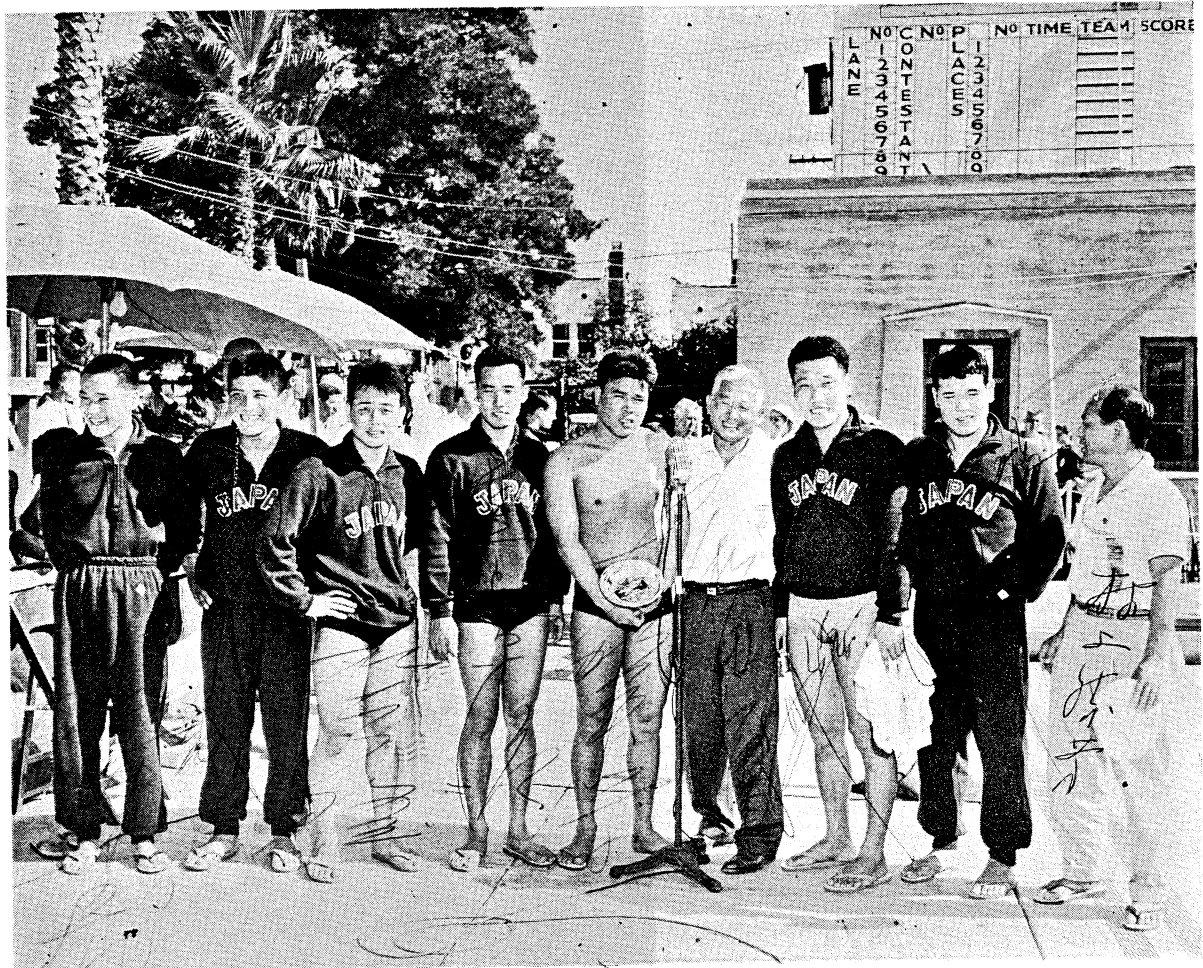
女子高飛込に優勝の渡辺久美子選手



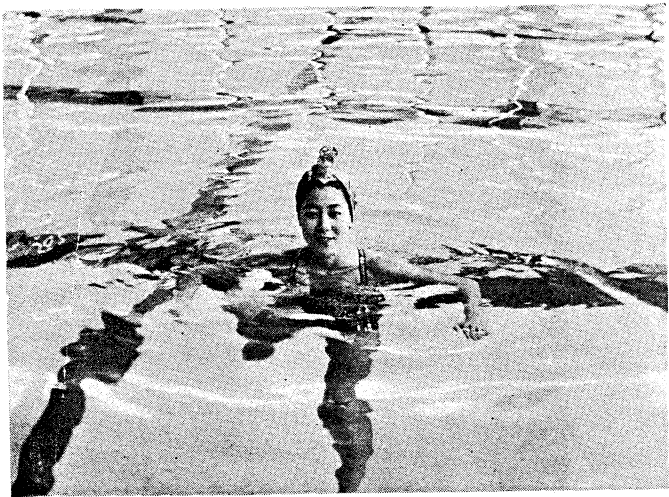
←女子スターター 松沢とし子さん

(以上北日本新聞社提供)

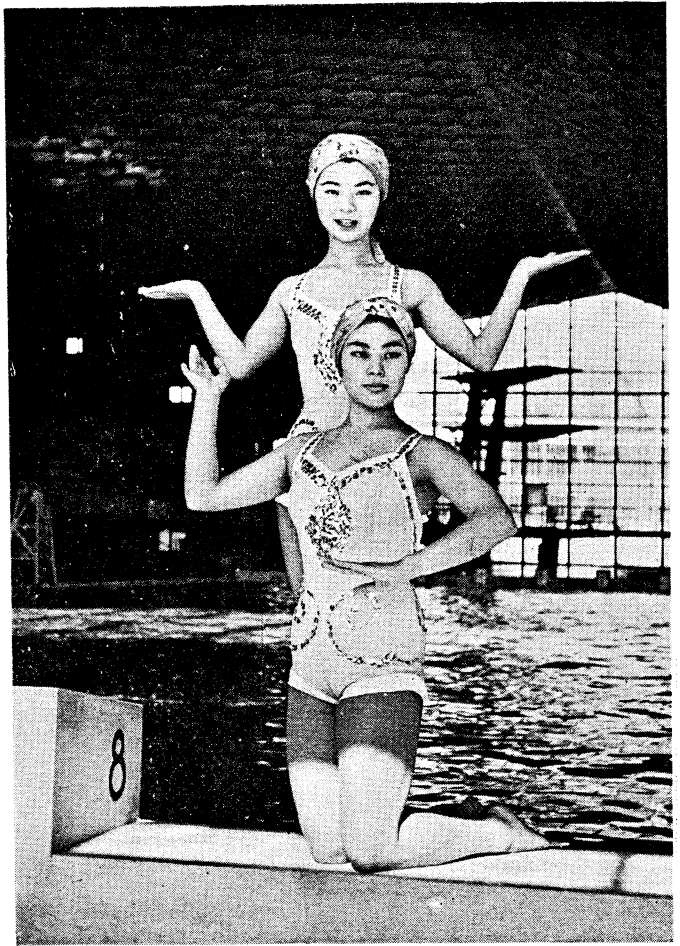
ロサンゼルスでの国際招待水上競技に出場した日本選手



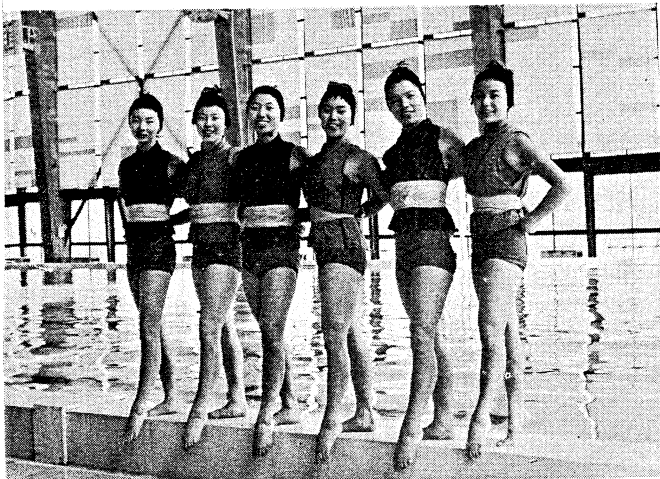
左より石井, 福井, 石本, 長谷, 古賀, 和出氏, 古川, 山中, 村上監督
(6月下旬ロスにて, キッパス氏撮影)



ソロ1位 飯田紀子 “牧神”

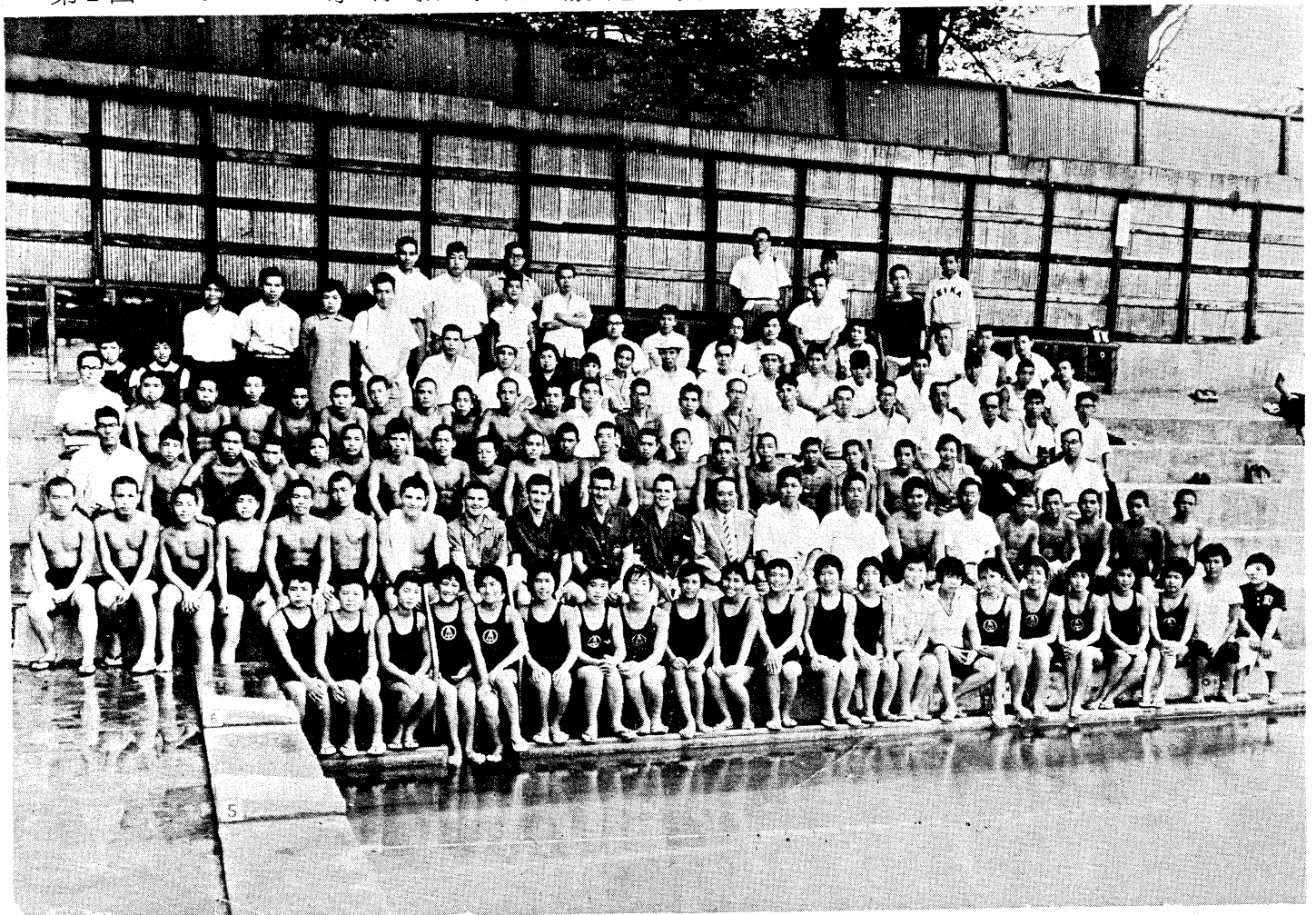


デュエット1位
西沢 苔子(前) 松沢 洋子(後)

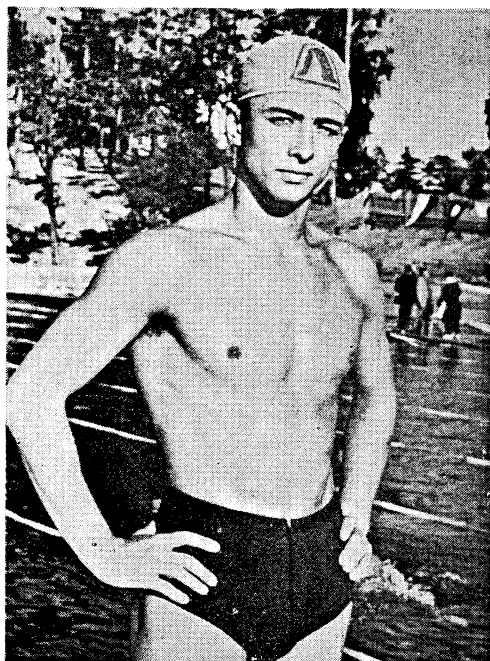


チーム1位 東京ウォーター・スプライト
(左から松沢・渡辺・立石・西沢・和田・三浦)

第2回ジュニア水泳指導会 (豪州選手の顔もみえる) 8月16日 (京華学園プール)



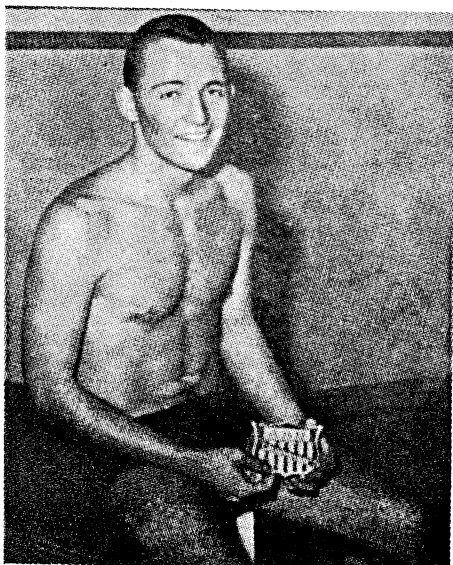
1958年に活躍した海外選手



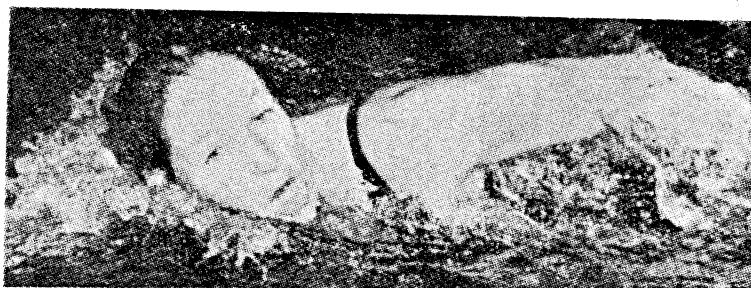
ソ連のベテラン ビタリー・ソロキン (短中距離)
(今日のソ連邦より)



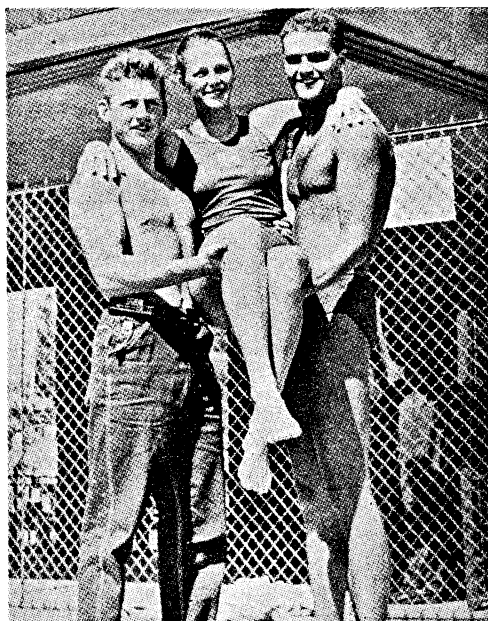
中共の穆祥雄 (平)
(ド・スポールタン・シーヌより)



米国のランス・ラーソン (バタ・短)
(スイミング・ワールドより)

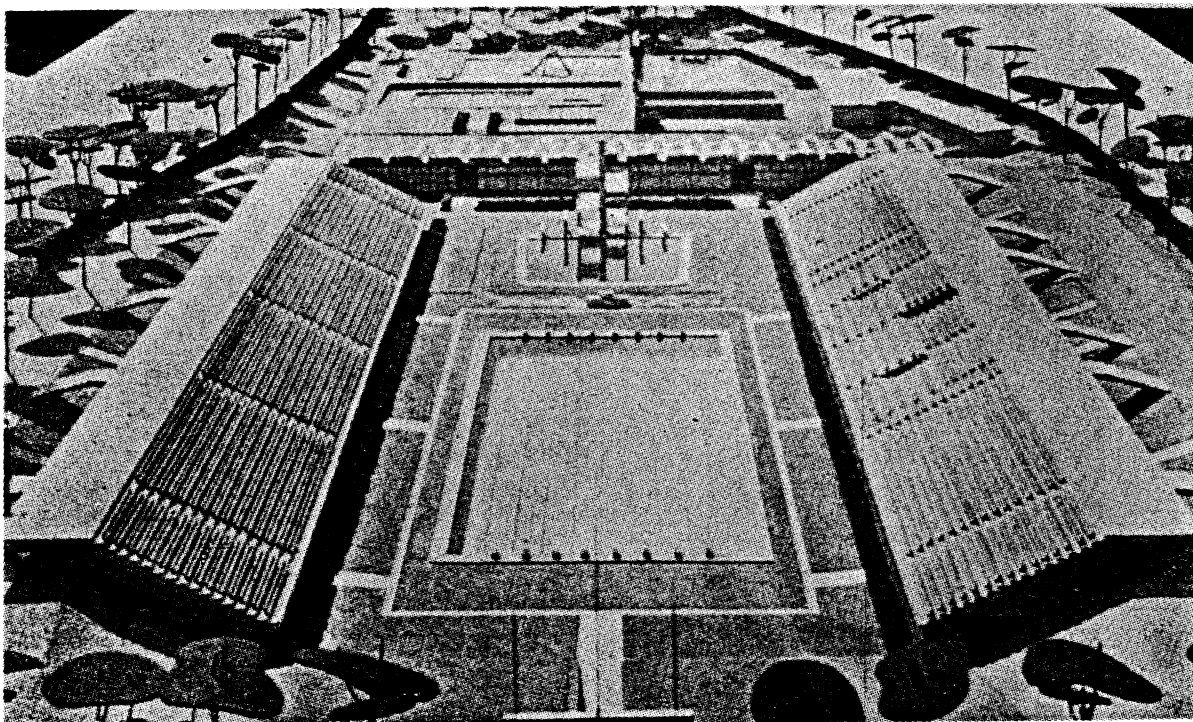


オランダ女子水泳界のトリオ
上からクッキー・ハステラース (自)
アダ・デン・ハーン (平)
アテイ・フオールバイ (バタ)
(スイミング・タイムより)

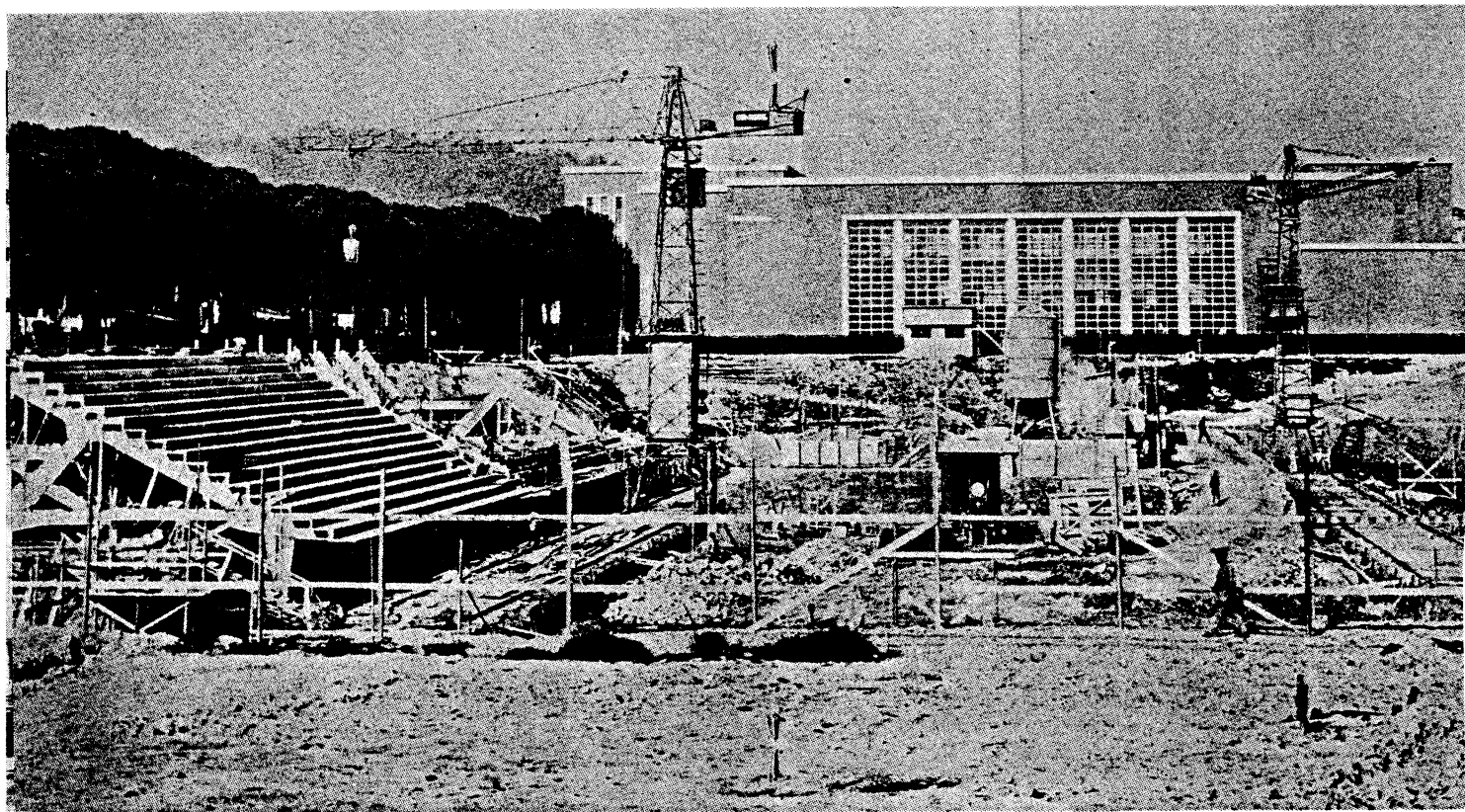


←欧州選手権で活躍した3選手
左よりアイアン・ブラック (英) ケイト・ヨブソン (瑞)
パオロ・ブッチ (伊)
(シム・スポルトより)

ローマ・オリンピックプール



オリンピック・プールの模型 収容人員 7,500人
但し、大会中は仮設スタンドを設けて2,000人を収容する。



工事中のオリンピック・プール 向側の建物は室内プールで
地下道により互に連絡できるようになっている。

日豪大阪大会観戦記

木 村 象 雷

日豪国際水上大阪大会は8月22、23の両日、大阪プールに、日本選手権、八幡大会を終った豪選手と日本選手25名を迎え開かれた。

第1日は曇り、観衆8,000これは水泳の催しとしては、大阪プールで昭和29年の日米水上以来の大きな観衆。日豪選手がプール両サイドから国旗を掲げて入って来た入場式は、全日本選手権に見られなかった情景。樋口会長、フィリップス豪団長のスピーチ、中井市長の歓迎のことばがあり、高石大会委員長が開会を宣し、フィリップ団長から高石委員長にペナントが贈られるなどあってレースがはじまった。

日豪種目の最初は400mメドレーリレー。これは豪側が是非とも世界記録を破りたいから、はじめにもってきてくれと注文をつけただけあって張りきっていた。

背泳はモンクトン、渡辺で、モンクトンは1分1秒5(正式計時)の世界新記録に対し渡辺は1分8秒3で10mの差がつき、第1泳者ですでに勝負が決った。平泳のギャザコール、吉村でまた少し開き、バタのウィルキンソン、増永で差は変わらず、アンカー、デビットはまた差を開いてゴールでは15mの差となった。豪チームのラップは、モンクトン1分1秒5、ギャザコール1分12秒2、ウィルキンソン1分1秒6、デビット55秒1で4分10秒4という大記録、豪チームが全英で出した4分14秒2を遙に破っており、むろんロサンゼルス大会で長谷、古川、石本、古賀の日本チームが作った4分16秒7の日本最高の上をいった。

日本チームは4分20秒6。背泳で4秒、クロールで2秒余つまらない限り、豪と対等のレースにはならない。メドレーリレーはローマからオリンピック正式種目に加えられることに決定しているので、日本もこれを重視しなければならない。

メドレーがはじまると豪選手2、3名が50の折返しに出かけ泳者を声援、これを見たフィリップスは、ブルー監督を走らせて、応援を止めさせた。レース途中のことでもあり、フィリップスのやかまし屋かたぎが窺えるエピソード。

次のレースは200m背泳。モンクトンは熱を出したとかで欠場、長谷以下はヘイヤーズを目指して力泳したが、150からぐんぐん離されてゴールでは2位の長谷とかなり水があいた。

100平の形勢も全日本の決勝と変化がなかった。40くらいまで差はなかったが、折返し前からギャザコールがピッチをあげ、頭一つ先んじ、帰りは差を開くのみ、顔をあげたままピッチを楽にあげてゆくギャザコールは、ひとかきひとかき顔をつけてがんばる日本選手達を小馬鹿にしているようなふうにも見えた。

100バタフライは石本中耳炎とかで欠場。これは増永開田が後半の力泳に危う気なく勝った。豪チームが日本に来て、学ぶべき唯一の種目バタのウィルキンソンは、泳ぐ毎に自分の力を伸ばしたが、この100で1分2秒3という豪新記録、世界のランキングで6位以内に入り得る立派なものだ。

800自由形はコンラッズ、山中が200にまわったのでウィンラムに対し丸山、北畑などの挑戦になった。丸山はウィンラムに700までリードしたが、ラストスパートでふり切られた。ウィンラム9分34秒0、丸山9分35秒4で、ともに自己の最高記録である。

この日最後のレース、200での山中、コンラッズの一騎うちは圧巻だった。コンラッズ5コース、山中6コースで、行きは互にブラインド、帰りは見合い。山中が先に出て、コンラッズがこれを追う形でレースは進んだ。山中の50は28秒7、100は1分0秒5。150は1分32秒5。いつもターンで追いつかれる山中はこのレースでターンをがんばって、リードさせず、150でひとかき先んじていた。最後のターンから両者の死闘がはじまった。コンラッズは頭を一そう高くピッチをあげ、二度ほど山中の方をながめた。ピッチの割に差は縮まらず、山中リードのままあと15m。ピッチをゆるめた感じのコンラッズが追いつきはじめ、両者しぶきの中にゴールイン。身体はコンラッズの方が少し出ているように見えた。山中の左手が直線にタッチしたのにコンラッズのフィニッシュは大きく空中をまわってついた。山中2分3秒0。これまで

の世界最高はコンラッズの2分3秒2で(220y)山中は不敗のコンラッズに一矢をむくい、しかも一発レースの200最高記録保持者になったわけである。両者のタッチについて審判の意見も分れるほどの大接戦だったが、コンラッズのタッチ負は、豪側でも認めている。

いままで山中は、ローズにメルボルンでも、今年のロサンゼルスでも顔を合わせるたびに僅差で負け、コンラッズにも東京で、八幡で負け、そのどれもが、ひとかきの差。そこで豪プロコーチのガスリーが"山中は1位になれない選手。精神力に欠陥がある"というようなことをいった矢先のことでもあり、山中の勝利は、山中自身のためにも日本水泳界のためにも多幸な展開だったといえることができる。この日の圧巻で、満場が総立ちで喜んだのも無理はなかった。

第2日も曇り、観衆は9,000を超えた。

最初の100は、日本が振わず、デビット55秒8、チャップマン56秒0、シプトン58秒3で3位まで占められ、4位の古賀59秒0。デビットのノーブレッシングのピッチの上る飛び出し、チャップマンのゴール際の追い込みの凄さは心憎いばかり。ピッチの遅い日本側には到底手の届く連中でないことを知らされた。フリップターンで1秒近くも差の生れることが明らかなのに、どうして日本側が勉強しないかという疑問が残る。

200バタは増永、開田、丸山がウィルキンソンを寄せた。

前日の200の勝利に、山中が勝ちをほしまいかと思わせたコンラッズとの3度目の400での顔合せは、やはり山中の負に終わった。100まで山中が先行、130でコンラッズが先に立ったが、300で両者同時にターン。この日は山中のターンが200のときのように早くない。300からコンラッズがリードし、300でひとかき、ゴールで2ストロークの差でコンラッズが連勝。前半遅過ぎたので記録は八幡大会に及ばなかった。北畑と丸山がともに4分37秒

台上ったのが収穫だった。

100の背泳もモンクトン、ヘイヤーズが悠々1,2位を占め、日本チームとすれば、長谷が1分5秒4を出したのが慰めだった。200平も同様ギャザコールが自身とすれば3度目の2分40秒台割り、2分39秒4で楽勝。2位には新進の大崎が2分41秒8の日本新記録で入賞。大崎選手はかつて関学で活躍した平泳選手大崎卯藤久君の息であるとのこと。

最後の800リレーは折からの俄か雨の中で行われたが、いいレースになった。日本藤本は自己の最高の2分6秒4で、チャップマンにわずか遅れ、福井、ウィルキンソンはこの差で第2泳者に引ついた。豪デビットはゴール前で浮き、近藤が1ストローク抜いて山中につぐ。コンラッズは1ストロークの差でつめて、700で頭一つにし、ゴール前20で山中を抜き、半身の差としてゴールイン。ラップを見ると、

チャップマン	2:05.3	藤本	2:06.4
ウィルキンソン	2:07.0	福井	2:07.8
デビット	2:10.0	近藤	2:07.0
コンラッズ	2:01.4	山中	2:03.0
計	8:23.7		8:24.2

リレーの引継ぎを考慮に入れコンラッズは少くも2分2秒では泳いでいることになり、底の知れない実力を見せた。

かくして、2日間に亘った大阪大会は、豪チーム連戦の疲労も見せず、日本チームまたよく戦って日程を終了、閉会式に日本側は豪チーム万歳、豪チームも日本のヒッピー・プレーを叫んで両国水泳の交友感を盛り上げた。なおこの大会でオープンとして行われた女子競技に佐藤喜子さん(天理大)は100に1分5秒2、400に5分12秒7の日本最高記録を出して大会を飾った。

(筆者は大阪水泳協会会長)

(20頁よりつづく)

問 豪州選手が上体をおこして泳いでいるのは脚ではなく手で上体をおこしている(腕を曲げて深い角度で水につま込むときの反作用で上体がたつのだとガスリーは強調した)が、そのためにはどのような練習を行いますか。

答 シーズンはじめ、腕だけの練習を行います。

問 同じ練習をくり返しては選手が飽きてしまうと思うが、バラエティーのある練習法について。

答 1日1マイルを泳ぎ、特に400のインターバルと100をうんとやらせます。100は58~9秒でいく、この記録

でいなくては駄目ですね。又時期を見て変化を与えます。

問 豪州のプロコーチ制について御説明下さい。

答 クラブがあってその入会金が500円、この入会金はコーチの収入になるものでなくて、選手の競技会等に使われます。コーチによってその収入は違い、6カ月で12万円程度、ガラハ氏は3万円、又レッスンになると初心者には2,000~4,000円で6回レッスン、コーチはプールの管理人を兼ねている場合もあります。又コーチの収入は6カ月で200万~500万円位になります。

座談会【豪州のプロコーチにきく】

本連盟では、今夏豪州水泳チームに同行して来日したプロコーチを囲んで、彼地の水泳事情について座談会を開いた。座談会は、ギャスリー氏、タルボット氏それぞれ別個に行ったが、ここにその要点を紹介する。

ギャスリー氏は現在豪州一流のプロコーチで、来日したチャップマン、モンクトン、ヘイヤーズ、ウインラム、シプトンなどを育てた人である。またタルボット氏は学校の教師でコンラズを育てたが、水泳に熱中して教師の位置から除かれ、それ以来プロコーチに入った。プロコーチとしては、かつてギャスリー氏の助手として出発した由である。

なお、朝日新聞が行った両氏を囲む座談会の記事（朝日新聞5月26日～29日）も参考になると思うので一読をおすすめしたい。（文責 南佳恵）

1. ギャスリーコーチを囲んで

問 まずシーズンに入る前の陸上トレーニングについてお話を聞きたい。

答 シーズンに入る前の約2カ月間を陸上トレーニングに使います。

問 トレーニングは何を重点にして行っていますか。

答 キップス監督は柔軟性をつけることに重点をおいていますが、私達は筋肉をつけるための練習のみ行っています。

問 腕力、脚力のための練習をしていますか。もし行っていたらどのような方法で行っていますか。

答 16ポンドのメディシンボールを使用し2人1組になって10分間行う。方法は2人が向き合って頭の上で交互に渡し20分間それを繰り返す。はじめはゆっくりだけれども慣れてくるとかなり早い。ウエイトは年齢によって異り10歳の子供は9ポンドのものを使用しています。

このメディシンボールがすむと、プリーマシオンを使用して、たて、よこ、後向、寝てそれぞれ10分間ずつ行います。それがすむと屈伸40回、腕立20回を交互に10回、結局、屈伸400回、腕立200回を行うわけです。

以上の種目を10秒間隔で1日2時間、5日間行います。このうち2日はコーチの指導でやり、あとの3日間は自分でやります。

トレーニングのうちでもっとも重点をおいてやらせるのは腕の練習で、その方法は重量のほぼ同じ者が2人1組になって1人が手を上に組み寝て、相手の体重をもちあげるという方法で、年齢によって回数も異なるが慣れてくると1回40を10回くり返しておこなう。だから筋肉をつけるための体操のみ行い、柔軟体操は特に時間を設けて行わない。柔軟性は泳いでいれば自然できるのです。なおトレーニングのうちで、ひざの屈伸は心ぞう強化のために行うものであって、特にピードを強くする目的のものではない。

問 シーズン中は陸上トレーニングを行いますか。

答 シーズンに入れば陸上トレーニングも体操も一切行わない。水に入ることが始まれば準備体操や整理体操など体操なるものは一切行わない。

問 インターバル練習はシーズンに入ってからすぐ行いますか。

答 強力なトレーニングをはじめたのは3年程前からで、これをはじめてからシーズン始めの記録の出方が早くなりました。水に入り始めて1週間でインターバルを行うが、最初は400～800を長短の区別なく記録よりも泳ぐことに重点をおいて練習をします。

問 具体的にどんな練習を行いますか。

答 チャップマンだとすればシーズン始め400を5分40秒、デビットだとすれば400を5分10秒位の制限タイムでくり返し、チャップマンの場合は、力の同じぐらいの女子と一緒に泳がせてやらせる。シーズン始めの練習は特に個人差を重くみてやっています。

問 腕と脚の練習をどのように行っていますか。

答 シーズン始めの練習の初期は腕を1日1500、脚を800程行いますが、シーズンになれば腕の練習はやめるが、脚の練習はときどき600mぐらいやる。

問 どうして脚の練習をしないのですか。

答 泳ぎに専念するということからです。脚の練習が必要かどうかについてコーチ陣が集って種々話し合いを行って来ているが、決定的な結論に達しているわけで

はない。

問 バック、バタフライ、ブレストは自由形と同じ練習量ですか。

答 バック、バタフライ、ブレストについて同じ練習量でよいと思っているが確信がない。

問 オーストラリアのアウトドアシーズンは何カ月ぐらいですか。

答 11月末～3月下旬までですが本格的な練習は2月一杯で終わります。

問 オフシーズンに他のスポーツを行っていますか。

答 他のスポーツはさせないことにしています。何故なら男子など血気盛んですからフットボールなどを行いケガをするからです。ケガの少ないバスケットをするように目下計画しています。

問 試合前のコンディション調整はどのようにしていますか。

答 我々もこの問題には頭を悩ましている。オーストラリアでは特に合宿のような練習の山になる期間はもうけず試合1週間前にコンディションを調整している。先ほど行われた、英連邦、全仏は試合として重くみなかったから調整などしないで練習から直接試合にもっていった。我々は日本での試合を目標にして来た。

問 シーズン中の練習時間は。

答 選手は学校へ行くか仕事に行くかのどちらかだ。仕事先は理解があるが、やはり時間の制約も受けるので登校前あるいは出勤前の6時～8時の2時間と、午後はプールのあいている時間をつかってこれも2時間位練習をしている。これは社会状況上やむをえないことであって、決して好きこのんで早期練習など行っているのではない。

問 スラップの時は選手をどのように扱いますか。

答 スラップの選手は2、3日水から一切遠ざけてしまう。家庭の人も泳ぎの話はしないように依頼している。

問 選手の調子をみるのにどのようにしているか。

答 ストップウォッチあるのみだ。

問 現在のオーストラリアの泳ぎを如何なる方法で教えたか。

答 私がプロコーチという新しい職業についたのは1952年デビスが勝った時、私はコーチで生計をたてようと思ったからだ。その当時フィルムすらろくになかったので、書物を読み又その写真を、忠実に伝えた。30年前のアメリカンクロール(ワイズミュラーの泳ぎ)を伝えただけでそれより一歩もいつ脱していない。

問 選手を何人コーチできるか。

答 4人で200人をコーチしている。

問 個性を伸ばしていくような技術的な指導の場合はそんなに多勢をみることは不可能ではないか。

答 確かにそうだ。1人で1人しかみることはできない。

2. タルボット氏を囲んで

問 コンラッツの泳ぎはワイズミュラーの泳ぎににていると思いますが、どこからあのフォームが生れたのですか。

答 よくそういわれるが、私自身ワイズミュラーを見たことがない。本などで勉強したものを教えただけであって、決してそうではない。

問 コンラッツの泳ぎを見ていると終始変りないフォームで泳いでいますが、そのためには相当御苦心もあつたことでしょうか。

答 世界一のスイマーはみなすばらしいフォームです。コンラッツもフォームが大切だということに重点を置いたことは事実です。彼が若い時はフォームをずいぶんたいてきました。現在はもっぱら距離やスピードに重点をおいています。

私の考えとしては特に短距離選手のフォームは大切だと思えます。

問 山中とコンラッツを比べてみると、山中の方が足が強いと思う。コンラッツの足を強くしたら、現在より、ずっと強くなると思いますが。

答 山中ほど足を有効に使っている選手は世界のどこにもないと思う。オーストラリアではシプトンが脚を非常によく使っているが、コンラッツは現在の足が理想的のように思う。私の考えでは、腕を強くするか、脚を強くするかのどちらかで、両方強くすることはナンセンスだ。

医学的な立場から割出したものではないが、私の経験から考えてみるともっとも大きな脚の筋肉に全力を注げば体力は大きく消耗する。だからといって脚はどろでもよいというのではない。コンラッツの場合、水面にはあまり出ないが脚のキックは非常に深い。だから上体がよく立っている。

問 水を早くキャッチしようとする上体がガクンと落ちる。このため腕を入れたとき、手で浮きをとるようになるが。

答 大選手は1シーズンで完成するものではない。その点はコンラッツの場合も苦心しました。一度教えたことをシーズンオフになると全く忘れてしまっている。シーズンになって3週間位で前の泳ぎを思い出しますが、それまでが骨です。(18頁につづく)

研究座談会

「泳法とインターバル練習」

競泳委員会

競泳委員会では、9月30日連盟事務所で泳法、練習法などについて研究座談会をやりました。次にその要点を御紹介します。

北村 われわれは豪州の選手から、いろいろ学ぶ所が多かったのですが、シーズンも終わりましたから、学んだ所をお互が意見を交換して、今後の参考にしたいと思えます。

最初に泳法から入ります。泳法についてギャスリー、タルボット両氏の意見を私流に要約してみますと、バタフライは日本が強いから、この点は日本から聞きたいくらいだといって、ほとんど説明がなかった。平泳についてもさほど突っ込んだ意見はなかったようです。話の中心は自由形で、それとの関連から背泳が出ました。自由形にはポイントが四つあった。第一は水中における体の位置。つまり上体の位置を高くするという事。二番目には手のかき方。これは手を曲げて水の中へ深い角度で伸ばして、そこからモモの所まで一気にかく。第三として脚のけり方には、殆ど余り重点をおいていないこと。手との調子を合わせる程度にやっていた。四番目は手と脚との関係ですが、いまいったような、手と脚のウエイトの置き方です。そこでその第一点の、体の位置からまず入りましょう。

身体 の 位置

太田 豪州の選手は非常に体が立っているという話ですが、これは抵抗のある泳ぎであって根本的にどうしても体を立てなくてはならないとはいえない。体を立てるといふよりも、水面に体をよく出すという意味で説明したほうが良いと思う。「体を立てる」という表現は誤解をまねき易い。体を立てれば、いまの日本選手がやっているように、水面を足でたたかなくてもいい。深い所でたたくようになる。説明の仕方を考えなければ誤った方向にいく心配があります。

北村 というと、立てるといふよりも、上体を浮かすといふことですね。

太田 そうですね。なるべく水面に出ていけば、それだけ抵抗が少ない。

赤樫 逆にいえば、体をそわらして弓なりになると非常に心臓を圧迫するわけだ。そうではなしに、彼らのは足を深い所でキックするから、自然に上体は高い位置になる。上体だけを高い位置に置こうとすると、弓なりになってしまう。

北村 上体が水の上に浮かぶということは、どういう利点があるのですかね。

太田 肩の線が水の上に出でしまえば、腕が非常に楽になる。体を反らさずに上体が出れば、必然的に足が水中深く打てる。そうすれば、いままでよりも有効な足が打てるというわけですね。有効な足を深い所で打つためには、その前に、足を強く訓練しておく必要があるのだが。

北村 呼吸の点はどうでしょう。

太田 呼吸もずっと楽になると思う。高ければ高いほど。例えば日本のいままでの選手には、呼吸するとき首が立ちすぎて抵抗が起るとか、頭の中心に鉄の棒でも突き刺したように固定して左右スムーズにローリングしながら呼吸しなければいかんというようなことがいわれていた。上体が高く上って、肩の線が出るようになれば、そういう説明をしたり、教えたりしなくてもいいような状態で呼吸ができるわけです。

赤樫 上体が高い位置にあるから、腕でかいているというよりは、肩でかいているように非常に軽く見えるわけだ。

北村 今までの日本の泳ぎは水に寝たという感じですね。豪州の選手に比べると頭が沈んでいる。相当体をねじり、首をねじり、口を上に向けなければ呼吸ができないということがあったが……

村上 話が逆戻りするかもしれないが泳ぎよりも、練習方法のほうが先じゃないかと思うのです。というのは、豪州の選手の泳ぎはダッシュから来た泳ぎなんです。彼らの練習方法を日本の選手にとり入れると、ああいう泳ぎが出来上ると思う。上体が浮き上って

るということも、スピードが出れば、自然と浮き上がってくると思うのです。例えば太田君や新井君あたり、日本の短距離選手の泳ぎは、みんな上体がぐっと上っていた。問題は、体が浮くスピードを足からもってくるか、手からもってくるかということだと思ふ。

北村 タルボット氏もギャスリー氏も、腕を曲げて、それを肩に近い所で深い角度で突っ込む動作が水を押し立てて体を立てるのだと強調していた。腕を水面に浅く伸ばして浮きをとるということじやないのです。昔われわれは松沢さんから、上体は前かがみに腰を沈めて足を強くすれば体が浮いて腕が自由にかける、だから、脚、腰を中心にした体の姿勢、上体の浮いた姿勢をとることが大切だと教えられたが、その点、豪州の選手は腕で立つのだということを書いていた。

齋藤 松沢さんの前の時代に、石本 飯田という連中が研究した当時の考え方をご参考に申し上げたいと思う。とにかく体が一番抵抗の多い原因であるから、体をどういうふうにしたら、抵抗を一番少なくすることができたらどうかということについて、いろいろ研究し実験した結果、胸をひっこめて、水をできるだけ体の下にもってこようということと、それに付け加えて腕をうんとかくことが大事だということになった。腕をかくための体形を整えることと、その腕をかくことによって体形が出来上がるばかりでなしに、体形もまた腕をよくかけば前のめりになって抵抗の少ない形になる。この手と体形の相互関係を重視しなくちゃならない。そうすれば、上体は浮いて手は十分使えるようになる。手を十分使うことによって体形を整えるという理論でやったのです。

腕 の 動 作

北村 齋藤さんもおっしゃったように、結局体を浮かすということは腕をできるだけかくことが目的なんですね。そこで腕のかき方だけでも、豪州の選手と日本の多くの選手の大きな違いは、豪州の選手が腕を曲げて肩に近い線から深く突っ込んでいることです。日本の選手は伸ばして入れてかいている。とくに高校の選手を見ると、オープンの方の腕を丸太棒のように伸ばしたまま振り回して水にたたきつける泳ぎが多い。

村上 空中の動作は、曲げたほうが良いと思う。なぜかというと、伸ばして振切ると体に影響がくる。曲げてスムーズにもって行ったほうが、主体である体に影響がないと思う。伸ばして振切り回して前にもって行く人は、往々にして腰がふらついている。

太田 そのあとにくる手のかき方の問題にも関連すると

思う。豪州の選手がやっているように、水中深くかけを所まで直接にもって行くには、肘を曲げて、頭の前からスポッと中え突っ込むのがいい。伸ばしてやったのでは、なかなかそういう動作ができないから、結局浅い所でキャッチしてしまう。

阪本 そうですね。日本人のいままでの泳ぎ、あるいは指導は、どちらかといえば、足が第一だったと思う。モモで大きく打てという指導をしていたのです。足のビートの振幅が大きい。これがまた、体が立つか反るかということになると思うが豪州のを見るとどちらかといえば、足の振幅の度合が細かい。振幅の度合が細かいということは、それだけピッチも上ることであるし、それにつれて腕も大振りにして行くことはできなくなる。

北村 しかし、伸ばして振るのは、反対側の手のフィニッシュとの関係があるのです。また伸ばして水面にたたきこめば瞬間的には体の位置が浮くが、次の瞬間には反動的に体が沈むので上下動が出てくる。

赤樫 いきなりスポッと入れて、ずぐタタけば一番いい。この理論通りにやっているのが豪州の泳ぎだし、インターバル練習で短い距離を責めていけば、ああいうふうな泳ぎになってしまうと思う。

北村 昔、われわれは腕を頭の近くから曲げて入れる方法をやったが、赤樫君がいったキャッチング・ポイントにすぐ手がいかない。どうしても前に伸ばして、そこで浮きをとりながらキャッチング・ポイントにもって行ってそれからかく。これをすぐキャッチング・ポイントまでもっていくと、体が前につんのめるのですよ。

阪本 つんのめっていいのですよ(笑)。これからさきは。

村上 長い距離ばかり泳いでいると、そんな浮きをとる悪い泳ぎのまま泳ぎのバランスがとれてしまうのだ。また練習方法の問題になるが、つんのめるような泳ぎで、やっぱりダッシュの泳ぎでなくちゃいけない。

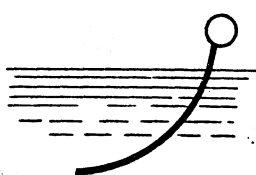
北村 タルボット氏はこういった。コンラッズでもシーズン初めにはやはり浮きをとる。練習で鍛えて行くと、いまいったような直接キャッチング・ポイントまで手をもっていくようになると。それは練習と泳ぎとがマッチしているということですね。

齋藤 いまの泳ぎは(イ)図です。われわれ石本己四雄時代に考えたのは(ロ)図のような泳ぎにしようということでした。浮かせようと思うなら、体を突っ込むようなつもりでもって、重心を前にかねなければ、こういう形はとれない。重心を前にかねなければ(イ)図のような泳

(イ)図



(ロ)図



ぎになってしまう。体を浮かす一つの方法として、手を入れるときに重みをかける。コンラツズの肩を見ると、背中が猫背のようになっている。手先で泳いでいるのではなく、背中が泳いでいるのじやないかと思う。腕に重みをかけ、肩を通じて背中中の筋肉を使っていくということをやると、体が浮いてくる。

脚 の け り 方

北村 足のけり方は結論的にいうと足と手との関係になると思いますが、豪州選手は腕に非常に重点を置いた行き方なんです。従来の日本は、日本人が脚が強いというので脚のほうに非常なウエイトを置いていた。そういう行き方の違いがあったと思うのですが。

村上 従来のわれわれの行き方は、伸びをとることによってスピードを出そうとした。ところが豪州は手のピッチを上げることによってスピードを出そうとしているわけです。われわれが今まで考えてきていたように脚を強くして完全に打つというのではピッチは遅れます。完全に打つことによって手の位置をきめて行こうとすれば、伸びをつけるようになる。これまでの泳ぎは伸びによってスピードを出そうとやっていたのではないかと思う。

太田 豪州のコーチの話では、足のほうは重点を置かない、手に非常に重点を置いてやるということです。泳ぐスピードとしては足よりも手のほうが効率的だということも理論的にもいえる。しかし豪州のいうように、足を全然考えないで、バランスのために足を打っているのだというような考え方は、誤解を生むと思う。というのは、彼等の水中写真を見ると、脚も非常によく効いている。日本のいままでやっていたように、ヒザを曲げて大きく打たないけれども、非常に足首がよく動いている。脚の振幅は小さいが、足先の振幅は日本と同じくらい大きく動いて強くけっていると思う。日本の脚はまだそこまでいっていない。もちろん手を強くしなければいけませんが、それと同時に足もちゃんとやらなくちゃいかんと思うのです。日本では非常に水面近くで水しぶきをあげて脚をうつのが非常に多

い。これはヒザをうんと曲げて水を後に押すようにして打てと教えられているからだ。体が前に進むためには、足は後に押した方がよいが、動作そのものをそのように教えられたのでは体を浮かし、あるいは推進力になることにはならない。

北村 前進の効果という点からいえば、手のほうが効果がある。だから、同じ力を使うならこれは腕のほうに重点を置いたほうがよいというのが彼らの意見だ。しかしそういいながら、実際は彼らの足は強いですよ。この点は従来のわれわれの行き方も考えなくてはいけない。

赤樫 阪本さんが先程いつたように、足の振幅が小さいから、それがキック足になって非常に生きている。そして、いつでもピッチが上りスピードが出る。日本選手は足のほうから相当根本的に直さなければ、手だけを直しても、泳ぎは直らないと思う。

北村 ビート数のことですが、昔は、ビートはクロールではないといわれたものだが最近ではビートがかなり多い。しかし豪州の選手は必ずビートを正確に打っているわけではないようだ。

赤樫 デビットみたいにピッチが60近くになったら、これは人間の意識として、足は手について行けないと思う。デビットのあの手で足も6ビートに打てば、それに越したことはないが、やはり短距離選手は、あれだけのピッチをあげる事が大切で、足は必ずしもそれについて動かなくてもいいと思う。

北村 われわれはああいう完成された選手を見たが、足に重点を置かなくても自然に強い足になっている。これはやはり、豪州が、若いうちからクロールの基本的な練習をやっているということではないかと思えますね。おそらく、足がどうでもいいということではなくて、基本的には足もやっているのですね。

赤樫 変則ビートというのはあまりない。ただデビットは、手のほうがあまりにも速すぎるから、ビートが動かなくなってふらついている感じだね。

太田 先輩の人が外国に行くときは板を持って行ったと聞いたが、このごろの日本の選手は板を持って行かない。それは、どこへ行っても板の設備があるからだといえればそれまでですけど。向うの連中を見ていると、小さなビーティングのボードを必ず小脇に抱えている。基礎練習の気持ちにそれだけの差があるように思う。だから、やはりビートはうんとやらなければならぬことだ。

腕 と 脚 の 練 習

北村 ついでに、手と足の練習について御意見を伺いたい。豪州がいうには、シーズン初めはレグレス手が1500くらい、ビートが800くらい、しばらくすると、手はやめるけれどもビートは続けるかといっていたが。そのレグレスというのは、近頃の日本ではあまりやらないようですね。

村上 あれをやらせるとガタガタになってしまう。足から始めると、ちゃんとした泳ぎになるが、手から行って行くとやはりつんのめってしまう。だからやらなかったわけです。けれども、つんのめる泳ぎがいいとなれば、これは当然やらなければならない。

北村 腕を伸ばして水に入れる形のレグレスでは体が沈むので非常に苦しい。腕を曲げて、それをキャッチング・ポイントまで入れてかく泳法をやれば、レグレスはうまくいくと思いますね。そういうキャッチを覚える上からいってもレグレスはいいのではないですか。

村上 そういう泳ぎをしても、足とつながらないということがありますね。

北村 それはさっきの話に戻って、足の振幅を細くして合せて行くというようにしなければ、ピッチも上らないし、有効なキャッチができないということじゃないでしょうか。

赤樫 足をそんなに意識しないで、少し流すくらいでレグレスをやると非常に調子がとれる。これで調子をコントロールする選手はあった。しかし、それは本当のレグレスじゃない。

背 泳

北村 バックについて、豪州の泳ぎの要点をいっていただけませんか。

赤樫 バックの位置もフリーとおなじだと思う。自由形をそのまま裏返しにしたものが彼等のバックだと思います。しかし腕は肩甲骨の構造もあってフリーのようにはいかない。そんなに深くはかけないのです。それでも、いきなりキャッチング・ポイントに入れてかいてますね。このことは、クロールの裏返しということからいうと、体を浮かすことになります。

芦田 日本のバックは、体は寝かしたままの位置にしておいて腕をかく。豪州のを見ると水をかくのではなくて、腕を支柱にしておいて体のほうをぐっともってってしまう。要するに体が後側につんのめるような恰好になれば、少々体が動くのは仕方がない。ピッチングがどうだローリングがどうだとかいうよりは一回でも余計に腕をかいたほうが良いという感じだね。

赤樫 彼等の泳ぎをよく見ると、やはり練習で責めて鍛

えられた選手だけに、腰の上下動は余りない。腰はキチッときまっているし、体の線は一本線を通っている。ただ見た感じは、日本人のようにシャチコばった泳ぎではなく、ここから下はどうでもいいのだ、手でかくのだという意識で動いている。

芦田 腰はフラフラしていない。安定している。ただ、体も軟かいのだと思うか、あれだけ深くかけば相当ローリングが出てくると思う。それがはたしていいか悪いかは知らないが。

北村 さっき赤樫君がいった手のかき方を、朝日新聞の座談会でギャスリー氏が説明している。キャッチを深くして、その深く手を入れるとき体を浮かすというのが一つの点だ。そうしてこゝからすぐかく。しかも伸ばしたままかき寄せているのではなく。肘を曲げて、真横から更に15度くらいかいたあたりから、肘を体にくっつけて、肘を支点にして、肘から手の先までをぐっこねるような形でやるというのです。二段モーションというか。

阪本 私は学生時代に最初からいきなり肘を曲げて、かいてみた。これは練習のときだが、100を泳いだのとタイムが変らなかった。肘を曲げたほうが楽です。

北村 清川さんなんかは、いまの選手よりも、水中で曲げていた。

芦田 肘を曲げると最短距離で直線的にかけるという考え方だ。

村上 いまの話の中で一番いいと感じたことは、肘を身体にくっつけてこねるように持つてくるということだ。これは非常にスナップが効きますよ。

赤樫 ただ、そのスナップは、一番有効なところがかかなければならないと思う。

北村 ギャスリー氏もいっていたが、ローリングは、ちっともしないということではないのです。

赤樫 ローリングするなら、してもいいということだ。

北村 といって、あまりローリングしても問題があると思う。

村上 日本人はどうしてもローリングするようになるのではないか。というのは体が固いから。肘を曲げて深くかくというのは、肩が相当軟かいためではないですか。日本人であれだけの深いポイントに持っていかるとすると、ずい分ローリングするよ。

北村 ローリングの問題は、クロールでもそうだが、腕をかくのに都合がいいように考えるべきであって、腕が効くように自然にローリングすればいいのだ。

赤樫 長谷君が一時泳ぎを変えた。はじめの彼の泳ぎは全然ローリングしなかった。手のキャッチだけをモンクトンを参考にして深くしている。その結果少しロー

リングがでてきた。モンクトンもローリングしているが、ピッチが早いから、ローリングしているように見えない。ピッチが速いから、あの手の角度でキャッチしようと思ったら、やはりある程度肩の線を入れないとかけないね。

ピッチの問題

北村 そこで、背泳と自由形を含めて、短距離のピッチの問題はどうですか。

太田 豪州の短距離の連中と日本の短距離の連中の泳ぎを比較すると、日本の選手は57秒くらいで泳いだとしても、いかにもバネのない感じだ。外国の連中は不細工な泳ぎでも、非常にスプリントのある泳ぎをしている。日本の選手がはじめてから短距離に向かないようにできているのではないと思う。選手が一人前になるまでにやらされるロングという練習方法に問題がある。ロングを流すような練習をするために、バネのあるいいスプリントをもった人も、長距離的な泳ぎになってしまう。はじめてから短距離に向く人はインターバル練習を徹底的にやって、バネを失わないような方向へもっていけば、悲観すべき問題じゃないと思います。

北村 例えば豪州の選手はとてもピッチが速い。日本の選手は腕を伸ばして、悠々と泳いでいる(笑)。

太田 そういうところが、ロングの練習からきたのじゃないかと思う。いままで豪州のような泳ぎを日本選手にやれといっても、どうしてもできないと思う。徹底的にダッシュでもっていかなければね。

北村 ピッチの上らない短距離というのはダメですね。

平 泳

北村 平泳のことを簡単に……。

赤樫 ギャザコールの泳ぎ方は非常にスムーズだと思う。足も強いし、手も強い。

太田 彼は葉室さんや小池さんの泳ぎと大体似たような泳ぎをしていたが、その人たちもよいタイムを出しているのは、その上に力があって、ピッチが上がるためだと思う。

北村 彼の特長は、上下動がほとんどないということ、手のかく距離が短いということ。日本の選手は少しかき過ぎはしませんか。

赤樫 潜水泳法から来たのが、手のしまい方が下手だ。手をかいて前に突き出すときに動作の中断がある。

太田 日本の選手との一番の違いは、日本の連中は潜水泳法のせいか、胸の前で手をつぼめて一時静止してい

る。スピードのない抵抗の多い所で。

北村 手は、しまったらすぐ出すということですか。

赤樫 そうですな。日本のはすぐ出さない。

芦田 豪州の泳ぎは停止することがなくて、かきながら前に出す動作に移っている。日本のは一時的にはかき切って、停って、そして出している。

赤樫 ギャザコールの泳ぎを上から見ると、かいていないで水をなでているように見えた。実際はそうでなしにうまくかいているんだ。

北村 なでているように見えるが、それが非常に効いているんだね。

村上 とくにピッチを上げたときは相当かいているね。

北村 長くかくのではなくて、短かく手をかく動作をうんと効かすということだね。とにかく日本の選手はギャザコールに比べると、みんな猛烈な上下動だな。大学から高校と下に降りて行くほど、プレストの泳ぎはいいと思う。中学生にはいいのがいたよ。

村上 潜水泳法の悪影響は大きいね。

インターバル練習とは

北村 インターバルの練習方法にはいろいろ。インターバルというのは、要するに間隔をつめて短い距離を積み重ねていく。その間隔は10秒の場合もあるだろうし、30秒の場合もある長くて1分ですね。それで100を10回とか15回、あるいは200を何回とかいうようなこと。これがインターバルだといっていいですか？

阪本 つめるのじゃなくて、ある間隔を置くというのではないかな、つめるという感じよりも。

赤樫 1500を間隔なしに泳ぐのじゃなしに、短い間隔をあけてやるということなんです。

北村 短い間隔を置いて、短い距離を何べんも積み重ねる。こういう練習をインターバルというふうに解釈していいですか？

村上 そのほうがいいね。

インターバルのやり方

北村 豪州のインターバルのやり方は別の座談会にもあるので、省略します。赤樫さんが全日本の前に高校生を集めてやったインターバルは、どうでしたか？

赤樫 試合前10日間くらい合宿してやりました。しかしテストケースだから何が何でもやってみようということでやってみたが非常によかったと思う。ただ、人によってうまくいったのとそうでないのとなったのは考えなければならぬ。

例えば福井にとっては必ずしも成功ではなかった。福井、丸山、古木の3人を一緒にインターバルをやせたが力が違うので、丸山と古水には非常にいい練習になったが、福井にすれば力をセーブして泳ぐことになる。これではインターバルが徹底しない。彼はやはり山中とか藤本とかと並べてやらなければならない。それができなければ、せめて福井を一人で泳がすべきだったと思う。石橋のような体のできていない選手がインターハイの試合にいて確実に8秒台を数回も出せたのは、インターバルである程度最初の出だしを自然と身につけたといえるのじゃないか。

北村 インターバルというのは本人の達成する目標を置いてはじめて練習の効果がある。丸山や古木の場合には、そばに福井という目標があったからよかった。反対に福井は他の人と並んで比較的楽に泳いだためインターバルの効果が少なかったということですかね。

赤樫 競争の世界ですからね。ああいうふうに3人並べると、どうしても無意識のうちにでも競争している。競争するなら相手を選んでやる必要があると思う。

北村 逆にいうと、楽なインターバルというのは意味がないということかな？

赤樫 試合前になって、自分のベスト記録をねらおうというような大事なインターバルをやるときに、力を落した楽なインターバルをやるのは、これはロングを引くのと変らないと思う。

北村 村上さん、アメリカから帰ってきて、日本大学ではインターバルに切替えたのですか。

村上 赤樫君が経験されたとおり、大体私のほうも同じようなことを感じたわけです。

北村 例えば山中の場合は、ペースメーカーでもつけて、相手を替えながらインターバルをやっていくということになるでしょうか？ それと、彼に合ったような記録をピシッと算定してジャニムニ教えていくのでしょうか。山中の場合はメルボルンの合宿ではペースメーカーをつけてやったそうですね。

太田 そのときは、いまいうようなインターバル練習は確立されていなかった。そこで、1500又は400を泳ぐ途中でペースメーカーをつけたわけなんです。現在ではインターバルの効果が非常にはっきりしているのですから、ペースメーカーをつける必要はなくて、タイム、タイムで押していけば十分だと思う。山中だけでなく、ほかの人も全部それでいいと思う。コーチがその選手の能力を知って、あと半年、或はあと一年先には何秒にするのだという目標を立てたら、それに向かっていくような力を発揮するインターバル練習を見つけていけばいいと思う。

赤樫 10人いる場合に1人ずつやれない。どうしても3人くらいが一度にやることになる。

太田 それは日本のコーチの制度に関係してくるわけだ。ただ一番いい方法としてははまいったことだね。

阪本 その場合に、能力に応じたノルマを与えるのだけれども、たまたまノルマが合致した場合にだけ一緒にさせて、そのほかは個人個人でやらすべきではないかと思うのですが。

南 結局、インターバルというのは、個人差を十分に考えないと、失敗を招くということになりますね。

松岡 慶応大学の場合は、日本選手権の前にインターバルをやった。自分の経験のためにと思って100ばかりやってみた。その結果200が割合強くなった。インカレのときは50を主眼としてやったが、同じようにタイムをきめてしまうとまずいから、1回目は二宮だけが泳いで、2回目はほかのフリーの連中を二宮につかせて泳がせた。これは割合効果があった。インカレのときは逆に100が強くなって、200のほうがおかしくなった。経験の途上だから、はっきりいえません。

北村 例えば4分40秒で泳がせようという者と、5分20秒で泳がせようという者とは、それに依ってインターバルのタイムが当然違ってこなくてはならない。そういう目標別の標準がつくれるでしょうね。

村上 標準はつくれるでしょうね。いままでのデータを基本にすればいいのですから。

九州では、この選手を5分で泳がせる。4分50秒で泳がせるという表を作っているところもありました。つまりインターバルのノルマ・タイムを。

阪本 ということは、各個人の能力なり、体のコンディションに適したものでなくては、一律に「ヨーイ、ドン」ではかえって弊害があるということですね。

太田 今度は指導者が大変だ。つきっきりでやらなくちゃならんね。選手の疲労度とか何とか、一々気を使わなければならないから。

北村 豪州でも1人のプロコーチが200人くらい教え子をもっているが、本当にこれかと思って指導できるのは1人だといっていた。ところが、日本の場合はチームとして強くしなければならぬのだから、その辺の工夫が要るのじゃないか。

村上 人数が多ければ多いなりにやれると思う。例えばおんなじような力の人が必ず数人はいますからね。

太田 水泳連盟で今後やろうとしても、選手1人にコーチ1人というわけにはいかないから、数人まとめてやる一番いい方法を考えなければならないね。

村上 インターバルというのは、いわばコーチが選手をつくり上げる方法です。いままでのように、慢然と泳

がせておいて選手が自然に出来上ってくるのを待つという方法じゃない。あくまでコーチが責任をもって始終見てやるようにしなければいけないと思う。

北村 青竹を振り回してただがんばれじゃいけない。

村上 頭の中で自分の選手をこういうふうにしてやろうと思って、それにだんだんと近づける練習がインターバルです。そういう選手をつくり上げる練習なんです。

北村 村上さん、あなたは9月九州にいて、第一線の指導者と話してこられましたか、インターバルについて何か疑問が出ませんでしたか。

村上 できましたよ。われわれ以上にインターバルやっているとところもあります。又反対に全然やってないところもありました。やってないところは「なぜインターバルに切替えたのか。いままでの練習はどうして悪いのか」という質問があるわけです。また一方では、「こういうインターバルをやっておる。そうしたらこういう結果が出た」というふうな、ほくらもやっていない結果まで出してきました。例えば、インターバルの練習をやっていけば疲れが必ず持越さない。ロングを引いていけば、その疲れが翌日まで残っているというデータを出してくれた人もいます。そういうことは、非常に貴重なデータだから、東京に帰ったら報告しておくといってきたのですが、まあ、結論としてインターバルをやろうということになりました。

ロングとスプリント

太田 インターバルの練習方法について、ここで一応検討していいのは、今後練習するのに、いままでやってきたロングというものをいれて練習するか、それとも全然入れないでやるかということでしょうね。インターバルの方法はいろいろあると思うが、その前にインターバルを全面的に採用するなら、ロングをどうするかということを検討する必要はないですかね。

北村 そう。ロングをやることの弊害は、休んでいる時間が長くて、がんばるのは最後の100か200になってしまふことですね。ところがインターバルというのは、福井の場合でも出たように、がんばった泳ぎを積み重ねていくというところに値打ちがあるのでしょうか。ですから、確かに太田君のいうように、ロングの弊害ということを考えなければならぬでしょうね。

太田 いわゆる一人前の泳ぎになるまでは、ある程度のロング——といっってはおかしいが、長く続けて泳ぐ期間というものが必要かと思うのですよ。しかし、一応レースの1月前とか、あるいは第一線に出て来たような人は、全面的にこういう方法でもって泳がなくては

だめだ、練習しなくてはだめだということを確認するほうがいいんじゃないかと思う。

北村 村上さんが触れたように、フォームとインターバルとは密接な関係があるということでしょうな。

村上 スプリントがないと、長距離を泳いでもだめだ。競泳は何か基本かといえば、スプリントだと思う。そのスプリントが、ロングを泳ぐことによって消えてなくなってくると思う。始終スピードを出して泳ぐ練習をやっていたら、フォームもよくなるし、また速く泳げるようになると思う。いままで短距離の練習は、400を泳げないと100も泳げないのだという考え方だった。そうだから、短距離の選手はまず400を泳がされる。その400も100のレースの最後の5mの力をつけるのだということをやっておった。ところが、400を泳がされることによってスプリントがなくなってきたわけです。短距離の選手はもちろん、長距離の選手もスプリントをなくさないような練習を考えなければならぬ。つまりいままでやってきたロングというものは、スプリントをなくすほうに影響して、結局短距離界に不振を招いた大きな原因ではないかと思う。

中学生とインターバル

北村 水泳は中学生から強くしなければならぬことをわれわれは始終強調してきた。また、高校に入って始めて競泳をやる人もいる。そういう初心者と大学の一流選手でインターバルが同一にいくだろうか。

村上 ぼくは初心者のときからやらなければならないと思う。

太田 休みの間隔で調節すればいいのであって、やるのだったら、最初からやらなくては、バネをなくしてしまふ結果になる。

北村 インターバルを中学生に実際に指導する立場として、金田さんどうですか。

金田 インターバルを実際やったのは競技2週間前か3週間前からで、それまではロングでやってきていた。しかし、今まで討議してきたように競技会が近くなってインターバルをやっても、反って疲労することにもなるので、やるなら全期間を通じてやるべきだと思う。今までの日本の選手は、ロングから入った。中学生にはいろいろ種類がある。全然泳ぎのできていないものにもインターバルをやるのか。或はある程度泳ぎというものができてからインターバルをやるのか、その辺が分らない。これは、むしろこちらからおききたいのです。

赤樫 泳ぎをつくるということとインターバルというこ

とがマッチしているのですよ。

金田 そうすると、初めからインターバルをやったほうがいいのかということですか？

北村 少なくとも競技を練習する段階になればね。三枝さん、女子の場合はどうでしょうか。

女子の場合

三枝 女子の場合のインターバルは随分違ってくると思っています。いま皆さんがおっしゃったようなことで果して効果が挙るかどうかと、とても疑問に思っています。

赤塚 ぼくは男よりも女の方が効果があると思うのですがね。

三枝 いろいろ考えたのですが、例えば100自で1分10秒切れるような人だったら、インターバル練習は効果的だと思うのですが、そういう水準の人は少いでしょう。だから、インターバル練習が誰にとっても効果的なものかどうか、疑問です。国体の練習のとき東京都の選手全部にインターバルをやったのですが、どうもあまり効果が挙らなかったと思います。

北村 それは、急にやったからではないかな。インターバルが初心者に必要なかどうかという先程の議論は女子の場合にも同じではないでしょうか。

赤塚 日本の女子選手の泳ぎの悪い所はバネがないことです。これは女子の体格からくる原因もあるけれども、一つには練習方法からくるのではないかと思う。だから、もっとインターバルで責め上げれば、いままでのようなテレンコ、テレンコした泳ぎがなくなると思う。つまり泳ぎとスタミナを同時につけるという意味でいいと思うのです。

三枝 ですから、それはある程度の人に例えば佐藤さんなんかの泳ぎを見ても、やっぱりインターバルに適した泳ぎだと思うのですが、そこに行くまでに、全部が全部やっていいかどうか。体力の問題もありますし。

赤塚 例えば13歳で体力のできていないものにはそのようなインターバルをやるし、1分20秒で泳ぐ選手には、1分20秒で泳ぐ選手のインターバルでやらせればいいのです。それを1分10秒の人とおんなじようなインターバルをやらせると参ってしまうけれども。

太田 インターバルを、いままでやってきたダッシュで全力で泳いで、何秒か休んで、また全力で泳ぐというこれをやるとまいってしまう。そうでなくて、個人の能力に応じた泳ぎを何回も泳ぐのだというふうに説明しないと、誤解を招くおそれもある。

スタートとターニング

北村 インターバル練習に徹すると、日本のこれまでの練習時間は随分と短縮されましようね。逆にいえば、短時間にもっと効率的に練習をすることが大切ですね。

村上 そういう意味からいっても、スタートとターンをもっと研究しなければ。

赤塚 ターニングについて、先輩に教えられたことは、できるだけ身体を縮ましておいて、パッと出ればよいということだった。豪州の考え方は壁に着いたら、それ以上近寄るな、着いたらすぐ引き返すのだね。ぼくは確かにそういう理論もあると思う。

北村 山中とコンラッズのターンを横から見ていると、まわる速度が速いとか、ける力が強いとかいう問題ではなくて、ターンの前のできと抜かれるのですよ。

赤塚 水中ターンでもタイムは変わらない。ただ前後の動作が速い。

太田 ターンは壁に触れさえすればよいのだから素早く離れるようにやらすべきだね。

村上 往復損するからね。引きつける力と離れる力と往復損してしまう。

北村 ターニングとスタートに上達する必要は、いくら強調してもしすぎることはない。

太田 日本選手のスタートは上へ跳ぶ。彼らは決して上へは跳ばない。体を寝かしたままで跳びますよ。

阪本 日本はスタートで腕を引きつけすぎますね。また一体に手の巾もせまい。握りが肩の幅くらいの位置にあるようだが、これはむしろもっと広目にもった方がいい。そうでないと、同じ引きつけるにしても肩に力が入る。広ければ割合に楽だ。それに、肘を曲げることはないと思う。

また足が上れば上るほどヒザが折れる率が強くなる。ジャンプするときには曲げたときのヒザの角度が90度くらいのところが一番効く。ヒザを曲げすぎると、無駄な動作になる。どうしても二段動作になる。短距離やバックの場合スタート直後の水の中で無暗に長く潜ろうとするよりも、水に落ちたらすぐ足を打ったほうがいいと思う。

赤塚 ビートについては、スピードがなくなるちょっと前に足を打てばいいと教えられたものだが、豪州の泳ぎを見たら、水の中から早く出て一回でも多くかいたほうがとくだということを感じた。

(終)

泳 法 研 究 会 報 告

南 佳 恵

本連盟では水泳強化の最大原動力は、第一線の指導者にありという見地から、これらの人達に一度集って頂き、貴重な体験や意見を伺い、又連盟の考え方や資料を提供して参考に供したいと考えていたのであるが、シーズンも終わった11月にこの会合を持つことができた。これは8月に行ったジュニア指導会のせつ、附添として上京された中学校指導者の方々の集りと共に、極めて有意義なものであったと考えている。

以下はその報告である。

1. 期 日 昭和 33 年 11 月 14 ~ 16 日
2. 場 所 東京都新宿区霞丘町 日本青年会館
3. 主 管 日本水泳連盟
 会 長 樋口一成 専務理事 小出靖彦
 実施責任者 北村久寿雄
 指導員 村上勝芳, 太田光雄, 赤樫卓爾
 南 佳恵
4. 講 師 体力医学研究委員会 名取礼二郎氏
 東京生産技術研究所 角野 晃二氏
 上智大学体育講師 吉田 勝平氏
5. 参加者 55 名(女子 4 名)
 松尾 治夫(青 森) 金田平八郎(東 京)
 牧江 春夫(秋 田) 小野 勝資(東 京)
 渡辺 国男(秋 田) 白石 俊夫(千 葉)
 小泉 肇一(山 形) 高橋 利悦(千 葉)
 小野卯三郎(宮 城) 佐藤 忠(神奈川)
 加賀谷耕三(宮 城) 平尾 静子(神奈川)
 渡辺 良三(新 潟) 式守 正(浜名湾)
 黒沢幾久男(茨 城) 大杉 信孝(浜名湾)
 田島 金藏(埼 玉) 中村 明彦(愛 知)
 小田切陽一郎(東京) 神野 睥(愛 知)
 三枝美貴子(東 京) 田中 貢(富 山)
 串田志都子(富 山) 大崎卯藤久(石 川)
 山形 郁夫(石 川) 沢田 道雄(鳥 取)
 大橋 俊信(石 川) 中村 貞治(徳 島)
 塩野 安章(三 重) 横田 正明(愛 媛)
 山崎 郁男(三 重) 藤村 吉夫(愛 媛)

- | | |
|------------|------------|
| 沢農 利勝(大 阪) | 三宅 廉(香 川) |
| 馬場 止(琵琶湖) | 藤尾恒九郎(高 知) |
| 山本 吉春(琵琶湖) | 宮田 建夫(高 知) |
| 森 好男(奈 良) | 池田 文七(奈 良) |
| 浦井 保弘(奈 良) | 石井計一郎(福 岡) |
| 池田 岩夫(和歌山) | 古賀 長善(福 岡) |
| 植月 弘次(岡 山) | 黒佐 年明(福 岡) |
| 宮脇 通明(鳥 取) | 青木 行義(福 岡) |
| 末広 力(山 口) | 島田 豊彦(熊 本) |
| 村尾 正亀(山 口) | 田村 省三(熊 本) |
| 岡田 正一(大 分) | 東郷 清一(鹿児島) |
| 渡辺 修(大 分) | |

6. 日 程 表

14 日

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| 13.00~13.30 | 受付, 部屋割 |
| 13.30~14.00 | 開会式, 会長挨拶 |
| 14.00~16.00 | インターバル練習について
担当 村上, 太田, 赤樫各委員 |
| 16.00~17.00 | 体育医学より見たるインターバル
練習 担当名取講師 |
| 18.00~20.00 | 映画による泳法の研究
解説 太田, 赤樫委員 |

15 日

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 9.00~10.00 | 泳法研究 日本青年館 |
| 10.30~11.30 | " 都屋内プール |
| 14.00~17.00 | 体操研究 四谷第六小学校
担当 吉田勝平 |
| 18.00~21.00 | 会食, 懇談会 日本青年館 |

16 日

- | | |
|-------------|-------------|
| 10.00~12.00 | 研究座談会 日本青年館 |
|-------------|-------------|

7. 日 誌

第1日(11月14日)午後1時, 所定の時刻に日本青年館に全国加盟国体から推薦された55名が集合。会長から

「今夏豪州水上チーム来日によって我々が学んだ選手育成と指導法の研究とその普及, 並びに第一線指

導者の強化を目的として、この泳法研究会を開催する。来るべきローマのオリンピックに必勝を期するため、この会で各自の意見を充分交換し、意義ある研究会にして頂きたい」旨の挨拶あり。

午後2時より研究第1課のインターバル練習について、村上、太田、赤樫各指導員による説明あり、終って次のような活発な質疑応答が行われた。

石川県水連大橋氏「インターバル練習中のハンドヤピーティングはどのように行うか」

大分県水連岡田氏「短水路と長水路でインターバル練習を行う場合、時間と距離をどのように扱うか」

ついで「体育医学より見たインターバル練習」と題し、体力医学研究委員会の名取礼二郎氏が次のような説明を行い、一同に大きな感銘を与えた。

1. トレーニングの一般問題
 - 1). 熟練度
 - 2). 粘り
 - 3). その他
2. インターバル練習の効果
 - 1). 呼吸循環系
 - 2). 神経系
 - 3). 筋系
 - 4). その他

午後6時夕食の後、映画による泳法研究会。今夏来日した豪選手の泳法。ロサンゼルス及びハワイに遠征した山中、石井、古賀、石本、古川、福井、長谷等の日本選手、オヤカワ、コンノを中心とした米選手の泳法を映写、太田、赤樫指導員の解説で熱心に観賞し、第1日の日程を午後8時半に終了した。

第2日(11月15日)

午前9.00~10.00、東洋軒 グリル において太田指導員による泳法研究。

10.30~11.30 都屋内プールに現役選手を集めて泳法の実地研究会。

午後2.00~5.00 四谷第六小学校において吉田勝平氏指導による体操研究会

午後6.00~9.00 樋口会長、小出専務理事を交えて会食、つづいて懇談会。

第2日は第1日の理論的研究に比べ屋内プールにおける実地の研究、四谷第六小学校における体操の実施を行うなど、実地による研究が多かった。

第3日(11月16日)

午前10時より青年館小ホールにおいて2日間の研究会をふり返ってみて総合的な研究座談会を開催。アンケートを出して、3日間にわたる泳法研究会を終了した。(筆者は本連盟競泳委員)

女をあげた小田切紀子さん

高岡国体の最終日、郷土対抗400mメドレーリレーのときの話。スタート台に期待している選手の中にどうしたのか女子が1人いる。よくみると小田切さんだ。福岡チームの世話やきでもしてるんだなと思っていたら、アナウンスが始まった。「第6のコース、福岡県チーム、富田君、小田切君、開田君、古賀君」すると水連の勝村氏が飛んで行って「小田切は女だよ。さんづけで言ってくれ。」という。どうしたんだろうと思っているうちにレースが始まって、第2泳者の小田切さんは和歌山の古川、高知の木村、東京の増田などソーソーたるベテランを相手に大奮闘したが、矢張り女故に水があき、文字通り雌雄を決してしまった。

ことのいきさつはこうだ。此の日の朝早く行われた同レースの予選で福岡はプレストに和歌山県出身だが今は福岡県につとめている名倉選手を出した。これは郷土対抗の意味に反すると大分県から抗議が出て、決勝では同選手を出さないことになったが、他の選手は昨夜の汽車で帰郷してしまったのだ。止むなく残っていた小田切さんが引張り出されたような次第だが、福岡県監督の高木氏は「郷土対抗は男子とも女子ともきめられてないから、かまわないでし

よう。」という。しばらく議論したが結局得点種目でないから認めようということになったわけであるが、男女別があいまいとはいえ、今までは一応男子種目として考えられただけに、何か割り切れないものが残ったようだ。

もっともテニスには混合ダブルスというのがあり又スケートにもペヤスケートがあるから、水泳にも男女混合種目を設けても別に差支えはなさそうである。男女とも平均して実力のあるチームが此の種目に強いことになるのだが、オリンピックにでも採用されるとしたら、矢張り米国とか豪州あたりに有利な種目で、男が強い日本や、女の強いオランダなどにはうまくない種目だ。

なお「郷土」という意味について種々検討した結果、これをはっきりさせるために、「甲県出身で乙県在住のものはたとえ、甲県選手として出場しなくても、乙県選手として出場できない」という条項を設けることになった。立教大学の細間輝喜選手は広島県の中学で強くなり、立教高校一大学と進学して現在東京在住者であるが彼の「郷土」は広島県ということになり、東京都の選手としては出場できないということである。(宍道記)

ペー ス の 研 究

坂 本 宗 隆

今夏ロサンゼルスで催された国際招待大会及びハワイのナカマ記念大会に遠征した日本チームの監督村上勝芳氏から、出発前に要求され、所定のタイムに合致した標準的なペースを作ったことがある。村上氏としては、理想的なペースをはっきりした形で掴みたいという願望を以前からもっていたものと思う。

ロスの和田邸に落ちつく間もなく、ローズ、ヘンリックスが籍をおく南カリフォルニア大学及びラーソン等の所属するロス・アスレティック・クラブのコーチを兼ねているピーター・ダランド氏（数年前までエール大学のキップスの片腕として働いていた水泳記録の研究家で世界的権威）の突然の来訪を受け、よもやま話のうちに、村上氏が「1500の理想的なペースについて、どう考えるか？」と聞いた処ダランドは言下に「初めの100をXとすれば、次の100はX+6秒であり、300以降の100はX+8秒で、これで1500まで押し通す。最後の100は実際はX+8秒よりも速くなるだろうが、理想としては、余力を残さず1500の長さに全力を平均して注入すべきであろう」と数日後には雌雄を決する相手のコーチに堂々と所信を披瀝する開放的な態度はまことに見上げたものであった由。

この会見後、村上氏はダランドの意見をなんらかの形に現わしたいと苦心の末、次のような方程式をつくりあげた。

$$15x+110=y$$

110というのは、2周（用語は適当でないかも知れないが、100を1周とみなして）目の6秒と、3周以降の8秒の13回分の合計が110秒となる。yは求める1500の記録である。

$$\text{この方程式から } 15x=y-110$$

$$x=\frac{y-110}{15}$$

となり、求める記録が19:00.0ならば、19分は1,140秒であるから、滑り出しの100は、

$$x=(1,140-110)\div 15=1:08.7$$

1:08.7弱が適当だということになり、2周目はそれに6秒を加えた1:14.7で、3周以降は8秒を加えた1:16.7ということになる。

村上氏は選手を育てあげるのが上手だということは万人の認める処であるが、数学においてもこれほど造詣が

あるとは、失礼ながら意外であった。

これは村上氏が作ったものではあるが、意見はダランド氏のものであるので、二人合作の意味で私共はダランド-村上方程式と称んでいる。

これまでにマークされた各選手のいろいろな記録と、この方程式によって割り出したものを比較してみると、実に適切なものであることがわかった。流石に記録の権威ダランドの喝破した6秒、8秒はそのものずばりである。だがこの方程式も万能ではない。18:00.0から19:30.0位の範囲内なら適合するが、17分台の場合は、初めの100に負担がかかり過ぎ、20分近くになると、初めの100が甘くなり過ぎるように思う。これは6秒、8秒の仮定が前提となっているので仕方のないことである。

しかしこの方程式は後世に残るものであり、広く世界に紹介する要があるように考える。

村上氏は米国でインターバル練習の必要を痛感し、帰国後それを強く主張され、講習会まで開催されたから、来年は全国的にこの練習法がゆき渡るものと思う。しかしこれを指導される立場の方々は、どんなものかということは一応わかって、具体的にペースをどう作るべきかに迷っている向きが多いと考えたので、これを発表する次第である。

800の場合は、1500の途中計時よりも6秒前後速くなるのが普通であるから、前記の方程式を適用して、ただ2周目の6秒を5秒1か2に、また3周以降の8秒を7秒1か2に修正すれば、こと足りる。

400の場合は、前記の方程式は適用できない。またそれに替るべき簡明な方法も、目下の処発見されていない。しかし放置するわけにはいかないので、発見されるまでの間、従来私が使用している方法を披露して、間に合せたいと思う。もし適切な方法を考案された方があれば、御教示願いたい。

私の方法はスピード、スケートでは古くから用いられている百分率であるが、それに私の研究をつけ加えたもので、平均速度に対する力の割合を算出するものである。

$$400\text{記録}\div 4=100\text{平均速度}$$

$$100\frac{\text{平均}}{\text{速度}}\div 100\frac{\text{スプリット}}{\cdot \text{タイム}}\times 100=1\text{周}\frac{\text{所要}}{\text{比率}}$$

$$\text{〃}\div 200\quad \text{〃}\quad \times 100=2\text{周}\quad \text{〃}$$

// ÷300 // ×100=3周 //

// ÷400 // ×100=4周 //

この計算に基いて、特異なものを除き、中庸を取り、標準的な比率を設定するわけである。

結果を先に報告すれば

第1周	107.4%	第3周	97.0%
第2周	99.2"	第4周	97.0"

この比率を設定するまでの経過は、前記の1周毎の所要比率の対照は勿論だが、私は次の点を特に考慮した。

1. 持続速度—2周以降の速度 = $\frac{400\text{記録} - \text{第1周}}{3}$

スタートのある滑り出しの速度と、スタートのない2周以降の速度には、相当な差のあるのは当然で、後者の方が勝敗を決定する要素も多いと考えたので、重視したわけである。

2. 格差(後半—前半)

欧州ではペースの研究というとこれに限られているようだが、これのみでは大まか過ぎて、1周目と2周目、3周目と4周目の関係などがわからな

い。この数値があまり小さいのは、前半が遅過ぎることを意味している。

3. 持続速度—第1周

第1週の適正度を判定する資料。多くの例から6秒合がノーマルで、許容度を1秒とすれば、6秒〜7秒となる。

4. 持続速度—第4周

3周目と同じ速度が理想であるが、実際問題としては、距離も短いし、競り合い死力をつくす処であるから理論通りにはいかないが、数値がマイナス(ラスト・スパートが遅い)の場合も、1秒以上(多くの場合1周目が鈍い)の例も少ない。

以上説明不十分な点もあるかと思うが、今後インターバル練習を心掛ける方の多少なりとも参考になるなら幸である。

なお選手の力量に応じて、いろいろの場合を想定し、標準的なペースを次に掲げる。

1500m 自由形

100m	1:04.7	1:06.0	1:07.3	1:08.7	1:10.0
200	2:15.3(1:10.6)	2:18.0(1:12.0)	2:20.6(1:13.3)	2:23.4(1:14.7)	2:26.0(1:16.0)
300	3:28.0(1:12.7)	3:32.0(1:14.0)	3:36.0(1:15.4)	3:40.0(1:16.6)	3:44.0(1:18.0)
400	4:40.7(1:12.7)	4:46.0(1:14.0)	4:51.0(1:15.3)	4:56.7(1:16.7)	5:02.0(1:18.0)
500	5:53.4(1:12.7)	6:00.0(1:14.0)	6:06.6(1:15.3)	6:13.4(1:16.7)	6:20.0(1:18.0)
600	7:06.0(1:12.6)	7:14.0(1:14.0)	7:22.0(1:15.4)	7:30.0(1:16.6)	7:38.0(1:18.0)
700	8:18.7(1:12.7)	8:28.0(1:14.0)	8:37.3(1:15.3)	8:46.7(1:16.7)	8:56.0(1:18.0)
800	9:31.4(1:12.7)	9:42.0(1:14.0)	9:52.6(1:15.3)	10:03.4(1:16.7)	10:14.0(1:18.0)
900	10:44.0(1:12.6)	10:56.0(1:14.0)	11:08.0(1:15.4)	11:20.0(1:16.6)	11:32.0(1:18.0)
1000	11:56.7(1:12.7)	12:10.0(1:14.0)	12:23.3(1:15.3)	12:36.7(1:16.7)	12:50.0(1:18.0)
1100	13:09.4(1:12.7)	13:24.0(1:14.0)	13:38.6(1:15.3)	13:53.4(1:16.7)	14:08.0(1:18.0)
1200	14:22.0(1:12.6)	14:38.0(1:14.0)	14:54.0(1:15.4)	15:10.0(1:16.6)	15:26.0(1:18.0)
1300	15:34.7(1:12.7)	15:52.0(1:14.0)	16:09.3(1:15.3)	16:26.7(1:16.7)	16:44.0(1:18.0)
1400	16:47.4(1:12.7)	17:06.0(1:14.0)	17:24.6(1:15.3)	17:43.4(1:16.7)	18:02.0(1:18.0)
1500	18:00.0(1:12.6)	18:20.0(1:14.0)	18:40.0(1:15.4)	19:00.0(1:16.6)	19:20.0(1:18.0)

800m 自由形

100m	1:05.3	1:06.5	1:07.8	1:09.0	1:10.3
200	2:15.7(1:10.4)	2:18.1(1:11.6)	2:20.7(1:12.9)	2:23.1(1:14.1)	2:25.7(1:15.4)
300	3:28.1(1:12.4)	3:31.7(1:13.6)	3:35.6(1:14.9)	3:39.2(1:16.1)	3:43.1(1:17.4)
400	4:40.5(1:12.4)	4:45.2(1:13.6)	4:50.5(1:14.9)	4:55.3(1:16.1)	5:10.5(1:17.4)
500	5:52.9(1:12.4)	5:58.9(1:13.7)	6:05.4(1:14.9)	6:11.5(1:16.2)	6:17.9(1:17.4)
600	7:05.3(1:12.4)	7:12.7(1:13.7)	7:35.3(1:14.4)	7:27.7(1:16.2)	7:35.3(1:17.4)
700	8:17.7(1:12.4)	8:26.3(1:13.7)	8:35.2(1:14.9)	8:43.9(1:12.6)	8:52.7(1:17.4)
800	9:30.0(1:12.3)	9:40.0(1:13.7)	9:50.0(1:14.8)	10:00.0(1:16.1)	10:10.0(1:17.3)

400m 自由形

目標記録	4:30.0	4:35.0	4:40.0	4:45.0	4:50.0
平均速度	1:07.50	1:08.75	1:10.00	1:11.25	1:12.50
第1周107.4%	1:02.8	1:04.0	1:05.2	1:06.3	1:07.5
第2周99.2	2:10.8(1:08.0)	2:13.3(1:09.3)	2:15.8(1:10.6)	2:18.1(1:11.8)	2:20.6(1:13.1)
第3周97.0	3:20.4(1:09.6)	3:24.2(1:10.9)	3:27.9(1:12.1)	3:31.6(1:13.5)	3:35.3(1:14.7)
第4周97.0	4:30.0(1:09.6)	4:35.0(1:10.8)	4:40.0(1:12.1)	4:45.0(1:13.4)	4:50.0(1:14.7)

ハンガリーの競泳技術

——ライキ氏著「競泳の技術」より——

宮 下 充 正

その国情を見ると、地理的には海に面せず、ドナウ、タイスの二大河と巴拉トン湖（琵琶湖大）を持つにすぎない。それに加えて気温は、わが国の東北地方に近い（年平均9～11度、年較差20度）環境で、水泳の必要性または水泳発達の要因は見られない。産業は農業、特に牧畜が盛んである。人口は1000万、民族は東洋系で概して中肉中背、昂奮し易く粘りを欠いている。また愛国的感情に富み、騎馬に長じ勇敢で、音楽と舞踏を好むことはいふまでもない。近年の歴史を見ると、第1次大戦、第2次大戦共に敗れ“NEM NEM SOHA”（いないな断じて）の合言葉で、他国の支配からの独立運動が続けられた。戦後は親ソ政策が行われつつあるが、この本が出版された1956年は、反乱がおこった年で、ソ連の戦車が首都ブタペストを占領している。

この本の著者ライキ氏は、FINA 国際水泳技術委員会のメンバーであって、その内容は(1)競泳4種の歴史と今日の泳法、(2)競泳の1年にわたる練習計画、(3)優秀選手の泳法紹介、(4)泳法写真集の4部からできている。

さてこの中から気のついた2、3をあげる。

1. 選手の心理的影響の考慮

練習計画は選手の能力を非常に考慮に入れている。各個人の年齢・身体的精神的性格、技術的能力というものをあてはめている。この計画も選手の調子が下がれば必要に応じて練習量をへらし、練習過労などをおこさないように行っている。その上心理的方面への考慮は注目に値する。

すなわち、諸競技大会の行われる8月を頂点として、選手たちは記録や勝負というものに緊張を増していく。この緊張の影響は肉体的にも精神的にも非常に大きいものであるから、これを冬期において緩めておく必要がある。つまり、練習の開始と同様に、激しい競技期間が過ぎた後、一時に止めないで徐々に普通時の身体状態にもどしていくことが肝要である。特に補助的スポーツ（ランニング・スキー・体操・バスケットボール・ハンドボール等）は選手たちの身体的能力を増加させると同時に気

分転換の心理的効果が多いことも見のがせない。したがって、このシーズンオフには競技とか競技に類したものは避けるべきである。

2. 身体調整への考慮と練習方法

一口にいえることは、徹底的な身体調整に重点を置いた練習方法である。まず、フォームの形成の時期では、その段階に応じて決して無理な距離や無理な速さでは泳がない。シーズンに向って身体機能の発達に無理を起さないようにして、最高の調子に高めていくのである。次に一応のスピードがついてくると、試合における距離とスピードの感覚を養成するように努める。これにはある一定のタイムで試合距離の半分を泳ぐ練習をすることを奨めている。時間は無理のないように決め、十分な休息をとって何度も繰返して行う。そして順次、タイムと休息時間を短縮していく。この段階を持たせてやる練習方法は、選手たちに試合距離と自己のスピードの感覚を会得するのに役立つのである。

これと同時にウォーミングアップの重要性をあげている。各自が自己の最高を発揮できる運動態勢を整えるために、適当なウォーミングアップの量（距離と時間）の正確な把握が必要である。

以上のような注意をしながら、ピーティングにしる、アーミングにしる、すべて完全なインターバル方法で練習を行っている。

3. 水泳の向上と記録更新への科学的研究

ライキ氏はいう。『最高の泳者は、水泳技術の発達に偉大な影響をあたえてきた。成功をおさめた泳者たちは、その泳ぎの型を一般とはちがう身のこなしで新しい流派を作り上げてきた。追従者たちは最初は外形的にそれをまねた。しかし、その中の秀れた者は、さらに新しい方法を求め、より高度のものに、そして自分に適した泳法を試みてきたのである。……』

このように泳法の発達を歴史的に眺め、それがすぐれ
(35頁へつづく)

豪州はこうして強くなった

古橋 広之進

かつて日本とアメリカそれに欧州で三分していた世界の水泳界も、新星オーストラリアが出現してからは、全くお株をとられた感じで啞然としているのが現状ではないだろうか。

その昔、チャールトン、それに近年ではマーシャルと世界的な選手が生れているがまさかこれ迄になるとは誰しも想像しなかったと思う。

これはオーストラリアの水泳関係者は勿論、選手も国民の誰しもが今日を期して一步一步築き上げた賜ものである。

聞くところによれば、オーストラリアの水泳人はヘルシンキのオリンピックの大敗の日をかえりみて、その日から4年計画でメルボンの日をめざしたのである。先ず最初に手がけたのが兎角乱れがちな水連の機構の改革と内部の充実、それにメルボンという基本方針を打出して、これに向って真一文字に突進を始めたのである。

これに次いでコーチ制の採用、技術の向上と世界の水泳技術を専門的に調べあげ、それをオーストラリア式システムに切りかえて徹底的に第一歩から踏み出したのである。

環境と施設に恵まれた点を充分生かして、まず注目したのが若手選手の養成であった。各水泳場には水泳学校まがいのクラブ組織を作って既成選手の練習に合せ、素質のある新人の発見に務めた。

水泳というスポーツは、はげしい上にあきやすい単純なスポーツだけにこれに堪えうる若い時代が水泳生活に適する事は当然の事実である。11、2才の体ののび盛りを一つの山として思い切った激しい練習、又この時期はこうした苦しみにもたえられ、記録の向上にも大きな夢を抱く時代でもある。こうした若手選手をのがさず練習に導いたのも今日を築き上げた大きな成功の原因だったといえる。

そして新人が生れるや、国民こぞって応援するPR運動も忘れてはいなかった。

夏場を飾る水泳の記事、泳ぎの魅力をそそる水泳のニュース、オーストラリアにはここ数年間水泳で明けくれた感さえあった。

こうして水泳という言葉は、若人に対する一つの魅力的な言葉ともなり、水泳熱は日一日と高まっていった。そしてまもなくヘンリックスが生まれ、ローズが第一線にのし上って来た。そして矢つぎばやの世界記録、先ず最初に効果をあげたのがこの手近なフリースタイルの完成であった。

次いで背泳にタイラー、モンクトンの出現。平泳にギャザコールそしてバタフライにウイルキンソンと各種目に新顔が現れて、まさしく水泳の黄金時代を実現するに至った。

この間女子も男子と相前後してクラブ、プレーザー等の世界的な選手が生れてオーストラリアの水泳界は世界記録の殆どをかきかえる偉業を成しとげたのである。

メルボンという地の利を得たことが何よりの大きなプラスでもあったし、オリンピック当時全員が最高調にあるといった天の利もかくせない事実であるが、それにも増して人の和、水泳界こぞって力を合せ一つの目標目指して苦難の道をのり越えたところにオーストラリア水泳界の今日をあらしめた要因があるのではなかろうか。

オーストラリアの水泳シーズンは11月下旬から3月末迄であるから、それ程長いともいえまい。プリズベンより北の地域にいけば常夏、冬でも泳げるが、家業に追われ仕事をもつ選手にとって年中泳いでいるわけでもない。勿論オリンピックその他の大試合に出場する選手は冬でも短い時間ではあるが、身を入れ、心を入れた猛練習をやっている。

体力に恵まれ生活にゆとりをもつオーストラリアの青年には一見のんびりした田舎くさはあるが、ひとたびことに身を入れれば何事にもくじけない不敵の魂を持っているようだ。

悪ずれない従順な気持でコーチの指導に全力をあげて突進する練習風景は躍進を物語るにふさわしい活気に満ちあふれたものである。

常に選手と生活を共にするコーチの愛情と、自信をもったコーチ振りにも敬服せざるを得ない。こうした風景が見られる限りオーストラリアの水泳王国はここしばらく続くことだろうし、第二のコンラッツも生れて来よう。

○ ○

学校の休みを除いては日に一度の練習だが、休みとなれば日に二度の練習が続けられる。

練習は相当激しいもので各選手とも1日平均、10,000m前後の距離を泳がされる。練習は一つのプールでみんな一緒に並んで行くことは少ない。各人1人1人単独でコーチの思うままな距離を与えられたスピードで泳がされる事が多い。

選手のクセと泳ぎを十分のみ込んだコーチのあやつり人形といった言葉がピンとくるような練習に終始する。プールサイドでふざけていた選手もコーチに呼ばれて水に入る時は真剣そのもので、コーチの納得の行く迄何回となくプールを往復する。そして何一つ不平をいう選手もいない。こうした苦しみを積み重ねて大きく成長して行くのである。

こうした練習は女子にもそのまま適用され、男子にとらない激しい苦しみがつづく。

手の突込みやビートについても時々細い注意を与えているが、泳ぎのフォームは激しい練習からおのずから作られて行くと信じている。従って選手はフォームには殆ど気をとられずに泳ぎのペースだけに重点をおいて育てられて行く。

力がつきペースをのみ込んだとみると時折全力で泳がせる。その結果がコーチの考え通りに行けば文句はないが、満足の行かない泳ぎをすると最初から鍛えられる。こうした方法がくりかえされて行く。

練習の方法は種目によって多少差異はあるが考え方は何れも同じ方向である。

この間足をとめて手だけの練習、ピッチをあげて泳ぐ練習等部分的な強化を計っている。特に従来から兎角おろそかだった足の練習に力を入れて来たのが目立っている。板をもったり、プールサイドで行う場合もあるが、手をのばして足だけで泳ぐ方法が最も多い。こうした足の強化が泳ぎを一段とするとどくし泳ぎをまとめていく。外人の泳ぎはややもすると手にとられがちだったがこうして足に注目しはじめたのは大きな特徴ではないかと思う。

○ ○

一方泳ぎの練習のかたわら陸上で体をつくることも多くやられている。シーズン中はそれ程でもないが、シーズンオフを利用してのトレーニングは相当強いものらしく、体の部分例えば手の力をつけること。足を強くすること腹筋をつけることに主眼をおいている。特に面白いと思ったことは重量拳をやっている選手もいたりすることである。

こうした方法が良いか悪いかは別として、あらゆる手段を選んでいろいろな練習を重ね、研究を重ねて思いきった方法を採用して行くあたり、まだまだオーストラリアの水泳は進歩を続けることであろう。

この他、食べ物の研究、医学から出発したデータの収集、それに休息といった点、あらゆる分野から研究を重ねつつある。

○ ○

水泳の技術は今後更に新しい方向に向かって進んで行くことであろうが、その第一歩を開拓したのがこのオーストラリアであって、人力の限界と思われていた線迄記録は縮められてきた。

コツラツの泳ぎにしても一見変りばえのしたものではないが、鍛えに鍛えられた手、足の強さと自信、それに15才の若さが飛躍的な記録を生んだことと思う。

(筆者は本連盟常務理事)

(33頁よりつづく)

た選手によって著しく促進されてきたことを知り、そのような優秀選手たちの水泳技術の写真分析(体位・手足の動き・呼吸等)の必要を説いている。

そして水泳技術が高度に発達してきた現在では、これ以上の発達に科学的基礎の上にうちたてられなければならない。それにはこのような写真分析こそ最善の方法であることを断言している。たしかに数えきれないほどの個人差はあるだろうが、しかし一般に共通する原理があって、それが各選手に理想的泳法完成への出発点を示している。

このことはわが国でも、ようやく行われるようになったが、さらに計画的に各名選手の泳法をフィルムに収め、その科学的研究を行うべきである。そして、これを次の時代に活躍する若い選手たちに見せて、各自が自らの自覚と認識のもとに、自己の理想的泳法発見樹立の道標たらしむべきである。

(筆者は東大水泳部主将 教育学部体育学科在学中)

記録からみた昭和33年の世界水泳界

坂 本 宗 隆

オリンピック後の弛緩から全般的に不振であった32年に引き替え、昨年の水泳界は世界記録ブームといわれるほどの盛況で、史上最高の年とされていた31年の水準を遙かに抜いている。(表1参照)

33年に作られた世界新記録は実に170に近く、短水路記録も公認された昔とは比較にはならないが、前例のないことであろう。しかしヤード種目の記録でメートル種目の新記録として、ダブって計算されているものもある。豪州はその $\frac{1}{3}$ がダブっている。年末に中共の穆祥雄が平泳で新記録を作ったが、中共は昨年FINAを脱退したので、公認されない破目になった。(表2参照)

各国の現有勢力の質と量について検討してみよう。32年との対照だけよりも31年からの方が、その消長がよくわかるので3年間にした。オリンピック種目(100, 400, 1500自由形, 200平, 200バ, 100背及びリレーの代りに200自の7種目)のランキング選手数によって量を、その順位を点数化した得点によって質を調べてみた。10傑の方は世界のスター達の分布状態を判断するため、首位を10点とし以下順次1点づつを減じて10位を1点として計算した。また30傑の方は第2線を含めた国際級の選手層とその勢力を知るために、同じ筆法で首位を30点とし30位を1点とした。(表3参照)

表3は総合得点だけを掲げて、種目別の得点とCクラス以下を省略したのでわかり難い点があるかと思うが、10傑、20傑表を比較総合して次のことがいえる。

1. 豪, 日, ソ, 米のAクラスに移動はないが, Bクラスからポーランドが陥落して, 英と伊の両国が新に進出してきた。
2. 32年中休み状態の豪州は本来の姿にかえり, 猛威を振ったが, 頭デッカチで2級選手に乏しい。また自由形の賑やかさに反し平泳とバタは寂しい。
3. 日本は豪州とは反対に裾が広く, 常に着実に前進を続けている。特にバタは多士済々であるが, 短距離の不振はAクラスとして聊か恥かしい。
4. アメリカの短距離と日本の長距離は伝統的に層が厚かったが, 32年以来どちらも自慢にならなくなっ

た。

5. アメリカは年毎に衰微しているが, これは上位を占めるベテランの引退が多いため, 残るベテランはグリーンとヨーシクの両名となり, 他は全部新人という入替期の関係である。なお第1線に多数の新人を輩出していることを申し添えて置く。
6. 英国は1躍Bクラスのトップにせり上がったが, これはブラック独りの手柄のようである。
7. ハンガリーは31年の動乱のため亡命選手が多く, その上ベテラン選手の凋落で衰退を思わせたが, 有望な新人も出現し, 復活の兆が見えてきた。
8. 次回オリンピック開催の刺激によるものかイタリーもBクラスに突入したが, 英国のように新入の躍進によるものではなく, ベテランの力であるから, この地位がいつまで続けられるか?
9. フランスも新人は全然現れない。このままでいけば没落である。

33年に最も進歩の著しかった種目はバタフライであり, それに次いで200背泳と800自由形である。(表1参照)バタフライは歴史も新しく, ドルフィン泳法が普及するに伴い記録は急上昇してきた。この現象は今後も当分続くだろう。200背泳はこの種目が漸次重視され, 競技会の数も多くなったので自然記録も上ったわけである。800の方はコンラッズ, ローズ及び山中の3選手の活躍に負う処が多い。他の種目は全部今年の方が上廻っているのにリレーの20傑のみが31年に譲っている。200自由形が上昇しているのに, その結合であるリレーの方が劣るのは不審のようであるが, その原因は, 今年アメリカに国際対抗競技がないため代表チームがないことと, ドイツはオリンピックには東西合併のチームで臨むが, 今年はそれがなかったためである。

泳法改正による暫定措置として採られた標準記録も次第に消え去って, 残るは200バタフライだけ(ヤード種目は別)となった。これを破るのは来年の課題であるが, バタ王国となった日本としては, 他国選手には委ねられず, 必ず日本選手によって実現すべき責任を痛感す

る。

33年に最も華々しい活躍をした選手をコンラッズとすることは衆目の一致する処であろう。無敵豪州の先頭に立ち、樹てた世界新記録32(個人種目のみ)という16才の少年とは思えない、常に弛みのないレースを行っている点はまことに立派である。モンクトンとギャザコールは他とはかけ離れた実力を示し、新記録数もコンラッズに続いている。山中選手もアジア大会に大記録を樹立して、対ローズ、コンラッズ戦に健闘し、世界の注視を集めた。

第1線に躍進した新人として、筆頭はブラック(英)であろう。続いてラーソン(米)、福井、藤本、カトナ(洪)、マクラクラン(南ア)、コレスニコフ(ソ)等を挙げることができる。コレスニコフの21才を除いて、皆若い次代のホープである。

今年の記録中で最もレベルの高いものは、豪州チーム

の400mメドレー・リレーとコンラッズの1500自由形である。どちらも桁はずれの記録ではあるが、近づき難い程のものではない。(筆者は本連盟記録委員)

【表 1】 世界ランキング平均値対比(対 1959)

	10傑	20傑	30傑	50傑
100自由形	100.30%	100.21%	100.10%	100.05%
200 "	101.41	101.01	100.72	100.42
400 "	100.92	100.41	100.35	100.22
800 "	104.31	101.39	101.29	101.32
1500 "	101.17	101.66	100.59	100.38
100バタフライ	103.73	103.55	103.51	103.49
200 "	101.79	102.26	102.54	102.69
100背 泳	100.44	100.49	100.44	100.47
200 "	102.16	102.84		
800リレー	100.41	99.88		

平泳はルール改正のため別掲

【表 2】

m	男			子			女			子			合 計						
	種 目	新記録	公 認	未公認	種 目	新記録	公 認	未公認	種 目	新記録	公 認	未公認	種 目	新記録	公 認	未公認			
豪		37	14	1		32	20	1		14	8			15	10		98	52	2
日		11	3														11	3	
米		5		2		1	1			12	5	2		3			21	6	4
ソ		2								1							3		
羅		1															1		
中共				1															
英										10	3			9	4		19	7	
和										2	2	1		1			3	2	1
東ド										2	1	1					2	1	1
新西										1	1			1	1		2	2	
合計		56	17	4		33	21	1		42	20	4		29	15		160	73	9

【表 3】

	10 傑					30 傑				
	延員数	頭 数	得 点	昨 年	一昨年	延員数	頭 数	得 点	昨 年	一昨年
豪	20	13	138	86	140	33	17	732	475	698
日	14	11	80	71	71	52	41	735	638	601
ソ	11	10	45	69	21	33	24	517	553	268
米	5	5	23	42	68	24	20	309	475	511
英	5	2	29	0	1	8	5	159	56	66
洪	2	2	9	21	27	13	10	146	133	231
東ド	3	3	11	21	8	8	8	122	195	137
伊	2	2	11	9	0	6	4	114	67	33
西ド	1	1	3	8	4	9	6	100	106	110
仏	2	2	12	23	20	3	3	57	175	180

FINA 理事会報告

安部 輝太郎

1958年9月8、9日、ウィーンで開催されたFINA理事会の正式議事録が到着しましたので、その要点だけをお知らせします。同会の欠席者は豪州のW・フィリップス氏、ソ連のS・フィルソフ氏それに小生の3名でした。

(1)開会に当り、デヴリー会長(オランダ)から、リッター理事(米)が復帰したことを喜ぶ旨の挨拶あり、なお、今年はFINA創立50年に当るので、名誉会員ハウプトマン氏(ポーランド)に50年史の編さんを依頼することに決定。

(2)前回議事録の確認

(3)名誉主事報告 リッター氏(米)から、世界記録種目に1650y及び110yの代りに、1哩と100yを復活する提案があったが、決定は次回総会に持越し。

(4)名誉会計報告 FINAの財産は円に換算して約779万円

(5)1960年ローマ・オリンピック大会関係

(a) 日程(別項の通り)

(b) 練習プールは本プールの他に次の3プールがある。

本プールに隣接の室内プール(50m)

オリンピック村附近のプール(50m)

ローマ市内のプール(50m)

(c) 競技役員数

計時員 40名(内イタリー人20名)

決勝審判 30名(" 5名)

途中審判 12名(" 2名)

飛込審判 12名(" 1名)

水球審判 10名(" 1名)

その他 18名(" 2名)

計 122名(内イタリー人31名)

なお、役員を選任については、FINA理事会、競泳、水球、飛込の各専門委員会メンバーを優先することとし、この数が約40名とみこまれ、残りの約50名は各国からの推せんに基づいて、会長、名誉主事が必要に応じて各専門委員会と協議の上、指名することに決定。

FINA任命の役員は、FINA発行の証明書を支給され、同じホテルに宿泊しなければならないが、その他の役員はこの限りでない。

(d) エントリーの制限 IOCから、選手の参加数をへらすために、個人種目は1国1名とし、あと2名は標準記録を突破した者に限るということにしたらどうかと申入れがあったが、審議の結果、この提案は選手の参加資格を審査することが難かしかろうということになり、FINAとしては1国2名(現行3名)とする案を新にIOCに提案すること決定。

(e) 水球大時計 イタリーから水球大時計を設置したい希望があったが否決。

(f) FINA祭 今迄はオリンピックを開催した都市でこの祭を挙行することになっていたが、この大会に限りイタリー側の事情で、ナポリにすることに決定。但し往復旅費はイタリー負担とする。

(g) 水球 IOCは、メルボン大会における水球の仕方が余りにも乱暴であったから、水球をオリンピック種目から除外しようと考えていることに対し、FINAは強く反対することに決定。

(h) 次回のFINA総会 1960年8月24日と9月6日に開くことに決定。

(i) 水球16チームの選定法 安部理事から文書で、大会に参加できる16チームの選定について次の2案を提出。

第1案	ヨーロッパ	10チーム
	アメリカ	3チーム
	アジア	2チーム
	アフリカ	1チーム

第2案	メルボン大会上位6チーム	
	(ハンガリー、ソ連、ユーゴ、イタリー、アメリカ、ドイツ)	
	ヨーロッパ	4チーム
	アメリカ	3チーム
	アジア	2チーム
	アフリカ	1チーム

これについて討議の結果、次回理事会迄に各国の参加不参加の回答を求め、更にヨーロッパ選手権、パンアメリカン大会、その他の国際試合の結果をみて決定することにする。

(j) IOCの批判 メルボルン大会について、IOCからFINAに対し、次のような反省を求められた。

- (イ) 飛込審判の無能
- (ロ) プール周囲の役員が多過ぎること
- (ハ) 予選組合の不均衡
- (ニ) バタフライが平泳に似すぎていること
- (ホ) 再三にわたる水球選手の暴行
- (ヘ) 水球規則の不当性

これに対し、FINAは文書で、IOCに反ばくすることに決定。

(6)平泳規則 フィリップ理事(豪)は、平泳の規則は今のままでよいと文書でいつてきたが、安部理事は足の動作もまた左右対称にすべきであると提案。会長は、ヨーロッパ選手権ではこれについての疑義はなかったと述べたが、リッター理事(米)は、アメリカの数選手は腕をかくとき、水平にかいていないと発言し、以前の規則にあったように、水平にという語を再びいれたらどうかと提案した。

ついで討議の結果、66条に次のことを明記することに決定。

(a) 文の終りに「水平方向に」を加える。

(b) 文の終りに「すべて、足の動作は同一平面において同時に左右対称であるべきこと」を加えること。

なお、本理事会は次回総会に対し、66条と67条(バタフライ)(e)項の削除を提案することに決定。

(7)理事会隔年開催の件 理事会出席の旅費負担が大きいため、毎年の開催をやめて一年おきとしたらどうかという会長の提案について検討の結果、1959年はどうしても開く必要があり、1960年はオリンピックでどうせあるから、そのあとは1961年、63年、64年に開くことにする。

(8)世界記録の公認(別項の通り) 但しG・ハインリッヒ(米)の400m個人メドレーとS・ルースカ(米)の440y個人メドレーの記録の一つが、平泳がFINAの規則通り行われていないという理由のため、受理されなかった。

(9)ブロークン・タイム 前回、国際バスケットボール協会の規則を調べるようになっていたが、調査の結果、同協会ではブロークン・タイムの給与を受けこることを認めていることが判明、FINAもこれにならたらとの意見も出たが本件はベルギーがIOCに提訴することになっているので、その結果をまつことに決定。

(10)国際飛込委員会報告 難易率変更の提案を受けたが、理事会はこれを次回迄に審議の上、総会に回附すべきや否やを次回に決定することにする。

(11)国際水球委員会報告規則の解釈の決定を承認。改訂案(1件)は次回総会に附議することにする。

なお、同委員会は水球役員の任命は同委員会が自ら決定すべきこと及び各国役員に等級をつける提案をしてきたが、理事会は共に否決。又リッター理事から、同委員会の米国メンバーが委員会に出席しようとしたが、開催国のハンガリーが米国に対し、許可を与えなかったもので、今後は誰でも入国できる国で委員会を開くべきであるとの発言あり。

(12)東独から西独に移った選手の件、東独から名誉主事に対し「東独の選手バレンドとツィロルドの2名が西独に移り規則に定められた1年以内は競技参加禁止の項を無視して、西独の選手として国際競技に出場した」という報告があった。それで名誉主事は西独に対し、規則を守るように申入れをしたが西独は次のように回答してきた。「この2選手は共にドイツ人であり、その故にこそ直ちに西独の市民権が与えられたのである」と。名誉主事は会長と相談の結果、「地理的には一つの国であり乍ら、2つの異なる独立の加盟団体が存在する現在、理事会が新に決断を下すまで、これら両選手は国際競技に参加するのを見合わせるべきである」ということになった。

会長と名誉主事が下したこの判定について討議の結果、移籍は1回に限り認め移籍後1年間の停止期間をこの場合に限り3カ月とすることに決定。次回総会に確認を求めることになった。

(13)メキシコからの問合せ、体育の教官はアマチュアなりやとの問合せに対し、否と決定。

(14)中米大会への代表、デブリー会長又はネグリ前会長に決定。

(15)1964年以降のオリンピック出場制限の件、IOCより出場者制限について「水泳はベルリンの560名、ロンドンの650名、ヘルシンキの710名と逐次増加している。IOCは、全員を5,000~6,000名程度におさえ、水泳をその約12%にしたいとの要望あり。これについて討議の結果、その主旨には賛成するが、固定的な比率をきめるのには反対し、各4年毎に協議するようIOCに申入れることにする。

(16)アイルランドからバタフライについての問合せ、ゴールの際、両腕をはっきり水から抜くことができず、水面を擦ってゴールしたのは失格かとの問合せあり、これについては擦る程度ならかまわないが、審判長の判定にまつべきであると回答することにする。

(17)ネグリ前会長からアマチュア資格に関する来信(略)

(18)プエルトリコの加盟，承認される。

(19)水球世界選手権，ライキ理事（ハンガリー）から水球世界選手権を開きたい旨の提案があったが，I O Cが水球をオリンピックから除外しようとする動きに，油を注ぐようなものであるとして否決。

(20)中共からの来信，台湾の加盟を不満としてF I N Aから脱退する旨の通信を受けたが，それでは中共の水泳は国際的に孤立するから，考え直したらどうかと回答することにす。

(21)国際競技資格，フィンランドより，F I N Aが資格証明書を各選手に交附するよう提案があったが否決。

(22)ホッピング氏賞，米国のホッピング氏より，毎年水泳功労者に賞を出す申入れがあったが，謝絶することに決定。

以下省略

以上

ローマオリンピック大会

日程表（水泳関係）

8月25日 午後 開会式
20.30 水球4試合

8月26日 8.30 男子100m自予選
女子200m平予選
15.30 女子100m自予選
女子飛板飛込予選
20.30 男子100m自準決勝
女子200m平準決勝
男子200m平予選

8月27日 8.30 女子飛板飛込準決勝
男子飛板飛込予選
15.30 男子400mメドレーリレー予選
女子飛板飛込決勝
男子飛板飛込準決勝
20.30 女子飛板飛込優勝儀礼式
女子100m自準決勝
男子100m自決勝
女子200m平決勝

8月28日（休）

8月29日 8.30 女子高飛込予選
15.30 女子100mバタ予選
男子飛板飛込決勝

20.30 男子飛板飛込優勝儀礼式
男子200m平準決勝
女子100m自決勝
男子800mリレー予選

8月30日 15.30 女子高飛込決勝
女子400mメドレーリレー予選
男子400m自予選

20.30 女子飛板飛込優勝儀礼式
男子100m背予選
女子100mバタ決勝
男子200m平決勝

8月31日 3.30 男子高飛込予選
15.30 男子100m背準決勝
女子400m自予選

20.30 男子200mバタ予選
男子400m自決勝
男子100m背決勝

9月1日 8.30 男子高飛込準決勝
女子100m背決勝

20.38 男子400mメドレーリレー決勝
女子100m背決勝
女子400m自決勝
男子800mリレー決勝

9月2日 8.30 女子400mリレー予選
男子1500m自予選（前半）
男子高飛込決勝

20.30 男子高飛込優勝儀礼式
男子200mバタ決勝
女子400mメドレーリレー決勝
男子1500m自予選（後半）

9月3日 8.30 水球
女子100m背決勝
男子1500m自決勝
女子400mリレー決勝

9月11日 午後 閉会式

註 (1) 水球試合は初日と最後の日の2日間だけ記載されている。他は不明。

(3) 暑さのため，11.00～15.00の間は試合はない。

(2) 競泳の優勝儀礼式は決勝直後に行う。

FINA 理事会で承認された世界新記録

(昭和 33 年 9 月 9 日)

男子の部

種目	時間	氏名	国籍	場所	水質	月日	申請国
200m 自	2:04.8	J・コンラッズ	(豪)	シドニー	塩	58-1-18	豪州
"	2:03.2	"	(〃)	"	"	58-3-5	"
"	2:03.0	山中毅	(日)	大阪	淡	58-8-22	日本
220y 自	2:04.8	J・コンラッズ	(豪)	シドニー	塩	58-1-18	豪州
"	2:03.2	"	(〃)	"	"	58-3-5	"
400m 自	4:25.9	"	(〃)	"	"	58-1-15	"
"	4:21.8	"	(〃)	メルボルン	淡	58-2-18	"
440y 自	4:25.9	"	(〃)	シドニー	塩	58-1-15	"
"	4:21.8	"	(〃)	メルボルン	淡	58-2-18	"
800m 自	9:17.7	"	(〃)	シドニー	塩	58-1-11	"
"	9:14.5	"	(〃)	メルボルン	淡	58-2-22	"
880y 自	9:17.7	"	(〃)	シドニー	塩	58-1-11	"
"	9:14.5	"	(〃)	メルボルン	淡	58-2-22	"
1500m 自	17:28.7	"	(〃)	"	"	"	"
1650y 自	17:28.7	"	(〃)	"	"	"	"
100m 平	1:11.5	W・ミナシキン	(ソ連)	ライプツヒ	"	57-9-15	東独
110y 平	1:13.5	T・ギャザーコル	(豪)	タウンズビル	"	58-6-7	豪州
"	1:13.0	"	(〃)	"	"	58-6-23	"
"	1:12.4	"	(〃)	"	"	58-6-28	"
200m 平	2:36.5	"	(〃)	"	"	"	"
220y 平	2:40.5	"	(〃)	"	"	58-6-13	"
"	2:36.5	"	(〃)	"	"	58-6-28	"
100m バタ	1:01.2	石本隆	(日本)	東京	淡	57-9-6	日本
"	1:01.0	"	(〃)	高知	"	57-9-14	"
"	1:00.1	"	(〃)	ロサンゼルス	"	58-6-29	米国
110y バタ	1:03.8	B・ウイキンソン	(豪)	シドニー	塩	58-1-14	豪州
"	1:03.2	T・ジェコー	(米)	ニューロンドン	"	58-8-14	米国
100m 背	1:01.5	J・モンクトン	(豪)	メルボルン	淡	58-2-15	豪州
110y 背	1:01.5	"	(〃)	"	"	"	"
200m 背	2:18.8	"	(〃)	シドニー	塩	58-1-15	"
"	2:18.4	"	(〃)	メルボルン	淡	58-2-18	"
220y 背	2:18.8	"	(〃)	シドニー	塩	58-1-15	"
220y 背	2:18.4	"	(〃)	メルボルン	淡	58-2-18	"
400m 個人メドレー	5:12.9	V・ストルヤノフ	(ソ連)	モスコ	"	57-10-20	ソ連
400m リレー	3:46.3	豪州チーム		ブリスベン	"	57-5-3	豪州
		G・チャップマン, J・コンラッズ, G・シプトン, J・デビット					
440y リレー	3:47.3	豪州チーム		シドニー	塩	58-2-9	"
		J・デビット, G・チャップマン, G・シプトン, J・コンラッズ					
880y リレー	8:24.5	豪州チーム		"	"	58-3-5	"
		J・コンラッズ, G・ハミルトン, J・デビット, G・チャップマン					

400mメドレーリレー	4:17.8	日本チーム	東京	淡	57-9-7	日本
		富田一雄・古川勝・石本隆・石原勝記				
"	4:14.2	日本チーム	"	"	58-5-28	日本
		長谷景治・古川勝・石本隆・古賀学				
"	4:14.2	豪州チーム	カーディフ	"	57-7-25	英国
		J・モンクトン・T・ギャザコール・B・ウイルキンソン・J・デビット				
"	4:10.4	"	大阪	"	58-8-22	日本
440yメドレーリレー	4:19.4	"	メルボルン	"	58-2-15	豪州
"	4:14.2	"	カーディフ	"	58-7-25	英国
女子の部						
100m 自	1:01.5	D・フレザー (豪)	メルボルン	淡	58-2-18	豪州
"	1:01.4	"	(〃)カーディフ	"	58-7-21	英国
"	1:01.2	"	(〃)シーダム	"	58-8-10	オランダ
110y 自	1:02.4	"	(〃)アデレード	"	58-1-31	豪州
"	1:01.5	"	(〃)メルボルン	"	58-2-18	"
"	1:01.4	"	(〃)カーディフ	"	58-7-21	英国
200m 自	2:17.7	"	(〃)アデレード	"	58-2-10	豪州
"	2:14.7	"	(〃)メルボルン	"	58-2-22	"
220y 自	2:17.7	"	(〃)アデレード	"	58-2-10	"
"	2:14.7	"	(〃)メルボルン	"	58-2-22	"
800m 自	10:17.7	I・コンラッズ (〃)	シドニー	塩	58-1-9	"
"	10:16.2	"	(〃)メルボルン	淡	58-2-20	"
"	10:11.8	"	(〃)タウンズビル	"	58-6-13	"
880y 自	10:16.2	"	(〃)メルボルン	"	58-2-20	"
"	10:11.8	"	(〃)タウンズビル	"	58-6-13	"
100m 平	1:20.3	K・ブアイエル (東独)	ベルリン	"	58-7-20	東独
100mバタ	1:09.6	N・ラメイ (米)	ロサンゼルス	"	58-6-28	米国
220yバタ	1:11.3	"	(〃)ハウストン	"	57-8-16	"
100mバタ	2:40.5	"	(〃)ロサンゼルス	"	58-6-29	"
100m 背	1:12.5	P・グールド (ニュージーランド)	オークランド	"	58-3-21	ニュージーランド
"	1:12.4	M・エドワーズ (英)	カーディフ	"	58-4-19	英国
"	1:12.3	R・ファンベルセン (和)	ニメケン	"	58-7-20	オランダ
"	1:11.9	J・B・グリーンハム (英)	カーディフ	"	58-7-23	英国
110y 背	1:12.5	P・グールド (ニュージーランド)	オークランド	"	58-3-12	ニュージーランド
"	1:12.4	M・エドワーズ (英)	カーディフ	"	58-4-19	英国
"	1:12.3	"	(〃)"	"	58-7-22	"
"	1:11.9	J・B・グリーンハム (英)	"	"	58-7-23	"
200m 背	2:37.4	C・フォンザルツァ (米)	トベカ	"	58-8-1	米国
400m個人メドレー	5:46.6	S・ルースカ (米)	ロサンゼルス	"	58-6-27	"
"	5:43.7	"	(〃)トベカ	"	58-8-1	"
440yリレー	4:18.9	豪州チーム	シドニー	塩	58-3-5	豪州
		D・フレザー・I・コンラッズ・S・モーガン・L・クラブ				
"	4:17.4	豪州チーム	カーディフ	淡	58-7-19	英国
		D・フレザー, S・モーガン, L・クラブ, A・コルクフーン				
400mメドレーリレー	4:54.0	英国チーム	カーディフ	"	58-7-25	英国
		J・B・グリーンハム, A・ロンスブルー, C・L・ゴスデン, D・E・ウイルキンソン				
400mメドレーリレー	4:54.0	"	"	"	"	"
"	4:52.9	オランダチーム	ブダペスト	"	58-9-5	ハンガリー
		L・デニース, A・デンハーン, A・フォールバイ, C・ハステラース				

オリンピックは東京に来るか

古賀伸一郎

東京が1964年の第18回オリンピック夏季大会の開催都市として立候補を内外に表明したのは昨年第54回国際オリンピック委員会（IOC）総会が5月東京で開かれた時だった。その後立候補締切日の昨年12月1日までにウィーン（奥）、デトロイト（米）、ブリュッセル（ベルギー）の3都市が立ち、その間で激しい競争が展開されている。どこに決定するかは全世界の注視を集めており予測はなかなか困難である。東京オリンピック実現の可能性については招致運動のため渡欧し昨年末に帰国した竹田恒徳氏の報告どおり、「非常に有望であるが、樂觀は許さない」とみるのがまず無難のようだ。実際に最近の外電によればオースリア側では東京とウィーンとは五分五分とみているようである。

開催都市の正式決定は5月12日から5日間西独のミュンヘンで開かれる第55回IOC総会の票決による。その時の様式はまず立候補した4都市がアルファベット順に45分以内で説明を行った後、筆記無記名投票を行う。この結果過半数を獲得した都市がなければ1、2位をとった都市の間で決選投票を行い正式に決定する。

そこで東京としては第1回の投票で過半数を制することが、まず最大の眼目である。たとえ票が割れても何とかして2位以内に勝ち残らねばならない。

これを通過すれば票読みが有利になるからである。それは決選投票が東京とウィーンならば米州諸国が、又東京とデトロイトなら欧州諸国の支持が得られるから。

現在IOC委員の数は48カ国64人で、各委員が1票づつの票を持っている。

これらの数を大まかに分けると欧州がさすがに多くて、35、次いでアジアの9、中南米9、北米6、アフリカ2、豪、新西蘭の3となっている。

この票がどう転ぶかによって開催都市が狂い、投票は出席委員のみしか許されないため、出席者の顔触れによっても明暗は左右されてくる。現状では東京とウィーンが最有力とみてよく、両者の比較では東京が6分4分で優勢であると私はみたい。

その根拠はこれまでの外電の伝える各国の空気や最近

渡欧した関係者らの報告によるものである。

東京招致のため公式に日本馬術連盟、スケート連盟両会長の竹田恒徳氏のほか清水都議が欧州を、日本レスリング協会会長八田一朗氏が都の招致実行委員長北島都議を同伴して中南米を訪問、また陸連の浅野理事長も国際陸連総会に出席のかたわら運動を行った。

これらの諸氏の話のほか外電の伝えるところなどを総合してみると、各国のIOC委員は東京に対し非常に好意的で、中には東京支持を積極的に表明してくれた委員もあった。

竹田氏は欧州各国の選手、役員達はこぞって東京に魅力を持っている印象を受けたと土産話で語っていた。

さらにオリンピック活動に伝統を持ちIOC委員の中で大きな勢力を持つ英国、フランスなどの支持は非常に心強く、中南米諸国も相次いで東京実現に協力を約束している。

第1回の投票で何票を取れば予選を通過できるかという票読みになると、5月の総会が64委員のうち出席者を50人とみると、17~20票というところだろう。

仮に東京支持とみられる英国（2）、フランス（3）、アジア（9）、中南米（9）の委員が出席し、投じてくれば楽々と予選は通過する。

さらに豪（2）、新西蘭（1）、カナダ（1）、南ア（1）などの英連邦諸国が英国と歩調を合せることになれば1回の投票で過半数を占めることも夢ではない。これらの見方はアジア諸国、中南米各委員の出席と東京支持を前提としているだけに見通しとしては非常に甘いかもしれない。しかし今後の熱意次第ではこのほかの委員の支持も受けられる可能性が多分にあるわけである。東京開催について樂觀論、悲観論が関係者の間でも相半ばしているが、それらの論拠は次のようなものである。

東京有利とみるものは ①これまでアジアでは一度もオリンピックが開かれていない。 ②1940年には東京に決定していながら、日華事変のため中止になった。 ③翌年第3回アジア大会とIOCを立派にやっつけた競技施設、組織力ならびに運営面などである。

一方悲観論を唱えるものは ①戦前派の I O C 委員達は欧州第一主義にこり固まっており、3、4回に一度欧州以外の地で開けば良いと信じている。②ウィーンとブリュッセルが立候補したので欧州諸国の票が東京に集まらない。③欧州から遠すぎて派遣費が高くつくのでローマの次も欧州でやりたいと考えている国が多い。④またオリンピックをやっていないのはアジアだけでなく南米、アフリカも同様である。といった点である。

ところで夏季大会に立候補した四都市の準備状況を比較しながら優劣を検討しよう。

日本のオリンピック準備委員会が I O C に提出した東京計画案によると、会期は7月25日から16日までと10月17日から16日までの2案を用意しどちらでも実施が可能であるとしている。これはいままでの慣習が夏だったが、日本の夏は湿気が多くむし暑いため気候の安定した秋でもやれるように準備を進めている。実施種目はオリンピック憲章に決められている全種目の23のほかデモストレーションとして2の計25種目となっている。この数はオリンピック始まって以来最大のものである。

この会場は東京、神奈川、埼玉、千葉の1都3県にまたがり、その中心は明治神宮外苑一帯に新設されるオリンピック・パークである。主競技場になる国立競技場は収容人員10万人に拡大するほか、2万人収容のオリンピック・プールを新設する。このプールは水温を自由に調節でき、屋根付という豪華なもの。神宮プールと都営屋内プールは水球会場となる。また国立庭球場も屋根つき、床板を張り4,000人収容の重量物会場に改修される。アジア大会では交通、駐車場の点が不完全だったが、こん度は付近の道路を拡げたり、約4,000台収容できる駐車場を新設することになっている。駒沢総合運動場も整備され、戸田漕艇場は大改修が加えられる。新設される主なものにはヨットハーバー、野外騎乗コース、自転車競技場などがあるが、室内競技は都内の体育館がいつでもそのまま使用できる。

オリンピック村は埼玉県朝霞にある米軍キャンプ・ドレークを予定し1万人を収容する。そして村一練習場一会場間には高速度道路が数本新設される。ただこれらの計画を実現し大会を運営するためには160億円が必要だとされており、この裏付けには頭が痛い。施設費だけでも90億円と予想され国庫と都からの補助金が大部分であるから招致運動が全国的にまで盛り上がり、強い世論とまでならねばなるまい。

一方ウィーンは冬季大会に同国のインスブルックが立候補するための当て馬でないかと当初思われていた。しかし最近になってウィーン株が急激に高まってきた。先にのべた東京にとって不利とする点がそっくり裏返しに

ウィーンの有利な点になるわけである。ウィーン市が立候補を公式に発表したのは昨年5月のウィーン市議会で招致決議が行われた時である。

市当局の熱意は東京以上に積極的で同市長は「運営費の全部をウィーンが負担してもよい」というほどの熱の入れ方。この熱意が施設計画や開催計画にも現われているのが強味だ。

室内体育館など工費40億円をかけて荘麗なものを新設、主競技場のウィーン・スタジアムも95,000人収容に拡張された。オリンピック村も40億円を投じて造るといふ金に糸目をつけぬ積極さ。これに大会期間中はお手のもの音楽と美術のフェスティバルを開くといったPRも忘れない。またことしウィーンで世界青年友好スポーツ大会が開かれるので成功すれば共産圏の票がごっそりとウィーンにころぶことも考えられる。しかしウィーンにも不利な点はある。ローマの次がウィーンとなれば地理的に近すぎる。また夏と冬の二兎を追っている弱味などである。

デトロイトは戦後56年、60年と2度立候補して招致運動ではベテランだが60年の大会招致の際には各 I O C 委員に自動車のモデルを送り、開催時には各国チームに運転手付の自動車を提供するなど自動車の町らしいPRを行っていた。こん度も招致運動には同市の有力実行家30人から成る委員会で行っており、主競技場一つ例にとっても72億円をかけて12万人収容の大スタジアムを造るといふ。ここに中南米の票を食われると東京も危なくなってくる。ただ竹田氏の話では欧州諸国にはあまり評判がよくなく、どうせそこまで行くならもう一歩足を伸して東京に行きたいという声が強そう。

ブリュッセルは他の3都市と比べてややおちる。立候補も締切りぎりぎりのところで発表され、だし抜けの感じもした。しかし実際は数年前から招致に積極的で、60年のオリンピックにも立候補している。まだ施設がそろっていないが、昨年万国博覧会をやったので宿舎、交通などは立派なものを持っている。

結論としては東京は『非常に有望であるが、楽観はできない』といわねばならない。関係者だけが騒いでいる招致運動でなくオリンピックに対する国民の世論をかん起することと、また海外にはさらに強力なPRを行うことなどが必要だからである。最後に水連としては豪州がメルボルン・オリンピックをきっかけとして水泳王国を確立したのにならぬ、東京オリンピック大会で大勝を期する遠大な計画を樹てるべきであろう。

(筆者は早大OB共同通信勤務)

小学校プールの普及建設について

深 谷 俊 明

四面環海で中小河川が多く、また、気温が温暖で、わが国の水泳環境条件に恵まれていることは、わが国における水泳発達の状態を見てもこれを知ることができる。しかし、昔泳いだ海岸や河川も、今では埋立てられて工場地帯となったり、物揚場となったり農薬が流されたり、悪臭の工業廃水が流れたり、下水の排水路化されたりして、数多くの泳ぎ場が年々歳々失われつつあることは、淋しい限りである。従って、暑い夏、われわれが子供時代に海や河からうけた印象とは異った印象を今の子供たちはうけているのである。

従って、水泳層を厚くするには、各小学校にプールを設置するのがよいことは、誰も認めることである。しかしプール建造には多くの経費がかかるので、これが学校当局の悩みの種となっていることは、よく聞くところである。従って、プールの普及発達には、安い材料で経費のあまりかからないことを考えなければならない。しかし、プール建設費が安くなりさえすればよいように考えて、設計の内容を検討しないで建設したため、ひびわれが発生し、これが漏水の原因となって、プールの維持管理に悩んでいる学校は相当あるように聞いている。無筋コンクリート造りのプールと鉄筋コンクリート造りのプールとでは、その構造や壁厚が異なるにもかかわらず、参考にした鉄筋コンクリートプールの設計図から、鉄筋の一部あるいは全部を除いたり、給排水管の鑄鉄管を土管に代えたりすることによって、工費が低下してきたように考えて喜んでいる場合があるが、プールの耐用年数を考えればフン飯ものである。このように無筋コンクリートが鉄筋コンクリートより安価で、耐久であるとずるならば、鉄筋コンクリートの発達はなかったはずである。鉄筋コンクリートが現在のように発達したのは、無筋コンクリート耐用年数から見て経済的であるからである。水連本部で、戦時中、無筋コンクリートプールを推奨したことがある。これは、鉄筋が統制品で入手が困難であったため、鉄筋を使用しない無筋コンクリートプールを構造的に工夫して本部で設計し、これを推奨したのである。しかし、現在では鉄筋が適正価格で簡単

に入手できるのであるから、プールは鉄筋コンクリート造りとすべきである。無筋プールとしたため、貴重な労力と資料を費しながらも、漏水のためプールが使用できなくて無用の長物化し、これが補修対策の相談にあずかることが、しばしばあるのは遺憾である。もちろん、プールの建設位置が河原に近く、玉石の入手がたやすく、地盤も砂利層で相当よいところであれば、この玉石を適当に使用して無筋コンクリートプールとして建設すればよい。しかし、都会地などでは、この玉石の運搬量が高くなり、鉄筋コンクリートの方が安くつくので、一般には、鉄筋コンクリート造りのプールが多数建設されているのである。最近、ビニールプールが安価であるという特長をもって小規模なプールに用いられているが、使用状態、耐用年数を考えるとき、鉄筋コンクリートプールに遠く及ばない。しかし、やがて、プラスチック時代が到来すれば、アメリカの銅板プールのように、安価で実用的なプラスチックプールが出現するであろうことが予想されるが、現段階では、鉄筋コンクリートプールが高価であるといわれながら、最も実用的で最も経済的であるのである。最近鉄筋コンクリート造りの小学校用25mプールの設計を試みて、小学校に4校ほど造建したところ、好評を得たので、ここに参考資料としてプール設計図を掲載することとした。この設計にさいしては、給排水管が盛土の沈下の際たれ下り継目から漏水し、この漏水によって甲羅干場の盛土の土砂が流失し、空ドウを生じ、降雨によって、更に一層空ドウが大きくなり、これがプールの局部沈下をきたし、プールのひびわれの原因となり、ここから漏水する実例が多いので、排水管は用いないで、プール壁体と一体化すると共に、つぎの事項を対象として設計した。(設計図、材料表には給水管、バルブ、溜升、甲羅干場用ブロックコンクリート、足洗場等を省略しているから、建設業者と相談の上適当に追加されたい。これらの費用の合計はプール本体の工費の15~20%程度と考えれば十分であろう)

公称距離	25m
コース数	7コース

コース幅 1.5m
 水深 最深 1.0m
 最浅 0.8m

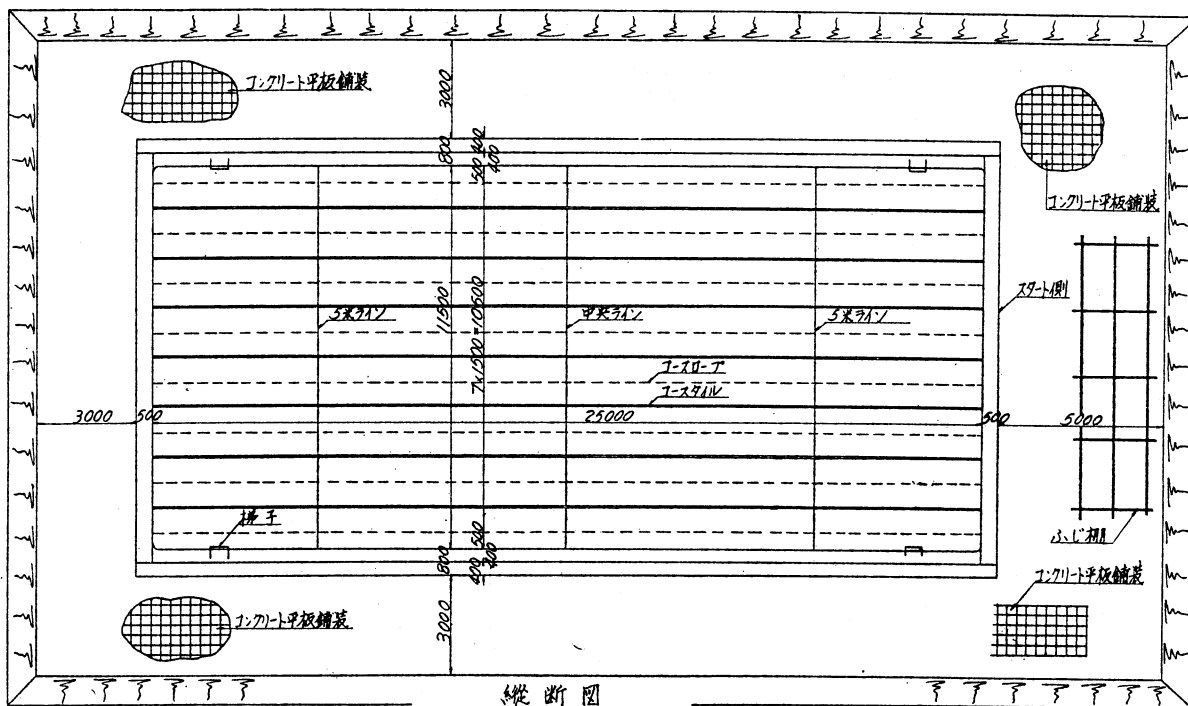
また、原水にカナケがあったり、悪臭があったり、水温が極端に低くて水泳に不相当であったり、水道管の敷設費が長くて高価にあったり水量が乏しかったり、水位の関係で深井戸とするため強力ポンプを必要とするような箇所に学校プールを建設するのは一般に困難視されていたが、これに濾過装置をつけて対処するのも一方法である。現在採用されている濾過装置は相当高級なもの

で、水の取替えは1シーズン1回位を対象としているが、相当高価となるのが欠点とされている。しかし、最近では10~15日位を取替単位とする安価な簡易濾過装置を考えているメーカーもあるので、これが50~80万円程度に小学校プールに取りつけられるようになれば、プールがより普及されることが考えられる。このような簡易濾過装置付きの衛生的なプールが数多く出現し、これが常識化されるであろうことを待望するものである。

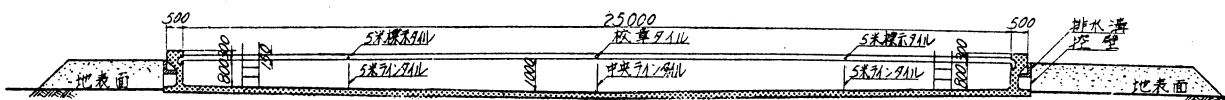
(筆者は本連盟施設委員長)

一般図

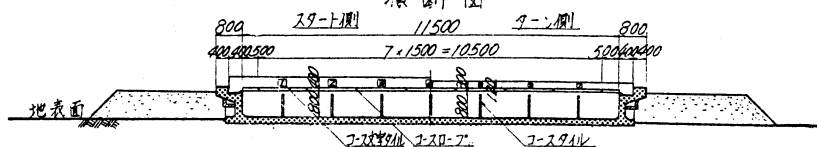
平面図

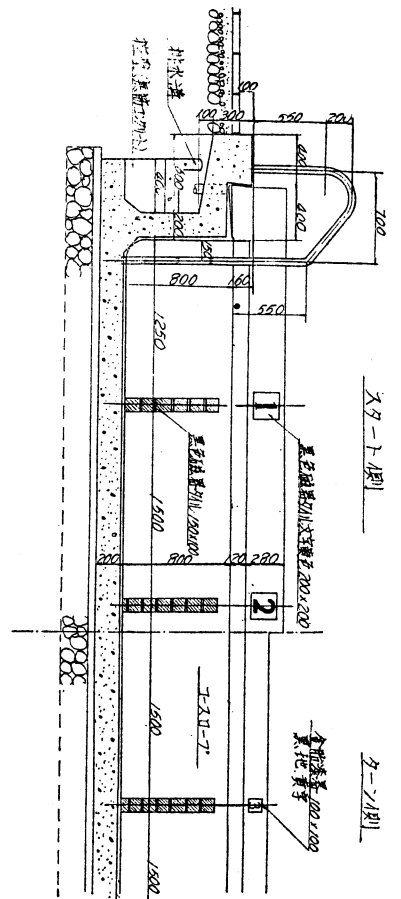


縦断図



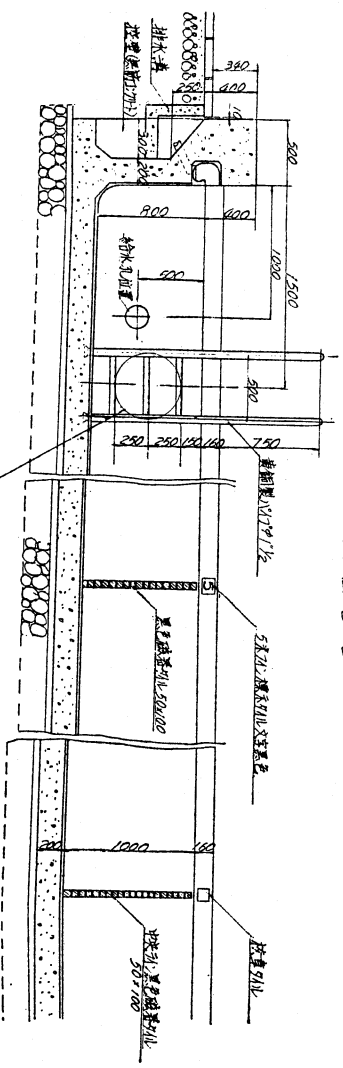
横断図



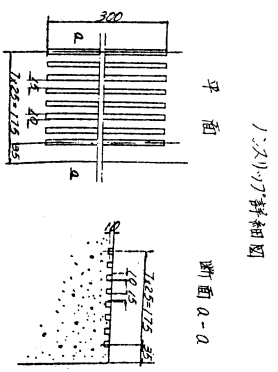


大9-1-1剖面

大9-1-1剖面

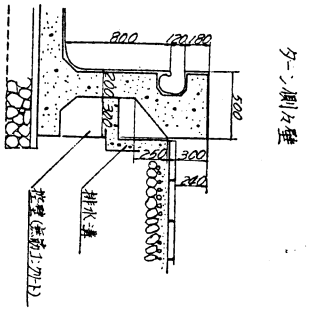


剖面 B-B

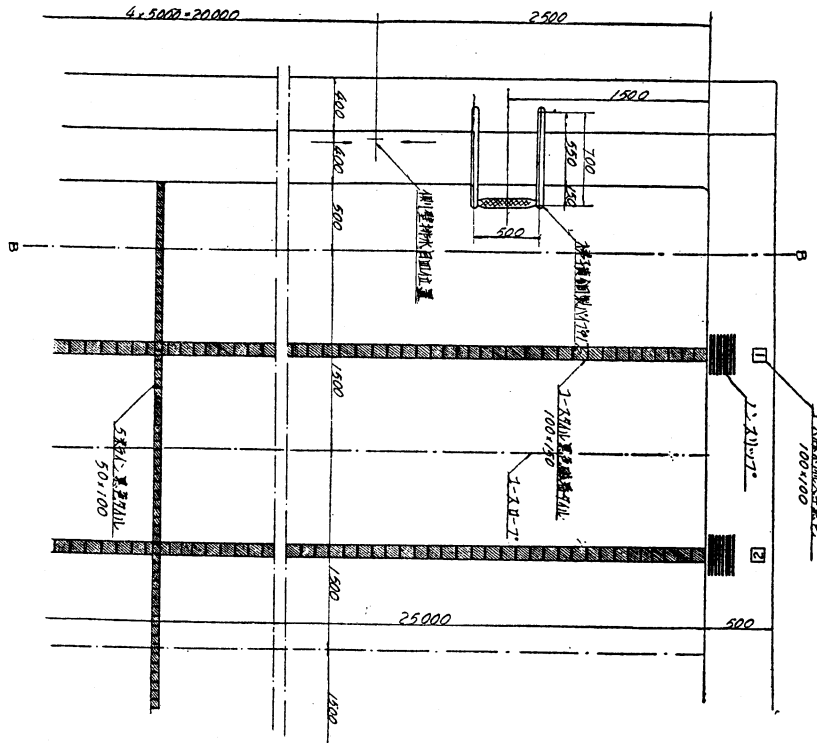


平面

剖面 A-A

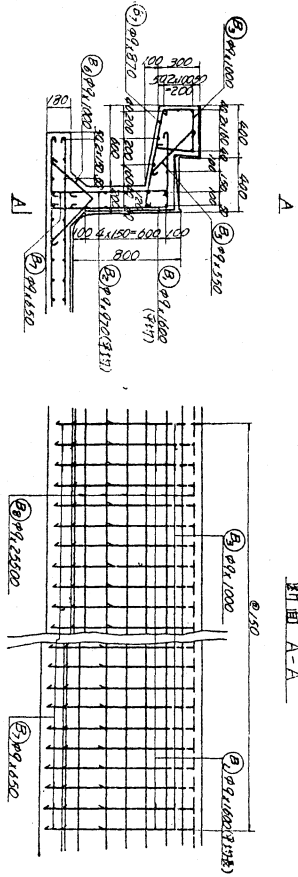


大9-1-1剖面



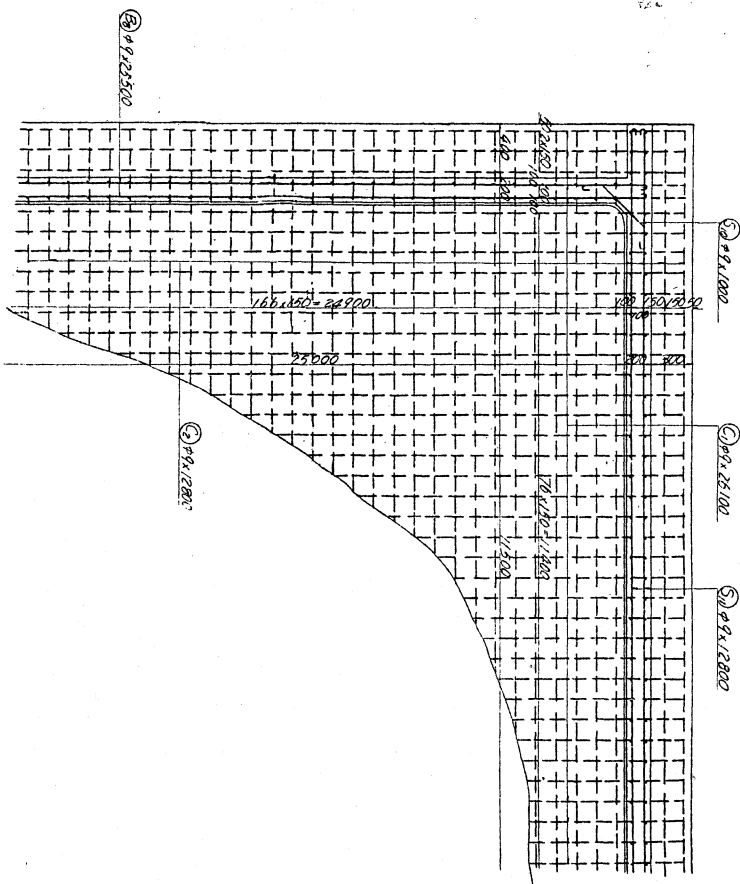
平面图

側壁配筋圖

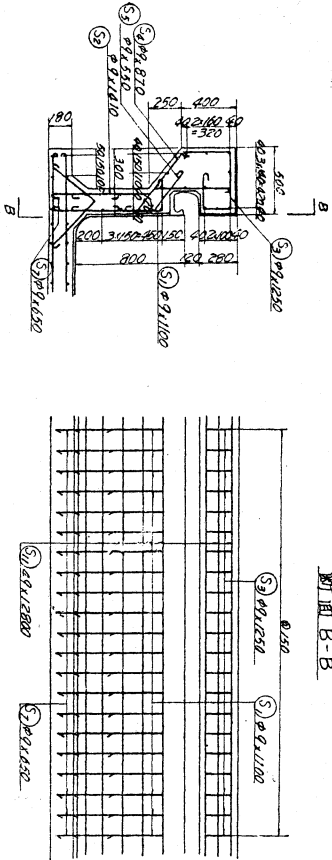


剖面 A-A

底板配筋圖

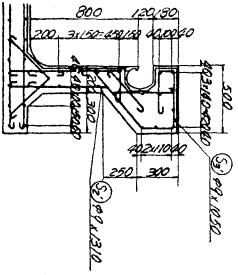


又下小梁配筋圖



剖面 B-B

又二小梁配筋圖





注目すべき大会としては米国戸外選手権、ヨーロッパ選手権、それに英連邦大会などがあります。この三大会を中心にヨーロッパ各国の選手権大会と主要国際競技会の結果を記載しました。(坂本記)

アメリカ

○全米男子戸外選手権

8/8-10 インディアナポリス (50m)

予 決

100m自	1.	ヘンリックス (豪)	57.1	55.8 (米新)
	2.	ラーソン	58.0	57.1
	3.	キャス	58.4	57.8
	4.	ファーレル	58.0	57.9
200m自	1.	ヘンリックス (豪)	2:07.1	2:05.2 (世新)
	2.	グリーン	2:10.4	2:09.0
	3.	ウインターズ	2:12.1	2:10.2
	4.	ホプキンス	2:11.9	2:11.5
	5.	キャス	2:11.5	2:11.6
	6.	ノードストローム	2:11.1	2:11.6
	7.	ファーレル	2:11.8	2:12.5
	8.	オネケア	2:11.5	2:14.3
400m自	1.	ローズ (豪)	4:37.4	4:24.5 (世新)
	2.	グリーン	4:47.0	4:39.6
	3.	ソマーズ	4:44.1	4:40.9
	4.	レンズ	4:44.6	4:41.1
	5.	ギョルフィー (洪)	4:47.1	4:42.5
1500m自	1.	ローズ (豪)	18:06.4	
	2.	グリーン	18:17.6	
	3.	ソマーズ	18:35.6	
	4.	レンズ	18:55.5	
	5.	ホプホンス	18:57.5	
100m平	1.	サンギリー (キューバ)	1:16.5	1:15.9

	2.	ルムベル (西ド)		1:15.9
200m平	1.	ルムベル (西ド)		2:47.8
	2.	ナカソネ		2:48.3
100mバ	1.	トロイ	1:03.7	1:02.8 (米対)
	2.	ジェコ	1:04.0	1:03.0
	3.	ラーソン	1:03.5	1:03.4
	4.	タジュニク	1:03.4	1:03.5
	5.	ウエルドン	1:05.0	1:03.5
200mバ	1.	ヨーシク	2:24.7	2:22.5
	2.	バートン		2:25.1
	3.	トロイ		2:26.1
100m背	1.	マッキニー	1:05.1	1:04.5 (米対)
	2.	シェーファー	1:05.3	1:05.4
	3.	ベネット		1:05.5

ヘルシンキ、オリンピックの優勝者
オヤカワは予選に1:08.9で落選

200m背	1.	マッキニー	2:27.2	2:20.8 (米新)
	2.	ビティック	2:28.7	2:25.8
	3.	ストック	2:27.3	2:25.7
	4.	ブラネル	2:29.0	2:25.8
	5.	ベネット	2:31.5	2:26.1
400m混	1.	ブラネル	5:23.7	5:20.6 (世新)
800m継	1.	ロサンゼルスAC		8:42.7
		(レディントン, フェローズ, ヘンリックス, ローズ)		
400m混継	1.	ロサンゼルスAC		4:24.6
		(フェローズ, ゼチャル, ラーソン, ヘンリックス)		

傑出しているのはヘンリックスとローズの2人だけで、これにドイツ及びキューバの選手を加えた外国選手の獲得したのが6種目で、個人種目の過半数。各種目に新人の抬頭は著しいが、未だ力量不足。春の室内選手権でニューヘブンを1点差に斥ぞけたロサンゼルスも、今度は地元のインディアナポリスに総合優勝をさらわれた。

○全米女子戸外選手権 8/1~3 トベカ (50m)

予 決

100m自	1.	フォンソルツァ	1:04.0	1:03.5 (米新)
	2.	ストーブス	1:04.9	1:04.4
	3.	ボトキン	1:03.8	1:04.8
200m自	1.	ボトキン		2:23.2
	2.	グラハム		2:24.1

	3.	フォンソルツァ	2:25.0
400m自	1.	ルースカ	5:04.1
	2.	フォンソルツァ	5:04.7
	3.	グラハム	5:10.4
1500m自	1.	ルースカ	20:34.6 (米新)
	2.	グラハム	20:45.4
100m平	1.	オルドー (洪)	1:23.8
	2.	エルセニウス	1:23.9
200m平	1.	オルドー (洪)	2:58.6 (米新)
100mバ	1.	ラメー	1:11.3 1:10.3 (世新)
	2.	ボトキン	1:12.0
	3.	コリンズ	1:12.9
200mバ	1.	ルースカ	2:43.6 (米新)
	2.	コリンズ	2:44.9
	3.	エルセニウス	2:45.3
100m背	1.	コーン	1:12.2 (世新)
	2.	ホブキンス	1:14.3
	3.	クルーター	1:13.9 1:14.5
200m背	1.	フォンソルツァ	2:37.4 (世新)
	2.	ホブキンス	2:39.2 (米新)
	3.	コーン	2:42.3 2:42.2 (米新)
400m混	1.	ルースカ	5:43.7 (世新)
400m継	1.	サンタ・クララ	4:30.1 (米新)
		(ウイルソン, ランソム, ホーニグ, ファンソルツァ)	
400m混継	1.	〃	5:00.9
		(フォンソルツァ, ワーナー, ウイルソン, ランソム)	

○その他の主な競技会

8/1 カルバー, シティ (カリフォルニア) (55y)

880y自 1. ローズ (豪) 9:13.5
(世新)

220y自 1. ヘンリックス (〃) 2:06.1
(米新)

880y リレーで南加大学チームの第1泳者として正式計時

8/15 コネチカット州選手権 (ニューロンドン)

110yバ 1. ジェコ 1:03.2
(世新)

8/23, 24 西部選手権 (フリーシュハーカー・プール)

100mバ 1. ラーソン 1:01.0 59.9
(世新) (世新)

8/28 ロサンゼルス選手権 (50m)

100mバ 1. ラーソン 59.6
(世新)

11/14 トレジャー島海軍基地 (50m)

女子1哩 ルースカ 21:26.4
(世最高)

途中1500m 20:02.4
(世新)

ヨーロッパ

○ヨーロッパ選手権 8/31~9/6 ブダペスト (50m)

男子 予 準 決

100m自 1. プッチ (伊) 56.3 56.1 56.3
(欧新)

2. ボレヴォイ (ソ) 57.8 57.1 56.9

3. ドバイ (洪) 56.9 57.4 57.5

4. ホフフェルト (和) 58.3 57.4 57.7

5. ソローキン (ソ) 58.4 58.6 57.7

6. フェール (西ド) 57.3 58.4 57.9

7. カイコ (芬) 57.9 58.5 58.1

3. バウマン (西ド) 58.6 58.5 59.1

400m自 1. ブラック (英) 4:28.9 4:31.3

1:03.1 2:12.2 3:22.2 4:28.9

1:03.8 2:13.2 3:21.8 4:31.3

2. ニキティン (ソ) 4:37.1 4:36.2

1:03.2 2:12.9 3:23.5

3. ガレットィ (伊) 4:41.5 4:38.1

1:04.2 2:15.1 3:26.4

4. ストルザノフ (ソ) 4:41.3 4:39.8

1:04.7 2:15.4 3:27.6

5. カトナ (洪) 4:39.1 4:43.5

1:04.1 2:15.4 3:29.8

6. エンゲルハルト (東ド) 4:48.3 4:45.9

1500m自 1. ブラック (英) 18:18.1 18:05.8
(欧新)

1:06.8 2:18.2 3:29.6 4:41.2 5:53.0

7:05.3 8:18.1 9:31.3 10:44.3 11:58.7

13:12.2 14:26.3 15:39.6 16:53.7

2. カトナ (洪) 18:43.2 18:13.0

1:05.7 2:17.5 3:29.9 4:43.5 5:57.8

7:11.7 8:26.4 9:40.4 10:54.3 12:08.8

13:22.7 14:37.0 15:50.0 17:03.5

3. アンドロソフ (ソ) 19:04.6 18:30.2

1:10.9 2:24.6 3:40.4 4:55.3 6:10.8

7:28.8 8:40.7 9:55.9 11:10.3 12:25.1

13:39.7 14:54.4 16:08.0 17:20.2

4. ラブリネンコ (ソ) 18:56.2 18:32.2

1:08.0 2:20.8 3:35.3 4:49.8 6:04.8
 7:18.9 8:32.6 9:47.6 11:02.4 12:17.4
 13:32.6 14:48.2 16:03.7 17:19.2

(パルビエル, ミナシキン,
 1:04.2 1:11.6
 ジュネンコフ, ボレボイ
 1:02.7 58.0)

5. ガレットイ (伊) 18:53.4 18:41.5
 6. クッチュケ (東ド) 19:04.6 18:55.7
 200m平 1. コレスニコフ(ソ) 2:45.5 2:44.1 2:41.1
 2. ラザリ (伊) 2:42.1 2:42.0 2:41.3
 3. ボディングル (西ド) 2:43.7 2:42.8 2:41.4
 4. アントニアン(ソ) 2:42.8 2:43.9 2:41.9
 5. マルク (東ド) 2:42.3 2:43.6 2:41.9
 6. エンケ(ウ) 2:42.1 2:43.7 2:42.0
 7. トローグル (西ド) 2:43.2 2:44.4 2:44.4
 8. クロポトウスキー (波) 2:42.8 2:43.6 2:44.9

2. ハンガリー 4:20.4

(マジャール, クンサギ,
 1:06.5 1:14.5
 ツンペク, ドバイ
 1:03.2 56.2)

- 200mバ 1. ブラック (英) 2:21.8 2:21.9
 2. パズディレク(チェコ) 2:23.5 2:22.6
 3. シモンズ (英) 2:26.2 2:25.8
 4. シーベル(東ド) 2:24.3 2:26.0
 5. ヴァルセギ(洪) 2:28.4 2:27.5
 6. ピロレ(仏) 2:27.8 2:27.5
 7. ジュネンコフ(ソ) 2:27.8 2:28.0
 8. ツンペク(洪) 2:28.1 2:29.9

3. イタリア 4:20.6 4:21.9

(エルサ, ラザリ, デンネルレイン, プッチ)
 1:07.8 1:13.5 1:04.6 56.0)

- 100m背 1. クリストフ(仏) 1:04.5 1:03.1
 2. パルビエル(ソ) 1:04.5 1:03.9
 3. ワグネル(東ド) 1:05.3 1:05.5
 4. マジャール(洪) 1:06.9 1:05.8
 5. クヴァルディン(ソ) 1:06.0 1:06.4
 6. ファイフェル(東ド) 1:07.0 1:06.8
 7. エルサ(伊) 1:06.1 1:07.2

4. 東独 4:23.3

5. チェコ 4:24.1

6. 西独 4:25.1

- 800m継 1. ソ連 8:33.7

(ニコラエフ, ストルザノフ,
 2:07.4 2:08.9
 ルシコフスキー, ニキティン
 2:07.6 2:09.8)

2. イタリア 8:41.2

(デンネルレイン, ガレットイ,
 2:10.2 2:12.2
 ロマニ, プッチ
 2:11.9 2:06.9)

3. ハンガリー 8:45.3

(カトナ, ニエキ, ミューラー, ドバイ)
 2:12.6 2:12.7 2:10.5 2:09.5)

4. 東独 8:47.4 8:48.1

5. 西独 8:50.6

6. イギリス 8:52.5 8:54.9

- 400m混継 1. ソ連 4:16.5

女子

- 100m自 1. ショブソン(典) 1:05.6 1:04.7

2. ハステラールス(和) 1:04.7 1:05.0

3. グリンハム(英) 1:06.6 1:05.4

4. クラウン(和) 1:06.4 1:06.0

5. ウイルキンソン(英) 1:06.4 1:06.1

6. ステフィン(東ド) 1:07.2 1:06.2

- 400m自 1. コステル(和) 5:05.2 5:02.6

1:09.6 2:28.0 3:46.6

2. シムメル(和) 5:12.1 5:02.6

1:09.8 2:28.1 3:47.0

3. ロー(英) 5:11.3 5:07.7

4. フーグ(ソ) 5:18.6 5:13.8

5. ラルソン(典) 5:15.9 5:16.3

6. ベスチ(伊) 5:19.3 5:20.5

- 200m平 1. デンハーン(和) 2:54.9 (1:23.0) 2:52.0

2. ロンスブロー(英) 3:00.2(1:24.3) 2:53.5

3. ウルセルマン (西ド) 2:56.6(1:22.8) 2:53.8

4. バルター(東ド) 2:57.3 2:55.5

5. ウースミース(ソ) 2:57.1 2:56.3

6. レーマン(東ド) 3:00.7 2:57.6

- 100mバ 1. ラヘルベルヒ(和) 1:12.6 1:11.9

2. フォールバイ(ウ) 1:12.9 1:12.1

3. スクピロワ(チェコ) 1:14.1 1:14.3

4. ゴスデン(英) 1:15.0 1:14.3

5. ランゲナウ(東ド) 1:15.6 1:14.3

6. ラルソン(典) 1:15.3 1:15.1

- 100m背 1. グリンハム(英) 1:14.2 1:12.6

2. エドワーズ(ウ) 1:13.5 1:12.9

3. ビクトロワ(ソ) 1:14.1 1:13.9

4. デナイス(和) 1:14.2 1:14.3

5. ファンベルゼン(ウ) 1:13.3 1:15.2

	6.	シュミット (西ド)	1:16.3	1:15.8
400m 継	1.	オランダ	4:22.9	
		(シムメル, ラヘルベルヒ, クラーン, ハステラルス)	1:07.0 1:06.7 1:05.0 1:04.2	
	2.	イギリス	4:24.2	
		(グリーンハム, ファグソン, サムエル, ウイルキンソン)	1:05.5 1:07.0 1:06.0 1:05.7	
	3.	スウェーデン	4:28.5	
		(エリクソン, アンダーソン, ラルソン, ジョブソン)	1:08.1 1:07.7 1:07.5 1:05.2	
	4.	西 独	4:29.8	
	5.	ソ 連	4:31.3	
	6.	ハンガリー	4:32.8	
400m 混継	1.	オランダ	4:52.9	(世新)
		(デナイス, デンハーン, フォルバイ, ハステラルス)	1:15.5 1:21.3 1:12.8 1:03.3	
	2.	ソ 連	4:54.2	
		(ビクトロフ, ウースミス, カマエフ, フーグ)	1:14.3 1:22.1 1:13.0 1:04.8	
	3.	イギリス	4:54.3	
		(グリーンハム, ロンスブロー, ゴスデン, ウイルキンソン)	1:11.9 1:23.5 1:13.2 1:05.7	
	4.	東 独	4:56.7	
	5.	西 独	5:04.0	
	6.	ハンガリー	5:10.1	

欧州の精鋭を網羅しただけに全種目にわたって凄まじい白熱戦で、自己最高をマークした選手が多く百花燎乱、ベテランが巾を利かず欧州としてはブラック、カタナの若武者ぶりは天晴れ。どの種目も興味万点で、本年度の競技会中内容充実の点では日本選手権と共に双璧。

○英連邦大会 7/18~25 カーディフ (55y)

男 子

110y 自	1.	デビット (豪)	56.5(25.2)	56.6
	2.	チャプマン (〃)	57.5	56.6
	3.	シプトン (〃)	57.6	57.0
	4.	グルート (加)	59.0	58.5
	5.	バーレル (南ア)	58.5	58.7

	6.	マッケチニー (イングランド)	58.7	59.2
440y 自	1.	コンラッズ (豪)	4:30.6	4:25.9 (世新)
			1:03.7 2:10.3 3:18.4	
	2.	ブラック (スコットランド)	4:31.1	4:28.5 (欧新)
			1:04.7 2:14.3 3:23.1	
	3.	ウインラム (豪)	4:35.3	4:32.4
			1:04.5 2:13.6 3:22.7	
	4.	マクラクラン (南ア)	4:43.1	4:37.6
	5.	チャプマン (豪)	4:42.5	4:42.5
	6.	バーレル (南ア)	4:42.8	4:45.6
1650y 自	1.	コンラッズ (豪)	17:55.1	17:45.4 (世新) (世新)
			1:07.5 2:19.2 3:30.5 4:41.2 5:52.4 7:04.1 8:15.8 9:27.1 10:38.9 11:50.2 13:01.4 14:12.8 15:23.8 16:34.8	
	2.	ウインラム (〃)	18:59.7	18:17.2
	3.	マクラクラン (南ア)	18:55.1	18:19.2
	4.	スレーター (加)	19:08.7	18:51.4
	5.	スリーナン (スコットランド)	19:07.5	18:55.8
220y 平	1.	ギャザコール (豪)	2:41.2(1:17.5)	2:41.8
	2.	ロッチ (南ア)	2:45.9(1:18.9)	2:44.9
	3.	ワルクデン (イングランド)	2:49.4	2:47.3
220y バ	1.	ブラック (スコットランド)	2:25.0(1:08.5)	2:22.6
	2.	シモンズ (イングランド)	2:27.6(1:09.3)	2:25.5
	3.	ウイルキンソン (豪)	2:29.8(1:09.0)	2:31.0
110y 背	1.	モンクトン (豪)	1:04.2	1:01.7 (世新)
	2.	ヘイヤーズ (〃)	1:05.2	1:03.5
	3.	ホイートン (加)	1:06.9	1:06.5
	4.	リグビー (イングランド)	1:08.6	1:07.9
	5.	サイクス (〃)	1:08.3	1:07.9
880y 継	1.	オーストラリア	8:33.4	
		(コンラッズ, ウイルキンソン, デビット, チャプマン)	1:01.2 2:04.4(世新) 2:09.3 2:09.6 2:10.1	
	2.	スコットランド	8:54.2	
		(スリーナン, スティル, リーパー, ブラック)	2:16.3 2:17.4 2:15.1 2:05.4	
440y 混継	1.	オーストラリア	4:14.2	(世新)
		(モンクトン, ギャザコール)	29.1 1:02.0 33.2 1:12.4	

(ウイルキンソン, デビット)
28.8 1:03.2 26.4 56.6)

- 2. カナダ 4:26.3
(ホイートン, ベル, パーク, グルト)
- 3. イングランド 4:26.4
(サイクス, ワルクデン, シモンズ,
マッケチニー)

(ゴスデン, ウイルキンソン)
1:14.2 1:04.6)

- 2. オーストラリア 4:55.1
(世新)

(ネルソン, エヴァンス,
1:16.4 1:24.3
ペインブリッチ, フレーザ
1:13.9 1:00.7)

- 3. カナダ 5:01.6
予選においてイングランド・チームの
第1泳者エドワーズは110y背泳1:12.3
の世界記録をマーク。

女子

- 110y自 1. フレーザ(豪) 1:03.5(28.8) 1:01.4
(世新)

- 2. クラップ(ノ) 1:04.9 1:03.8
- 3. コルクホーン(ノ) 1:03.2 1:04.0
- 4. ウイルキンソン
(イングランド) 1:05.7 1:05.8
- 5. マイボ(南ア) 1:06.2 1:07.1
- 6. イワサキ(加) 1:05.9 1:07.5

- 440y自 1. コンラズ(豪) 5:00.2 4:49.4
1:07.4 2:19.8 3:33.9

- 2. フレーザ(ノ) 5:06.1 5:00.8
- 3. クラップ(ノ) 5:06.6 5:06.7
- 4. フェーグソン
(イングランド) 5:13.5 5:15.2
- 5. ロ
(スコットランド) 5:12.2 5:16.3
- 6. ウイルキンソン
(イングランド) 5:13.1 5:21.3

- 220y平 1. ロンスブロー(ノ) 2:56.3 2:53.5
- 2. ダイソン(ノ) 2:59.3 2:58.2
- 3. ゴスデン(ノ) 2:58.8 2:58.4

- 110yバ 1. ペインブリッチ(豪) 1:16.3(33.3) 1:13.5
- 2. スタヴェリー(新西) 1:16.7 1:14.4
- 3. イワサキ(加) 1:16.8 1:15.9

- 110y背 1. グリンハム 1:13.1 1:11.9
(イングランド) (世新) (世新)
- 2. エドワーズ(ノ) 1:14.7 1:12.6
(世新)

- 3. ゴールド(新西) 1:13.8 1:13.7
- 4. バーバー(加) 1:15.4 1:15.4
- 5. ネルソン(豪) 1:13.6 1:15.5

- 440y継 1. オーストラリア 4:17.4
(世新)

(フレーザ, モーガン, クラップ,
1:02.8 1:03.2 1:05.6
コルクホーン
1:05.8)

- 2. カナダ 4:30.0
- 3. イングランド 4:31.5

- 440y混継 1. イングランド 4:54.0
(世新)

(グリンハム, ロンスブロー,
1:11.9(世新) 1:23.3)

長途の遠征のため豪州選手は全員が好調とはいえない
が、流石に實力は格段の差である。その豪州も女子の特
種目は少しお粗末、ベテランでフレーザとグリンハ
ム、新人で男子のブラックとマクラクランの活躍が目立
つ。1競技会において14の世界新記録とは大したもの
である。

ヨーロッパ国際競技

○三国対抗 7/5.6ソ連152-東独119-洪99モスクワ(50m)
男子

- 100m自 1. ルチコフスキー(ソ) 57.4
- 2. グレゴール(独) 57.7
(東独新)

- 3. ソローキン(ソ) 57.7
- 4. ボレヴォイ(ノ) 57.7
- 5. ドバイ(洪) 58.2

- 400m自 1. ニキティン(ソ) 4:39.1
- 2. ストルザノフ(ノ) 4:40.1
- 3. ニエキ(洪) 4:43.8
- 4. カトナ(ノ) 4:44.0

- 1500m自 1. " (ノ) 18:45.8
(洪新)
- 2. クチュケ(独) 19:05.0
- 3. ラブリネンコ(ソ) 19:06.2

- 200m平 1. アントニアン(ノ) 2:42.6
- 2. マルク(独) 2:44.3
- 3. オベルマン(ノ) 2:44.5
- 4. ミナシキン(ソ) 2:45.0

- 200mバ 1. ジーベル(独) 2:28.0
- 2. ツンペク(洪) 2:29.3
- 3. ヴァルセギイ(ノ) 2:34.0
- 4. ジェネンコフ(ソ) 2:34.4

- 100m背 1. バルビエル(ノ) 1:05.6
- 1. マジャー(洪) 1:05.6

	3. ファイファー (独)	
	4. クヴァルディン (ソ)	1:07.0
	5. ワグネル (独)	1:07.4
400m混継	1. 東 独	4:24.7
	2. ソ 連	4:24.7
	3. ハンガリー	4:25.3

女子

100m自	1. フーグ (ソ)	1:06.6
	2. フランク (洪)	1:07.7
400m自	1. クリュコヴァ (ソ)	5:25.5
200m平	1. バイエル (独)	2:54.9 (東独新)
	2. レーマン (ソ)	2:57.6
	3. ウースミース (ソ)	2:58.2
100mバ	1. カマコヴァ (ソ)	1:12.3 (ソ新)
	2. ポスニアク (ソ)	1:16.8
100m背	1. ヴィクトロヴァ (ソ)	1:14.5
	2. カマエヴァ (ソ)	1:14.5
	3. ボロス (匈)	1:15.4
400m継	1. 東 独	4:35.8
	2. ハンガリー	4:36.2
	3. ソ 連	4:37.2
400m混継	1. "	4:57.8 (欧新)

○英, 西独対抗

イギリス122—西独112 ミュンヘン (50m)

男子

100m自	1. バウマン (ド)	57.6
	2. マッケチニー	58.2
	3. フェール (ド)	58.4
400m自	1. ブラック	4:35.7
	2. ツィロルド (ド)	4:43.7
200m平	1. ボディンガー (ソ)	2:46.8
	2. トリョーグル (ソ)	2:46.9
200mバ	1. シモンズ	2:25.8
	2. ブラック	2:28.1
	3. ツィロルド (ド)	2:28.1
100m背	1. サイクス	1:08.0
	2. ミールシュ	1:09.0
800m継	1. 西 独	8:51.0
	2. イギリス	8:55.6
400m混継	1. 西 独	4:27.3
	2. イギリス	4:27.6

女子

100m自	1. ウイルキンソン	1:05.7
	2. ブランナー (ド)	1:06.7

400m自	1. ファーグソン	5:18.9
200m平	1. ウルセルマン (ド)	2:58.4
	2. ロンスブロー	2:58.6
100mバ	1. オルドロイド	1:18.4
100m背	1. エドワーズ	1:13.9
	2. グリンハム	1:14.7
400m継	1. イギリス	4:29.2
	2. 西 独	4:32.5
400m混継	1. イギリス	5:04.4
	2. 西 独	5:10.8

○ソ連選手権 7/下旬 レーニン・スタジアム (50m)

男子

100m自	1. ソローキン	57.2
	2. ボレヴォイ	57.4
	3. リチコウスキー	57.8
	4. ニコラエフ	58.4
	5. モルグチェフ	58.4
450m自	1. ニキティン	4:34.6
	2. ストルザノフ	4:38.5
	3. ソローキン	4:43.4
1500m自	1. ラブリネンコ	18:26.3
	2. アンドロソフ	18:28.7
200m平	1. コレスニコフ	2:40.1
	2. アントニアン	2:43.0
	3. ミナシキン	2:44.0
200mバ	1. シェネンコフ	2:25.9 (ソ新)
	2. サガチュク	2:29.0
100m背	1. クヴァルディン	1:05.2
	2. パルピエル	1:05.4
	3. セーロフ	1:06.3
400m継	1. ウクライナ	3:47.4

(ソローキン, ルチコフスキー,
56.7 56.2
ニコラエフ, ボレヴォイ
57.9 56.6)

女子

100m自	1. フーグ	1:06.6
400m自	1. "	5:12.5 (ソ新)
200m平	1. ウースミース	2:56.9
	2. コヴァレンコ	2:59.2
100mバ	1. カマエヴァ	1:14.0
	2. ポスニアク	1:15.2
100m背	1. カマエヴァ	1:13.8
	1. ヴィクトロヴァ	1:13.8

○フランス選手権 8/1~4 パリー (50m)

男子

100m自	1. デビット (豪)	56.6
	2. チャプマン (〃)	56.9
	3. シプトン (〃)	57.9
	4. エミナント	57.9
	5. トレイユ	58.4 58.7
200m自	1. ボワトオ	2:11.0
	2. エミナント	2:11.5
400m自	1. コンラッズ (豪)	4:25.9
	1:02.4 2:09.0 3:17.2	
	2. ウインラム (〃)	4:38.4
	3. ボワトウ	4:41.8
1500m自	1. コンラッズ (豪)	17:43.8
	(世新)	
	1:09.6 2:22.1 3:34.4 4:46.1 5:58.6	
	7:10.2 8:21.3 9:31.6 10:42.5 11:52.8	
	13:03.5 14:13.9 15:24.7 16:36.1	
	2. ウインラム (豪)	18:55.4
	3. ボワトオ	19:10.7
100m平番外	1. ギャザコール (豪)	1:13.0
200m平	1. " (〃)	(1:17.3) 2:41.1
100mバ番外	1. ウイルキンソン (〃)	1:03.1
100バ	1. ピロン	1:07.0
	(仏新)	
200mバ	1. " (〃)	(1:10.1) 2:28.2
	2. ウイルキンソン (豪)	(1:10.8) 2:28.7
100m背	1. モンクトン (豪)	1:02.7
	2. クリストフ	1:03.9
	3. ヘイヤーズ (豪)	1:05.6

女子

100m自	1. フレーザー (〃)	1:01.7
	(世新)	
	2. コルクホーン (〃)	1:03.2
	3. クラップ (〃)	1:04.0
400m自	1. コンラッズ (〃)	4:59.8
	2. クラップ (〃)	5:03.1
	3. モーガン (〃)	5:05.4

○西独選手権 8/7~10 ゲルセンキルヘン (50m)

男子

100m自	1. フェール	57.2
	(西独新)	
	2. パウマン	57.6
200m自	1. ツィロルド	2:08.3
	(西独新)	
	2. ブリーケル	2:11.7
400m自	1. ツィロルド	4:39.4
1500m自	1. "	19:24.4
200m平	1. ボディングル	2:43.5

	2. トリョーゲル	2:44.3
200mバ	1. ウエーベル	2:32.0
	2. ロッテル	2:32.8
100m背	1. ミールシュ	1:08.9

女子

200m平	1. ウルセルマン	2:54.9
	(西独新)	

○東独選手権 8/8~10 ホルベルシュタット (50m)

100m自	1. グレゴール	59.2
400m自	1. エンゲルハルト	4:49.8
1500m自	1. クチュケ	19:26.5
200m平	1. エンケ	2:45.7
200mバ	1. シーベル	2:28.2

女子

200m平	1. レーマン	2:55.5
	2. ダンテ	2:58.2
	3. ウイルケ	2:58.8
	4. バイエル	2:59.7

○イタリ一選手権 8/上旬チューリン (50m)

100m自	1. プッチ	57.2
200m自	1. "	2:08.3
	(伊新)	
	2. ロマニ	2:10.6
400m自	1. ガレッティ	4:47.0
1500m自	1. "	18:48.8
	(伊新)	
200m平	1. ラザリ	2:44.2

○オランダ選手権 8/7~9 ハーグ (50m)

男子

100m自	1. ホフフェルト	58.2
	2. ウイレセム	58.2
400m自	1. "	4:45.2
100m背	1. デジョン	1:07.4

女子

100m自	1. フレーザー (豪)	(28.7) 1:01.2
	(世新)	
	2. ハステラールス	(30.4) 1:04.0
	(欧新)	
	3. クラップ (豪)	1:04.4
	4. サンダーソン	1:06.4
400m自	1. フレーザー (豪)	4:55.6
	2. コレラッズ (〃)	4:57.5
	3. モーガン (〃)	5:00.4
	4. コック	5:02.4
	(欧最高)	
	5. コステル	5:06.3 5:06.9
	6. デナイス	5:06.6 5:08.3
	7. シムメル	5:06.1 5:08.6

1500m自	1.	シムメル		20:10.5
200m平	1.	デンハーン	2:54.9	2:55.9
100mバ	1.	フォールバイ		1:13.5
	2.	ラヘルベルヒ		1:14.5
100m背	1.	デナイス		1:13.7
	2.	ファンベルゼン		1:13.9
	3.	トルースト	1:13.6	1:14.3

ジュニア

100m自	1.	コルクホーン(豪)	1:03.2	1:03.1
	2.	モーガン(〃)		1:04.7
100m背	1.	ドバー		1:14.4
	2.	ネルソン(豪)		1:15.7

○イギリス選手権 8/18~23ブラックプール(55y 塩水)

男子

110y自	1.	ブラック		58.3
	2.	マッケチニー		58.9
220y自	1.	ブラック	2:05.6 (英新)	2:07.2 (欧新)
440y自	1.	ブラック	4:31.0	4:28.4 (英新)
			1:03.0	2:12.0
				3:22.0

220y平	1.	ワルクデン		2:43.9 (英新)
220yバ	1.	ブラック		2:25.2
	2.	シモンズ		2:27.2
110y背	1.	サイクス		1:07.4

女子

110y自	1.	グリーンハム		1:06.8
	2.	ウイルキンソン		1:06.8
440y自	1.	ファーグソン		5:13.1
	2.	サムエル		5:13.5
220y平	1.	ロンズブロー		2:55.8
	2.	ダイソン		2:56.3
110yバ	1.	ワット		1:14.5
	2.	ゴスデン		1:14.8
110y背	1.	グリーンハム		1:12.9
	2.	ルイズ		1:13.6

ジュニア

110y自	ウイルキンソン		1:05.6
220y自	〃		2:26.4

○ハンガリー選手権 8/下旬 ブダペスト(50m)

100m自	1.	ドバイ		57.4
	2.	ボロス		58.0
200m自	1.	ドバイ		2:09.0
400m自	1.	カトナ		4:41.4
1500m自	1.	〃		18:24.4 (欧新)
200m平	1.	クンサギ		2:42.7

200mバ	1.	バルセギ		2:26.7
	2.	ツンペク		2:28.6
100m背	1.	マジャール		1:06.3

○その他の主な競技会

ブダペスト 7/中旬

100m自	1.	ドバイ		56.9 (洪新)
-------	----	-----	--	--------------

ベルリン 7/20

女子

100m平	1.	バイエル		1:20.3 (世新)
	2.	ワルター		1:21.5
200m平	1.	〃		2:53.1
	2.	レーマン		2:56.2
	3.	バイエル		2:56.4

ライプツヒ 9/12(50m)

男子

200m平	1.	エンケ		2:39.4 (世新)
	2.	マルク		2:42.5

女子

100m平	1.	バイエル		1:19.6 (世新)
	2.	ワルター		1:21.8
200m平	1.	〃		2:54.9
	2.	バイエル		2:55.4

ヨーロッパ記録

男子

100m自	56.1	P・プッチ(伊)	1958
200m自	2:05.2	標準記録	
400m自	4:28.4	I・ブラック(英)	1958
800m自	9:25.6	〃(〃)	1958
1500m自	18:05.8	〃(〃)	1958
400m継	3:47.4	ソ連(〃)	1958
		(ソローキン, ルシコフスキー, ニコラエフ, ポレボイ)	
800m継	8:27.1	〃	1957
		(ニコラエフ, ストルザノフ, ニキチン, ソローキン)	
100m平	1211.5	W・ミナシキン(ソ)	1957
200m平	2:39.5	L・コレスニコフ(ソ)	1958
100mバ	1:02.2	G・ツンペク(洪)	1958
200mバ	2:21.4	H・ツィロルド(東ド)	1957
100m背	1:02.9	R・クリストフ(仏)	1958
200m背	2:20.2	標準記録	
400m混	5:12.9	V・ストルザノフ(ソ)	1957
400m混継	4:16.5	ソ連	1958
		(バルビエル, ミナシキン, ジェネンコフ, ポレボイ)	

女子

100m自	1:03.7	C・ハステラールス(和)	1958
200m自	2:23.7	標準記録	
400m自	5:02.0	"	
800m自	10:44.2	V・ギエンゲ(和)	1953
1500m自	20:03.1	J・コステル(〃)	1957
400m継	4:22.9	オランダ	1958
(シムメル, ラヘルベルヒ, クラーン, ハステラールス)			
100m平	1:20.3	K・バイエル(東ド)	1958
200m平	2:51.3	A・デンハーン(和)	1957
100mバ	1:10.5	A・フォールバイ(〃)	1957
200mバ	2:45.0	標準記録	
100m背	1:11.9	J・グリーンハム(英)	1958
200m背	2:38.5	L・デナイス(和)	1957
400m混	5:49.0	標準記録	
400m混継	4:52.9	オランダ	

(デナイス, デンハーン, フォールバイ, ハステラールス)

中 共

○ソ連, 中共交歓 10/19, 20 北京(室内50m)

公認されない非公式の記録中特に注目すべきものを拾ってみました。大部分がリレーの記録ですが、実力の片鱗がうかがえると思います。自己の最高を上回っている記録のみに止めました。(坂本記)

丸内の数字は泳者としての順序を示す。

100m自由形

デビット(豪)	55.1	メドレー・リレー	
ブッチ(伊)	56.0	"	
ルシコフスキー(ソ)	56.2	400mリレー	②
ドバイ(洪)	56.2	メドレー・リレー	
フェール(西ド)	56.3	"	
シプトン(豪)	S×56.4	440yリレー	④
ボレボイ(ソ)	56.6	400mリレー	④
山中毅(日)	56.7	メドレー・リレー	
コンラッツ(豪)	57.0	400mリレー	②

200m自由形

コンラッツ(豪)	2:01.4	800mリレー	④
ブラック(英)	メ2:05.4	880yリレー	④
デビット(豪)	メ2:06.2	"	②
ブッチ(伊)	2:06.9	800mリレー	④
ウイルキンソン(豪)	2:07.0	"	②

100m自	1.	ルシコフスキー	57.1
	2.	ニコラエフ	58.3
100m平	1.	穆祥雄	1:11.7
	2.	ミナシキン	1:11.8
200m平	1.	穆祥雄	2:40.3
	2.	コレスニコフ	2:43.4
100mバ	1.	陳運鵬	1:04.3
	2.	ルシコフスキー	1:05.1
100m背	1.	バルビエル	1:05.4
200m背	1.	"	2:23.8
400m継	1.	ソ連	3:52.6
	2.	中共	3:58.0
400m混継	1.	ソ連	4:20.4
	2.	中共	4:25.8

○中共冬季競技会 12/20 北京(室内50m)

100m平	1.	穆祥雄	1:11.4
			(世新)

この記録はミナシキン(ソ連)の1:11.5を破る世界新記録であるが、中共はFINAを脱退しているので公認されない。

近藤国男(日)	2:07.0	800mリレー	③
ルシコフスキー(ソ)	2:07.6	"	③

800m自由形

カトナ(洪)	ラ	9:40.4	1500m
マクラクラン(南ア)	ラ×	9:44.1	1650y
ガレットィ(伊)	ラ	9:47.5	1500m
ラブリネンコ(ソ)	ラ	9:47.6	"

100m平泳

太田勝(日)	1:12.9	メドレー・リレー
吉村昌弘	"	"
クンサギ(洪)	1:14.5	"
ワルクデン(葉)	1:14.6	"
篠田博史(日)	1:14.6	"

100mバタフライ

石本隆(日)	59.6	メドレー・リレー
増永文昭	"	"
ウイルキンソン(豪)	1:01.6	"
ジェネンコフ(ソ)	1:02.7	"
パズディレク(チェコ)	1:03.0	"

100m背泳

モンクトン(豪)	×1:01.4	メドレー・リレー
----------	---------	----------

昭和33年度冬季定例代議員会議事録

期 日 昭和33年1月26日(日)

午前10時—午後6時

場 所 丸ビル精養軒

出席者

青森県水泳連盟	吉田正四郎	大村 圭二	福井県水泳協会	高木 治雄	橋本 礼次
秋田県水泳連盟	田松長次郎	内館 洋	三重水泳連盟	田村 正衛	
岩手水泳協会	瀬川 政雄		琵琶湖水泳協会	岡山 四道	中野 太郎
山形県水泳連盟	国井 薫	新穂 八郎		広岡徳二郎	
福島県水泳連盟	吉田 勝平	斎藤重千代	京都水泳協会	岩合 伝	
新潟県水泳連盟	奥村 健治		大阪水泳協会	木村 象雷	高昌 秋介
茨城県水泳連盟	多治見祐孝	中山 利生		川島 正之	
栃木県水泳連盟	浅川 三郎	田中 武男	奈良水泳連盟	重松 利生	浦井 保弘
	神山 富雄	長谷川俊雄	和歌山県水泳連盟	池田 岩夫	小山 幸雄
群馬県水泳連盟	池谷 君夫	津田 貞	兵庫県水泳連盟	石田 恒信	方 隆
	島本 長一			和田 幸八	原 剛中
埼玉県水泳連盟	高島 朗	伊藤 三郎	鳥取県水泳連盟	三好 喬	宮協 通明
千葉県水泳連盟	川名 正義	石井辰五郎	広島県水泳連盟	鎌田 寿夫	平田 晃
	広崎格五郎	松井 正一	島根県水泳連盟	須山 英伍	
	根本 日清		山口県水泳連盟	中田 清一	
東京都水泳協会	菊池 章	金田平八郎	徳島県水泳連盟	中山 健介	
	伊藤 謹平		愛媛県水泳連盟	鶴田 義行	
神奈川県水泳連盟	庄川 鉄治	鈴木 梧郎	香川県水泳協会	遊佐 正憲	香西 明
野尻湖游泳協会	高橋庄之助	西沢 達雄	高知県水泳連盟	大西 正男	藤尾恒九郎
	中村 義平		福岡県水泳連盟	高木 恒夫	堀 良輔
松本水泳協会	小林 高志	長沢 松雄		安永 弘	
山梨水泳連盟	石沢 羊一		佐賀県水泳協会	太田 勝	
	小倉 一浩		大分県水泳連盟	岡田 正一	安藤昭次郎
伊豆駿河湾游泳協会	小池 礼三	近藤 紳平	熊本県水泳協会	飯田 寿平	太田 茂幸
静岡水泳協会	宮崎安之助	伊藤 登	宮崎県水泳連盟	長 昭連	
浜名湾游泳協会	宮本 秀夫	井上 利夫			
	古橋広之進		委任状提出団体		
豊橋水泳協会	清川 孝雄		北海道水泳連盟	宮城県水泳連盟	
愛知水泳連盟	児玉 清雄	社本 義信	鹿児島県水泳協会		
	加藤 茂	志村 義久	欠席団体		
岐阜県水泳連盟	加藤 雄三	棚橋 隆嗣	岡山県水泳連盟	長崎県水泳連盟	
富山県水泳協会	須垣 久作	高田 秀男	沖縄水泳連盟		
	海野 幸喜	上田 助役	学生部会		
	梅崎 三郎		西本 竜三	太田 光雄	志村 義久
石川県水泳協会	阿部莊次郎	中上 正	石田 恒信	林 年松	平田 覚
	木村 俊隆	阿部由紀子	山崎桂一郎	大友洋太郎	渡辺 太郎
			岡本 進	佐藤 宏史	塚本利三郎
			松崎 友一	赤坂 三芳	長久 勝之
			森谷 智	藤沢 有	大渡 雅士
			武田 政明	小野寺 宏	河合 守久
			森 聖明	三原 淳雄	稻石礼二郎
			本 部	小山賢之助	小出 靖彦
					松沢 一鶴

佐々木 敦	沢田 武治	中尾 保
藤井正太郎	野村 憲夫	原 秀夫
外山 高一	奥野 良	渡辺寛二郎
高石 勝男	上野徳太郎	野田 一雄
山崎 辰雄	齋藤武五郎	白山源三郎
宮畑 虎彦	仁田順三郎	菊田 保孝
原 正一	勝村 肇	栗村 中丸
牧野豊一郎	串田 正夫	岩佐 道雄
鈴木 朝治	内藤 徹	小川 道郎
小野 四郎	村上 勝芳	赤樫 卓爾
柴原 恒雄	志村文一郎	金子 巍
鷗田 武		

議 事

劈頭、小山専務理事より本日は会長選任の重要議題があるのでその他の議事は成可く速く審議願ひ度い旨発言あり議事に入る。

1. 昭和32年度事業概要報告並昭和33年度事業計画

1) 総括事項(小山専務理事)

(a) 外国チームの招請並海外遠征に付き33年度に於ては、海外遠征はスケジュールの決定後招請があったので見送らざるを得ず、僅に水球チームをFISU大会へ派遣したに止った。水球チームのFISU派遣は成績は芳しくなかったが、アジア大会、ローマオリンピックに備えての貴重な体験を得た意味に於て成果を収めたと確信する。33年度に於ては既に御承知の通り、豪州チームを日本選手権に招聘する事となって居り、又ハワイよりケオ仲間記念大会に招聘されて居るので、之を受ける事となって居る。

(b) 中学校の競泳

32年度は日本選手権と同時にジュニヤーク講習会を開催し選手権の中で記録会を行った。今後もこの方式により大いに中学生の競泳の強化につとめたい。

ローマオリンピックを考える時中学生の強化の重要性はいうをまたず、中学校の強化こそ水泳の強化ともいい得ると考える。この様な見地から、水泳教室、通信競技等中学校関係の行事を中体連と提携して今後一層強力に推進する。

(c) 国民体育大会

33年度は富山県で開催されるが、富山県では宿泊設備が少い為秋季大会はオープン競技は一切取止めという事に決まった。

夏季大会は一応問題外となっているが、国体委員会の傾向より考えれば、今後、水球と飛込がオープン競技である限り早晚之を取止める気運が起るものと

考えられる。従而、本年度より、水球と飛込を府県対抗種目として行ひ事とし、之の得点は現状に於ては比重を軽いものとし、参加府県の増加をまって比重を漸次増加する事を考える事とし度い。

(d) 勤 労 者 大 会

33年度より、かねて各府県より御申出もあつた女子100mバタフライを追加し又之に伴ひ300mメドレーリレーを400mメドレーリレーに変更する事とする。従而、今後記録面に於ては300mメドレーリレーは除外する事とする。

(e) 勤労者大会並日本高校大会の開催地期日の決定

原案としては勤労者大会は8/30~31日野沢プール、日本高校大会は8/23~25日高知市営プールと考えているが、審議の上決定願ひ度い。

(f) アジア大会

アジア大会に於ては日本が大勝する事は自明であるので、我々はローマのオリンピックに備えて若い選手に冬期より練習させる事を主眼として候補選手を選び強化合宿を行つている。

選手団の役員は競泳、飛込で7名、水球2名と決まった。人選に付いては腹案はあるが未決定である。

2) 普及関係(白山委員長)

32年度行事は大略例年通りであり主要行事は下記の通りである。

日本泳法研究会 伊東温泉プール
水泳安全指導講習会 文部省と共催、全国8ブロック
日本泳法大会 天理プール
水泳指導検定会 お茶の水大学プール
国民皆泳週間 中央会場武蔵野市営プール
水泳指導者協会再発足 現在600名の会員を集めた。

33年度の行事予定は32年度と大体同様であるが、本年度特に行ひ度い事は、水泳指導者検定試験規格を決定し度い。又水泳事故、水泳場の数、学童の水泳能力、教員の水泳能力において全国的な調査を行ひ度い。加盟団体各位の御協力をお願いする。

3) 編 集(菊池委員長代理)

32年度は113、114合併記録号から、118、119合併記録号迄を発行した。33年度も120号を4月に発行し、爾後例年通り発行の予定である。引続き購読願うと同時に購読者を増加する様御協力願ひ度い。

4) 施設関係(小山専務理事)

(a) プール公認測量者は別紙の通りである。

(b) 東京都室内プールは4月30日迄に完成し、5月10~11日のアジア大会最終予選は何かこのプールで開催出来る様になる見込である。

(c) 機械審判器関係

機械審判器に付いてはヘルシンキオリンピックの際リッター氏との間に於て完成に付いて申合せし、メルボルンオリンピックの際には、リッターの考案による審判器を使用した。

アジア大会に於ては日本水連が永年研究した機械審判器を使用する事としている。之はデカトロンシステムで1コースに3個宛、9コースで27個の測定値を得る様準備している。

(d) 各地よりの要望により、小学校用プールのモデル設計図を作成し、各加盟団体に配布する予定である。

(e) 又近時盛んとなったプールの濾過装置に関する要請に応え、之の普及を計る為50万円程度のものを設計し各加盟団体に配布する予定である。

5) シンクロナイズド・スイミング関係(串田委員長)

昭和32年度に於ては、競技規則を作成し、之により技術並実施法の講習会を開催した。又8月14日第1回シンクロ日本選手権大会を東京目白プールに於て開催し、之の入賞者により、アメリカチーム日米交歓シンクロ競技会を競技会形式により開催した。歴史の浅い競技であるにも拘らず、技術の進歩向上には目覚しいものがある。

33年度に於ても行事予定は32年度と同じである。

シンクロ競技のルールは32年8月FINAの理事会で決定されるはずであったが、カナダの反対により、決まらなかった。従而、ローマオリンピックの際のFINA総会で決まる事となる見込である。之の原案はアメリカのルールであり、日本に於けるルールも之にならっている。最近の情報によればアメリカはルールの改正を考慮している由であるので日本としても之を参考とし、改訂せねばならぬと考えている。

6) 外国関係(小山専務理事)

安部委員長が社用にてロンドンに出張中であるので、小山専務理事が代行報告す。

(a) 33年度の国際行事は5月28~31日のアジア大会と日本選手権への豪州チームの招聘である。

(b) 豪州チームは本年度は英連邦のエムパイヤーゲームがウェールズのカーディフで開催されるので、その帰途日本へ立寄る事となる。

選手団は自由形5名、平泳、背泳、バタフライ各1名、計8名と監督、マネジャーで合計10名程度のチームである。

(c) 日米対抗

日米対抗はオリンピックの前年に開催するとの不文律があるにも拘らずアメリカより1959年は凡アメリカンゲームが開催されるので日米対抗は1958年に開催して欲しいとの提案を在アメリカの清川理事を通

じ連絡受けた。

之に対しては、日本としては1958年は、アジア大会があり、又国体を富山で開催する為、シーズンの前後が例年に比し各1週間短く、その間に豪州チームの招聘や、ハワイよりの招待もあり、スケジュールの編成に苦慮している処で、日米対抗は1958年にはとても開催出来ない何とか1959年に開催出来る様考慮願度き旨、清川理事を通じ回答した処、米国ではNSRの主張を入れ1959年に開催出来る様検討中である。

7) 医事救助法関係(小山専務理事)

英国にはLife Saving Societyが設立され大いに活動しているが、日本に於ける之の役割を果すものとして医事救助委員会を發展せしめたい。

競泳委員会とも連携して泳法の医学的解明を行うと同時に広く水泳の医事一般に付いて研究して行き度い。

8) 水球関係(小川委員長)

(a) 昭和32年度はFISU大会へチームを派遣したが、アジア大会への自信を得たという点に於て所期の成績を挙げた。

(b) アジア大会への準備としては22名の候補選手を決め、東大プールに於て合宿練習を行った。可成り強い練習を行ったが、選手一同元気である。3月一杯迄Y・M・C・Aプールに於て週2回の練習を行い、4月以降は東大又は新しい都の室内プールに於て合宿練習を行う予定である。

アジア大会は水球にとってはローマオリンピックへの予選会的な性格を持っているのでは非共優勝しなければならぬと考えている。目標はシンガポールチームに勝つ事である。

(c) 国体問題

水球は日本高校には相当の参加があるにも拘らず国体への参加は従来極めて少い。今回は府県対抗種目として取上げられる事となったので、奮って参加される様希望する。

(d) 強化関係

シーズンが経った後秋に合同練習を行い、新設室内プールに於て冬期大会を行う計画である。

9) 飛込関係(岩岸委員長代理)

(a) 32年度は日本高校、勤労者、国体共従来にない多数の参加を見た。各選手共技術的向上が目覚しい。9月14~15日にアジア大会最終予選会を行い、8名の候補選手を選んだ。

(b) 「飛込の知識」というパンフレットを作成配布した。本年も技術パンフレットを作成配布する予定である。

- (c) 32年度迄は都水協と協力して神宮プールに於て講習会を行っていたが33年度は地方の飛込の普及強化をはかる為、全国6カ所（浜松、長野、富山、呉、高知、八幡）に於て各5日間の講習会を開催する予定である。
- (d) 記録関係では、本年度より、高校の飛込10傑を制定する事とした。
- (e) メルボンの優勝者、米国のクロートワージー氏が、本年5月国務省のスポーツ使節として世界一周の途次、日本へ来訪されるとの連絡を受けている。
- (f) 32年度中部ブロック高校大会でオープン競技として飛込を行った。飛込関係者としては本年は更に各地区に於てオープン競技としてでも大いに飛込競技を行って頂き度、御協力を切望する。
- 10) 記録関係（栗村委員長）
- (a) 例年通り記録年鑑を発行した。32年度は平泳、バタフライの泳法改正があった為、之の関係の記録は一新した。
- (b) 通信競技
33年度第4回大会は中体連との共催により行う。要綱は下記の通りである。
- 期 日 8月31日（日）
競技時間 午後3時迄に終了
申込制限 1人1種目
申込方法 主管団体一括
申込期日 8月26日必着
通信方法 例年通り 朝日新聞社の通信網による。
尙9月中旬国体の開催日に表彰する関係上報告を期日に間に合う様必ず提出願ひ度い。
- 11) 競泳関係（北村委員長）
- (a) 全国ジュニャー講習会
32年度に初の試みとして全国の中学生より男子32名、女子25名を選び、日本選手権と併行して東京に於て講習会を開催した。
選手のみならず付添の先生の講習を合せて行い、大きな成果を得た。
- (b) 地方の強化合宿のコーチとして6名のコーチ派遣を行った。
- (c) アジア大会
アジア大会はローマオリンピックへの強化の第一歩と考え、候補選手も1、2位の記録保持者以外は高校生を主体とした若い人を選び強化合宿に於て練習する機会を与える事とした。
候補選手はフルエントリーの三倍の人数をとってある。
最終予選は5月10～11日に新設の東京都室内プール

に於て行ひ予定であり、候補選手以外に標準記録を設けて広く参加を求め最強チームを編成する方針である。

(d) 泳法改正に付き

平泳の泳法改正に付いてはシーズン初め混乱があった御迷惑をおかけしたがシーズンを終って見ると潜水泳法を脱脚し、正しい泳法とする事が強い選手を育てる事となるのを発見した。

(e) 33年度の強化方針

太田氏、古橋氏等メルボンオリンピックのスタッフと共にメルボルの経験を分析研究した結果、豪州の飛躍的な強化の理由は、1つにはプロコーチによる徹底的な指導であり、2つには年中をシーズンとして泳いでいる事であると考え。

この線に副い、日本の現状を考える時強化方針としては下記の方策を採る事とし度い。

①第一線の指導者の指導強化

プロコーチの成立しない日本に於ては選手を育成するのは各学校に於て選手を実際に掌握している先生方であり監督である。水連本部としてはこの第一線の指導者が活動し易い様に取計らう事が必要であり、又凡ゆる機会を利用して指導者の方々と懇談し、共通の問題として共々に考え実施する様にし度い。

又指導は従来ともすればカンを基礎とする独善的な方法もあったが、今後は自信の持てる指導理論が必要と考える。

②アジア大会の為に東京には室内プールが完成したので、明年からは1月に選抜選手の強化合宿を東京に於て行い、4月には室内選手権を開催する事とし度い。又地方に於てすら、温泉プールを利用し1月から泳ぐ事は出来るのであるから、各位に於かれても今後はシーズンの長期化を計る様協力願ひ度い。

(f) 水泳教室

32年度は2カ所で行ったが、33年度は7ブロックで行う等とし度い。本部より派遣するコーチは時期的に無理があるが出来るだけ派遣する様努力する。
全国ジュニャー講習会は大体昨年通りの基準で行うが、実質上は水泳教室を之の予選会として、充実を計り度い。

(g) アジア大会、合宿報告（太田委員）

1月4日より10月迄、東大プールに於て行った。男子は候補選手の中高校生のみ参加させ、女子は全員参加し合計45名で行った。冬の合宿とはいえ5000mを泳ぐ強い練習で成果をあげた。

12) アジア大会観覧券に付き (小出会計理事)

東京都室内プールは観覧席約3000であり、観覧券の売捌きは水連に一任されている。種別は28~31日の4日間各々700円指定席190枚、500円指定席1300枚、200円自由席1800枚である。売捌き方法としては各加盟団体よりの希望をつのり賛助会員にも便宜を計る事とし、且、プレイガイド前売並当日売りも致す事を原則として具体的には理事者に一任願ひ度い旨提案、諒承受く。

尙、アジア大会組織委員会より主競技場の観覧券の割当を受けているので御希望の向は申込まれ度い。

(註) その後アジア大会組織委員会より、水泳の観覧券は希望が多く、売捌きは水連に一任出来ず、組織委員会として相当数を保留するとの意向表明あり、現在具体的に折衝しているが各位の御希望数を充足し得ない状況となっているので不本意乍ら本部に於て割当を行う事と致します。悪しからず御諒承願ひます。

13) 33年度主要競技会要綱 (勝村常務理事)

原案を説明 (別途配布) 諒承受く。

日本高校大会 本年度のみの特例として高知に於て開催する。

勤労者大会 厚生省とは打合せの上、野沢に於て開催する。

国民体育大会 飛込、水泳を府県対抗種目とし、之の得点の比重は比較的小いものとする。

14) 以上に対する主なる質疑

(a) 国体関係

福岡——飛込、水泳を府県対抗とする事は趣旨は賛成であるが時期尚早である。

神奈川——時期尚早な事はない。寧ろ遅きに失した憾がある。

大阪——府県対抗とするのはよいが之の分野に対する地方強化を計れ。

奈良——女子の強化こそ急務である。国体の女子種目を一般と高校とに分ける様強力に推進せよ。

(b) アジア大会関係

大阪——アジア大会役員に出身者の多い地方のコーチを入れよ。

(c) その他

岩手——冬期合宿は岩手県に於ては例年実施している。

15) 会計報告予算

小出会計理事より報告、監事の承認証言を得て原案通り承認を得た。

2. 副会長並評議員に関する件

千葉県水連より水連も大きな組織となったのであるから副会長制を設け運営の円滑化を計っては如何かとの提

案があったが、専務理事より、会長を選任後新会長下で考えて貰う事とし度い旨回答、諒承を得た。

又評議員の推薦も受けているが、本件も新会長に裁断願う事とし度い旨提案諒承を受く。

3. 会長推戴に関する件

小山専務理事より下記の説明、提案があった。専務理事就任以来の公約として規約改正を行う事を考えて来たが、会長不在の折規約改正を行う事は行き過ぎのきらいがあると考えるので規約改正は見送る事としたので御諒承願ひ度い。

現行規約に於ては、会長推戴は代議員会の決議によるとあるみので今回の会長推戴に当ってもこの点に関し専務理事として非常に苦慮した。即ち、代議員会の決議によると云っても、候補者をあげ甲論乙駁すべき問題ではなく、又若し敢えて之をすれば、候補者に非常な御迷惑をお掛けする事になる。

この様な見地から、専務理事としては本日の代議員会に於ては各ブロック並学生部会、顧問評議員より夫々連絡員を出して頂き、この方々で推薦委員会で具体的候補者を決めて改めて代議員会に諮る事とし度い。

この方法に付いては既に常務理事会、在京理事会、在京代議員会、顧問評議員会と現在水連の機構としてある各会議に提案し、御諒承を得てきた。

会長推戴こそ、現在の水泳連盟の最大急務である事は言を俟たぬ処であり、その方法としては上記の方法が現状に於ける最良の方法と考えるので、この方法により1日も早く新会長を推戴出来る様協力願ひ度い。

専務理事の上記提案に対しブロックとは便宜的なものであり、会長推戴の母体とはならぬ (東京) 推戴委員会の構成は各ブロック2名とせよ (中部並近畿) との質問、提案があったが、結局原案通り承認され下記の推薦委員が選出された。

北海道東北	吉田勝平氏	関 東	小林高志氏
中 部	古橋広之進氏	近 畿	木村象雷氏
中 国	鎌田寿夫氏	四 国	鶴田義行氏
九 州	村上勝芳氏	評議員	仁田順三郎氏
顧 問	野村憲夫氏	学生協会	西本竜三氏
理 事 者	小山専務理事	小出会計理事	

直ちに第回推薦会委員を開催し、下記の方針により会長を推戴する事を決め、代議員会に報告諒承を得た。即ち、会長候補としては

(a) 東京在住の方である事

(b) 水連の関係者である事 (顧問、評議員、代議員、理事の在京者)

(c) 両当事者がかえって御迷惑であろうから今回は候補者としなない。この原則により出来る丈早く候補者を決め、改めて代議員会に諮って推戴する事とし度い。 以 上

順位 氏名 所属 決勝 準決 予選

池田 芳文 天理 2:21.3 2:18.0

400m 自由形 (Free-style)

1	古木 輝己	臼杵	4:38.6	4:51.2
2	梅本 利三	五条	4:40.8	4:45.4
3	庄司 敏夫	安房一	4:46.8	4:52.3
4	中坊 昌美	伊都	4:47.4	4:52.8
5	島田 勇次郎	法政二	4:49.6	4:54.1
6	一色 譲	日大一	4:52.0	4:54.0
7	阿部 紀夫	法政二	4:53.4	4:52.6
8	越智 静雄	今治北	4:53.4	4:53.8
	竹林 功男	天王寺		4:55.5
	竹本 昭和	高知商		4:56.2
	奥田 圭三	柳井商工		4:56.6
	吉村 喜平	諫早商		4:54.2
	国分 通男	法政二		4:54.4
	浦 満広	八幡西		4:57.4
	田中 正紀	宇和島南		4:57.8

1500m 自由形 (Free-style)

1	中坊 昌美	伊都	19:01.6	19:30.6
2	古木 輝己	臼杵	19:17.6	19:09.0
3	島田 勇次郎	法政二	19:18.5	19:25.4
4	越智 静雄	今治北	19:26.8	19:29.6
5	松木 登八郎	三藩	19:32.2	19:46.0
6	庄司 敏夫	安房一	19:32.5	19:25.2
7	阿部 紀夫	法政二	19:34.2	19:36.4
8	吉村 喜平	諫早商	19:53.0	19:44.5
	奥田圭三	柳井商	19:49.3	佐原年明 浜松西 19:53.8
	大森国臣	中京商	20:03.8	浅野純孝 修道 19:48.6
	浜崎勝之助	宇和島東	19:56.2	竹林功男 天王寺 20:00.6
	一色 譲	日大一	20:02.9	浦 満広 八幡西 20:02.9

100m 平泳 (Breast-stroke)

1	宮本 英山	鹿	1:15.6	1:16.2	1:16.0
2	中村 昌彦	宇和島東	1:15.9	1:16.5	1:17.7
3	松浦 正恒	〃	1:16.9	1:16.2	1:16.6
4	和気 統	瀬戸田	1:16.9	1:17.4	1:18.2
5	中川 清	愛知学	1:17.8	1:18.0	1:18.5
6	重松 盛人	今治北	1:18.4	1:18.0	1:17.5
7	池田 善次郎	松山東	1:19.2	1:18.4	1:18.8
	衛藤 孝	臼杵		1:18.5	1:18.9
	野々村 嘉昭	長良		1:18.7	1:18.4
	東 英明	熊本		1:18.8	1:18.9
	樋口 裕	高知商		1:19.2	1:17.3
	高木 憲一	五条		1:19.7	1:18.2
	西口 寿悦	福知山商		1:19.7	1:17.5
	鈴木 吉孝	玉名		1:19.8	1:18.8

順位 氏名 所属 決勝 準決 予選

200m 平泳 (Breast-stroke)

1	中村 昌彦	宇和島東	2:46.7	2:52.2	2:50.5
2	和気 統	瀬戸田	2:47.4	2:49.1	2:48.8
3	中川 清	愛知学院	2:48.8	2:50.4	2:51.0
4	宮本 英山	鹿	2:49.0	2:52.4	2:47.7
5	野々村 嘉昭	長良	2:50.2	2:51.8	2:51.0
6	重松 盛人	今治北	2:52.0	2:51.8	2:49.6
7	松浦 正恒	宇和島東	2:52.4	2:52.4	2:52.1
8	黒塚 正機	姫路工大附	2:53.4	2:52.4	2:51.5
	東 英明	鹿本		2:52.5	2:50.2
	高木 憲一	五条		2:58.5	2:49.9
	岡田 泰憲	東筑		2:58.5	2:53.2
	衛藤 孝	臼杵		2:58.5	2:52.1
	樋口 裕	高知商		2:53.4	2:51.9
	泉 喜六	山鹿		2:53.8	2:52.0
	木村 智彦	掛川西		2:56.4	2:53.2
	川辺 富久	鶴見工		2:56.8	2:52.0

100m バタフライ (Butterfly-stroke)

1	武市 啓志	高知	1:04.6	1:04.9	1:04.5
2	小戎 紀一	佐伯鶴城	1:05.4	1:05.8	1:06.6
3	毛越 清	臼杵	1:06.6	1:08.0	1:06.8
4	中島 功	鹿本農	1:06.8	1:06.6	1:06.5
5	渡辺 春男	安房一	1:07.4	1:07.8	1:08.5
6	岩岡 祐一	天理	1:07.8	1:07.8	1:08.4
7	金城 孝彦	中京商	1:07.8	1:07.6	1:09.6
	岩本 光司	堀川		1:08.1	1:07.4
	村上 国広	三藩		1:09.8	1:09.2
	近藤 正博	観音寺一		1:10.1	1:08.6
	中村 正治	浜松商		1:10.1	1:09.6
	鈴木 竜藏	中大杉並		1:08.6	1:08.0
	三好 恭弘	土佐		1:09.7	1:09.6
	福田 正敏	山口(定)		1:10.8	1:10.3

200m バタフライ (Butterfly-stroke)

1	武市 啓志	高知	2:28.1	2:29.8	2:25.7
2	岩本 光司	堀川	2:30.0	2:29.6	2:33.6
3	中島 功	鹿本農	2:30.0	2:29.5	2:31:0
4	中村 正治	浜松商	2:31.4	2:32.3	2:31.9
5	小戎 紀一	佐伯鶴城	2:34.2	2:33.7	2:31.2
6	三好 泰弘	土佐	2:34.6	2:32.5	2:30.6
7	丹羽 勝治	浜松北	2:35.3	2:34.6	2:37.9
8	岩岡 裕一	天理	2:35.7	2:34.4	2:35.5
	渡辺 春男	安房一		2:39.6	2:38.0
	毛越 清	臼杵		2:42.2	2:37.4
	佐古 紀義	修道		2:43.5	2:43.0
	丸谷 良介	天王寺		2:43.5	2:38.5

自1月1日
至12月31日

昭和33年度会計予算書

日本水泳連盟

収入の部		科目	支出の部	
32年度決算額	予算額		予算額	32年度決算額
		経常費の部		
3,000,000	3,000,000	前期繰越積金		
	3,944,939	前期繰越金		
93,000	200,000	加盟分担金	15,000	
260,000	200,000	プール公認料		
178,360	200,000	「水泳」誌其他売上		
4,250,000	4,800,000	賛助金		
480,842	520,261	雑収入		
	184,800	未収入金		
		未払金	115,000	
		借室料	510,000	695,914
		人件費	1,000,000	915,570
		什器備品	400,000	57,800
		会議費	1,000,000	943,366
		会合費	300,000	229,704
		交通宿泊費	300,000	256,650
		「水泳」印刷費	600,000	590,115
		印刷費	600,000	306,886
		通信費	400,000	358,524
		雑費	150,000	120,000
		後期繰越積金	3,000,000	3,000,000
		後期繰越金	3,210,000	3,944,939
	13,050,000	経常費合計	11,600,000	
		事業費の部		
100,000	100,000	プール使用料	1,000,000	946,030
		競技用品費	300,000	138,000
		強化関係	1,000,000	265,545
		シニア指導会	250,000	241,500
		水泳教室	200,000	219,948
		水球関係	150,000	520,337
		飛込関係	250,000	96,100
20,000	20,000	普及関係	150,000	127,931
		シンクロ関係	250,000	244,793
		通信競技	20,000	20,800
2,322,780	6,000,000	日本選手権 (選手招聘を含む)	3,000,000	665,189
		日本高校大会		10,000
92,000		全国勤労者		92,500
184,500		全国体関係		184,380
		アジア大会関係	1,000,000	64,900
	6,120,000	事業費合計	7,570,000	
	19,170,000	合計	19,170,000	

昭和33年夏季定例代議員会議事録

日時 昭和33年8月16日(日)午前9時

場所 明治会館

出席者 加盟 51団体中 38団体出席

(議事)

樋口会長を議長に選出す

会長より人事更迭に付き報告

1) 専務理事交替の件

小山賢之助氏が6月末大正海上火災の取締役人事部長に就任され辞意を表明された。之は認めざるを得ない。

後任としては常務理事会並全国理事会の議決を経て会計理事小出靖彦氏を選出した。

後任の会計理事には常務理事志村義久氏を選出した。

2) 学生部会長交替の件

西本竜三氏が一身上の都合で辞任されたので樋口会長が兼任する事となった旨報告。

小山前専務理事挨拶

このたび一身上の都合により専務理事を辞任致しました。在任中の御協力に感謝すると共に今後共宜しく願度旨きの挨拶あり。

小出新専務理事挨拶

小山専務理事の後を受けて専務理事を引受けることとなったが前任者同様宜しく願度し、前任の小山専務理事が非常に熱心に当られたが私も誠心誠意事に当り度いと考えているので宜しく願度し。

志村会計理事挨拶

水連伝統の健全財政をモットーとして運営し度いと考えている。宜しく御願致し度い旨の挨拶あり。

小出専務理事より下記の通り報告あり。

1) アジア大会

アジア大会については全力を挙げて準備し競泳、飛込、水球共数次に亘り合宿を行った。

成果は新聞紙上に御承知の通り完勝であり新記録も数々出た。

選手団の能率もよく東団長より絶讃を博した。アジア大会を運営し現理事会としては

第一に新会長を迎えて現スタッフで運営できるとの自信を持った。

第二に全国の加盟団体より完全なる御協力を得、水連という組織の偉大さを今更ながら感じた。

第三にシーズン初めに拘らず好成績を挙げることができ、従来シーズン外と考えていた期間も活用できることを感じた。

2) ロサンゼルスとハワイ大会

最初はハワイよりケオ・ナカマ大会への指名招待であった。この大会はその性質から単なる祭ともいえるものであるが却って調子をこわしてはとの議論もあったが、偶々ロサンゼルスからの招聘があり、水連としては強化という意味で之に主力を置き第一線の選手を送ることとし、アジア大会の結果から選考することにした。

高松嬢については、ハワイからの要請により、派遣することとなった。シャベロンは先方でつけるから1人で来てくれということが、問題となったが、国際試合の経験を得させるため敢て派遣した。

このチームはO・Bと現役とが一しょになっているので多少心配したが杞憂に過ぎず、御承知の様に立派な成果を改めた。

この遠征によりアメリカもあなどるべからざる力を持っていることを再認識させられた。16~17才の若い選手が輩出しており、ローマでは可成りの活躍をすであろうことが予想される。

3) 豪州チームの招聘

現在行われている日本選手権に豪州チームを招聘しヘルシンキ以来喧伝された豪州チームの実力を目の当り見ると共に監督プロコーチとの懇談を行って彼等の持っているものを吸収することに努めることにした。

彼等の練習並レースを見て我々も亦彼等の水準に到達し得るとの感を深くし、負け惜しみでなくローマにおける再会の際には彼等を脅すものは我々であるとの自身を持った。

勿論、このためには飛躍的な努力が必要であり、加盟団体各位の御協力を得て万全の努力をなしたいと思う。

4) 強化方針

メルボルン以後、水連としては大切な時に2年間のブランクがあった。

この間に世界においては16~17才の選手が輩出している。我が水泳界の実情は選手層の厚いことは正に世界一であるが、第一線のレベルが低い。

このため、集中的な英才教育が必要であり、又若い選手を育てるために水泳手帳を設け、医療におけるカルテの役割を果させるようにし度い。

競泳については、中学生、高校生、大学生、O・Bの4層に分け夫々の層を専門に担当するコーチを設け強化を行いたい。

又、短距離が殊に弱体であると思うので、短距離に専門コーチを設け、強化を計りたい。

東京都屋内プールが完成したので室内の大会を行いたいと思う。

更に肝要なことは地方において実際に選手を握っておられる指導者との意思を今後更に努めて行きたい。

飛込、水球に付いては各委員長より強化方針を説明することにし度い。

各委員長報告

1) 競泳 北村委員長

アジア大会においては各選手が非常に頑張っており予期以上の成果を収めた。各位の御協力に対し謝意を表する。

現在豪州チームを迎えて日本選手権を開催し、更に八幡、大阪の両大会を控えているが、彼等を見て専務理事と同じくやれば彼等を追い抜くことができるの感を深くしている。

強化方針について専務理事から発表のあった通り集中的な方法により行いたい。

冬と春には室内プールを利用し、中学生、高校生を主体とする強化合宿を行い、室内選手権を実現したい。豪州チームを迎え、彼等の泳法を科学的に分析するため、泳法撮影を行い、又プロコーチも来ているので彼等との座談会も開催し、彼等の持っている技術、知識の習得に努めることとする。

2) 飛込 柴原委員長

①本年は長野、浜松、富山、高知、呉、福岡等飛込施設のある処で地区指導会を行った。地元の御協力を得て盛会裡に終始したことを感謝する。

②クロートワシーがきて実技と座談会によりコーチ

を受けたが、彼の見る場所はわれわれのかねて気のついた点でもあるが、日本の飛込はシーズン中だけの練習に終わっているため、基礎的な練習が不足しているとのことであった。この点に鑑み、4月頃室内の飛板だけの基本種目の選手権を行いたいと考えている。

又、冬季中の体力の養成についても充分留意し、指導して行きたいと思う。

地方の指導も漸次充実させていき度いと考えているので、今後共、御協力をお願いし度い。

3) 水球 小川委員長

アジア大会には、幸にして優勝でき、オリンピックへの道が開かれたが、オリンピックにおけるアジアの実力は低く、更に一段の飛躍が必要である。

水球委員会の全力をあげてF・I・S・Uと、アジア大会の経験を生かし、基本的な指導から充実した実力の養成を計りたい。

現状では社会人になると選手を止める者が多いが、今後はO・Bでチームを組織し、円熟せる選手の養成にも努め度いと思う。

本年度より国体でも得点種目となったので、大いに参加されることを期待している。

4) シンクロ 串田委員長

本年もアメリカチームを迎え、対抗形式により交歓競技を行った。

彼我の実力にはまだ差はあるが、その差は漸次せばまりつつある。

水泳を楽しむという点においてシンクロは大いに効果があると信ずるので、各位の御協力を期待したい。

5) 記録委員会 栗村委員長

①通信競技に対し協力を要請する。

②競泳規制則の改正に伴い、日本記録の取扱いを改正した旨の報告あり。

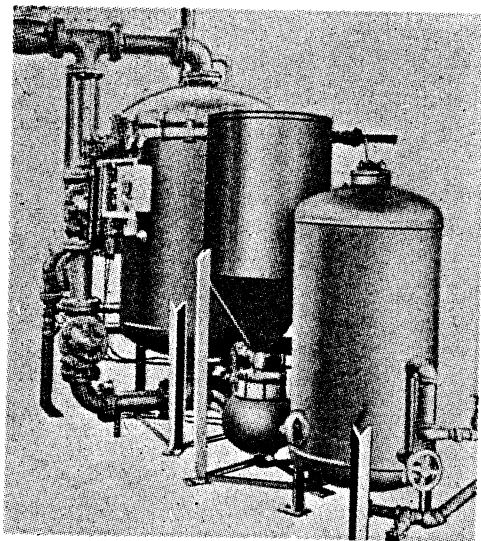
豪州水連名譽主事フィリップス氏より、今回の招聘を感謝し、日頃尊敬する日本水泳界の諸氏と一堂に会し懇談できることを欣快とし、今後共々に世界水泳界の発展に寄与したい旨の挨拶あり。競泳規則の改正を附議、別途報告の通り可決する。 以上

日本水泳連盟 機関雑誌	昭和34年1月20日印刷 昭和34年1月25日発行	定価(年4回発行) 1年分¥300.- (予約申込者に限り頒布) 1ヶ月前金予約は郵送料不要。
水 泳	日本水泳連盟	東京都千代田区丸の内2-2 丸ビル722区
第121・122号	編集兼 発行人 宍道洋一 印刷所 株式会社 成島印刷所 東京都中央区日本橋本石町3の4 電話日本橋(24) 1701・6509・7082	発行並 申込所 日本水泳連盟 電話和田倉(20)3090・4885番 振替口座東京5.178番

近代水泳プール循環処理浄水装置

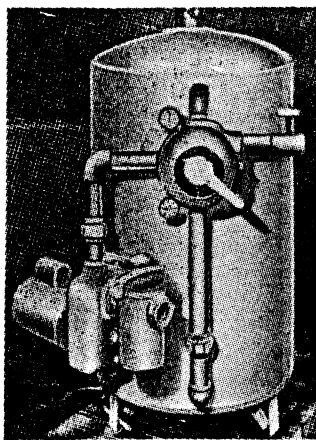
全自動式
及
半自動式
(特許出願中)

競泳プール用
娯楽プール用
学校プール用
自家用プール用



最も合理的の
経済敷設にして
維持管理は
最も容易であります

幾多の経験に基づき各装置は夫々巧妙な設計であります
製造は弊社専属工場の責任ある製作であります
御計画に対し我社の経験は各々最も経済的な誤りの無い敷設を提供致します



新型プール用濾過機(手働式)

弊社独特の単一操作弁つき

株式会社 水処理センター

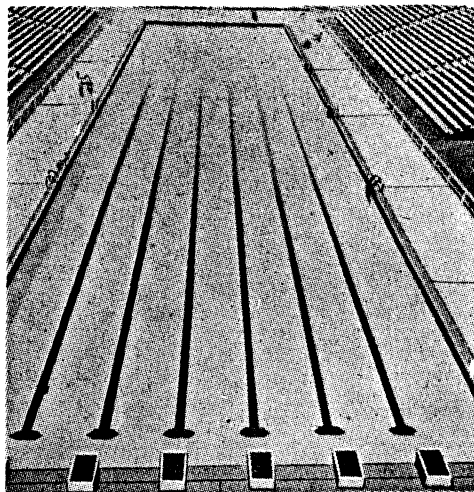
東京都大田区南千束町三一六番地
(工業大学の東南徒歩五分)

電話 (78)-9352 (56)-1596

製作場 東京都江東区深川枝川町二ノ六

電話 (64)-0276

配管系統の設計
も致します
工事も致します

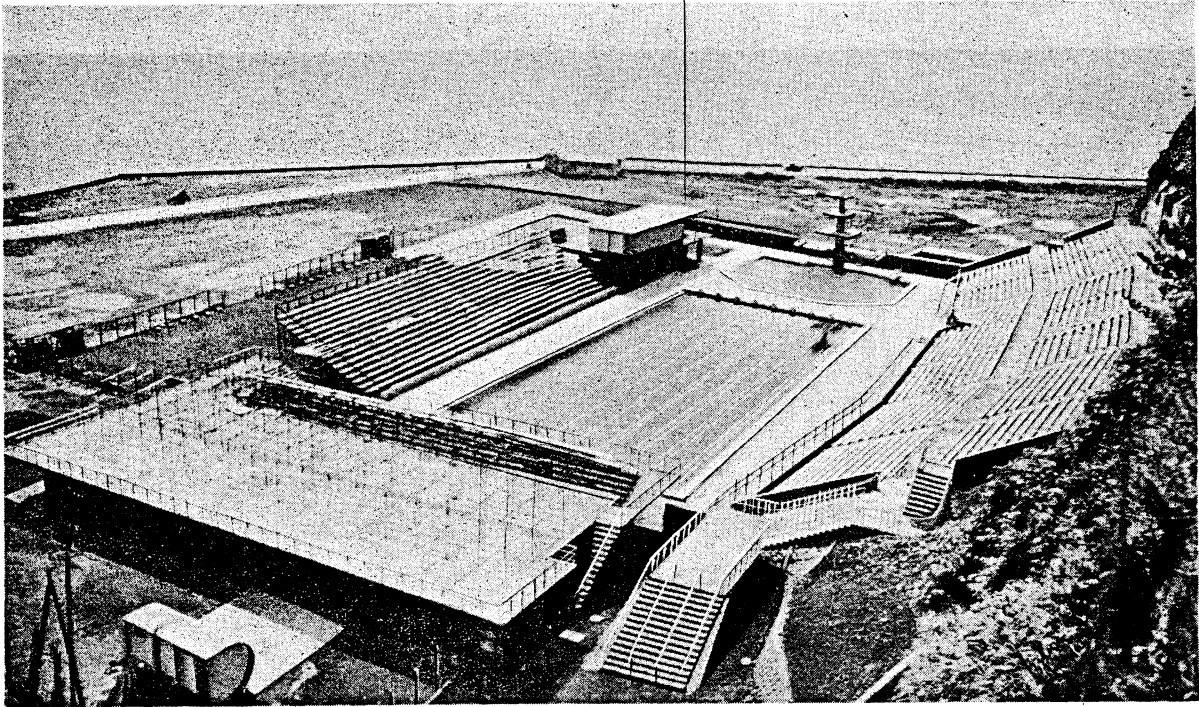


循環水は其の衛生的な純度を維持し得るターンオーバーに基づいて完全に確保されて居ます

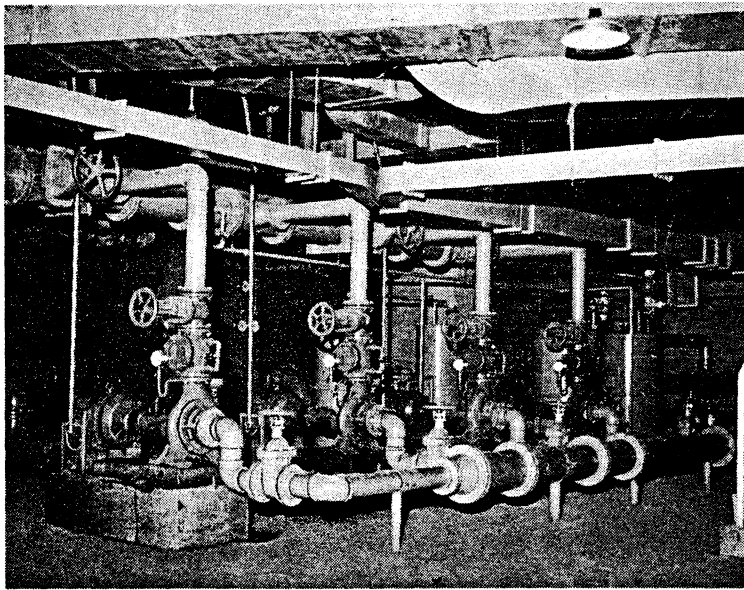
競泳プール用 最新型循環浄化滅菌装置 設計, 施工

50Mプール及25Mプール、徒渉プール、娯楽プール、
温泉プール、戸外プール及屋内プール用
塩素滅菌圧入式・硫酸銅液比例圧入式・急速濾過循環式

循環浄化装置はこの建物の地下室



TURN-OVERS プール容量の循環換水は少くも24時中3回であります。しかも薬品自動注入方式による急速濾過機を経て完全に滅菌し、且又アルゼーの発生を防止した完全な浄水が循環致します。依つて水泳者は清浄な水の中で安全に快く泳げます。(写真は鎌倉市営プール)



アジア大会使用
東京都室内プール循環浄化滅菌装置

最近の工事施行実績	其他 米軍基地
鎌倉市営プール	アジアABプール
立教小学校プール	相模原プール
富士銀行済美山プール	高畑山プール
水産大学プール	沖縄カンダプール
茨城県営プール	岐阜プール
宮城県立第一女子高校	芦屋プール
第一生命保険株式会社	白井プール
鳥山プール	上瀬谷プール
第一銀行瀬田プール	横須賀プール
富山県営高岡プール	硫黄島プール
東京都室内プール	追浜プール
宇部市営プール	其他
慶応大学幼稚舎プール	

東工業株式会社

本社 東京都港区芝白金台町2ノ34
電話白金(44)2161・2162・2163・2164・2165・9746(経理)
工場 港区・目黒区

大阪営業所 大阪市西区靱上通1ノ35
電話土佐堀(44)2657番
九州出張所 福岡市古溪町3
電話東(3)5507番